

6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 7

熊本高等工業學校一覽

自大正六年  
至大正七年

始





292-44



# 熊本高等工業學校一覽

## 目次

○熊本高等工業學校平面圖

北校舎、南校舎  
土木工學科標本室、全標本道路  
機械工學科實驗工場、全分析室  
探鑛冶金學科試金室、全分析室

○學一年曆

○沿革畧

○本校ニ關スル法令

文部省直轄諸學校官制(抄)

文部省直轄諸學校職員定員令(抄)

直轄諸學校長職務規程

專門學校令(抄)

實業學校令(抄)

實業學校教員養成規程(抄)

文部省直轄實業專門學校委託生規程

同一人ニシテ文部省直轄諸學校中ノ二箇以上ノ學校ニ入學ヲ出願シタル者ノ入學方

目次

大正  
6. 8. 15  
内交

一七 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 九



文部省直轄學校生徒他ノ文部省直轄學校ノ入學試驗ヲ受クルノ件 一七

文部省直轄學校外國人特別入學規程 一七

臺灣人並朝鮮人ノ特別入學ニ關スル件 一九

本校卒業者ニ關スル認定 一九

篤志者ノ寄附 一九

熊本高等工業學校規則 二五

各學科目ノ教旨及教授要項 四三

入學者心得 九〇

入學手續 九二

學生ニ關スル諸規程 九二

科長及監督教官規程 一〇一

成績考查細則 一〇一

外國人特別入學生細則 一〇二

圖書閱覽規程 一〇五

寄宿舍規程 一〇六

寄宿舍寄宿料徵收規程 一〇七

級長規程 一〇八

製圖室並學生控所委員規程 一〇九

學生服裝規程

學生校外實修心得

職員

設備及經費ニ關スル諸表

土地、建物、各種機械及標本、各學科實驗用主要機械、機械工學科工場用主要機械、採鑛冶金學科工場用主要機械、圖書、經費

學生生徒及卒業生ニ關スル諸表

學生生徒數、學生年齡比較、學生生徒父兄職業別、入學志願者入學者數、學生ノ學資及諸入費、學資給費貸費學生調、卒業生數、卒業生職業別、在學生並卒業生地方別、卒業生死亡者調、中途病氣退學者調

學生生徒氏名

卒業生氏名

卒業生氏名索引

附屬工業夜學校規則

全細則

諸書式

入學志願者心得

附

工友會會則

工友會計事務取扱細則

一三二

一四五

一五五

二〇一

二二〇

二二九

二三三

二三九

四一

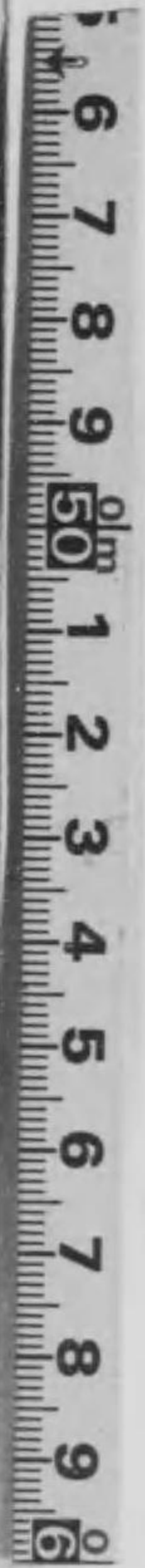
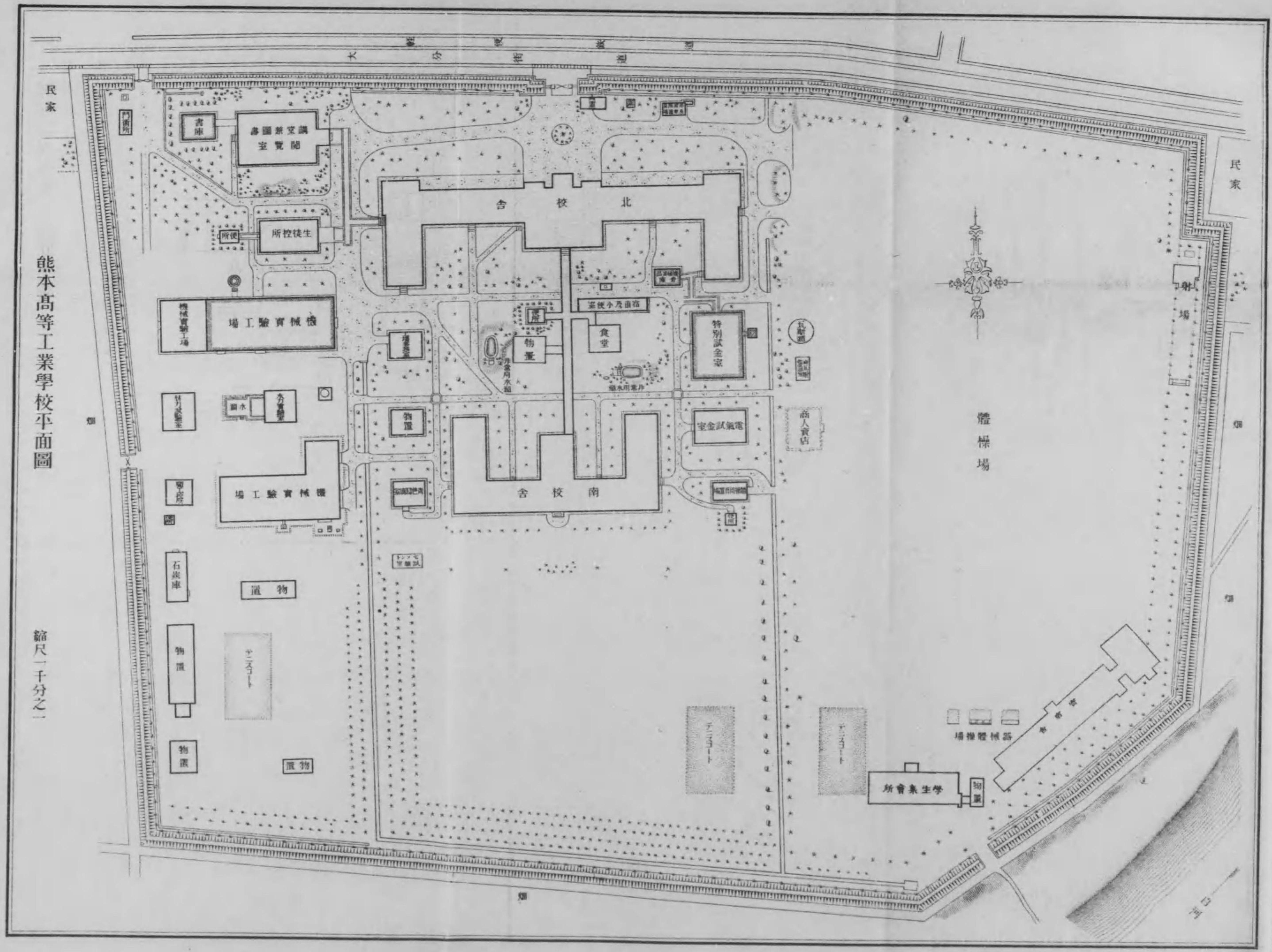






熊本高等工業學校平面圖

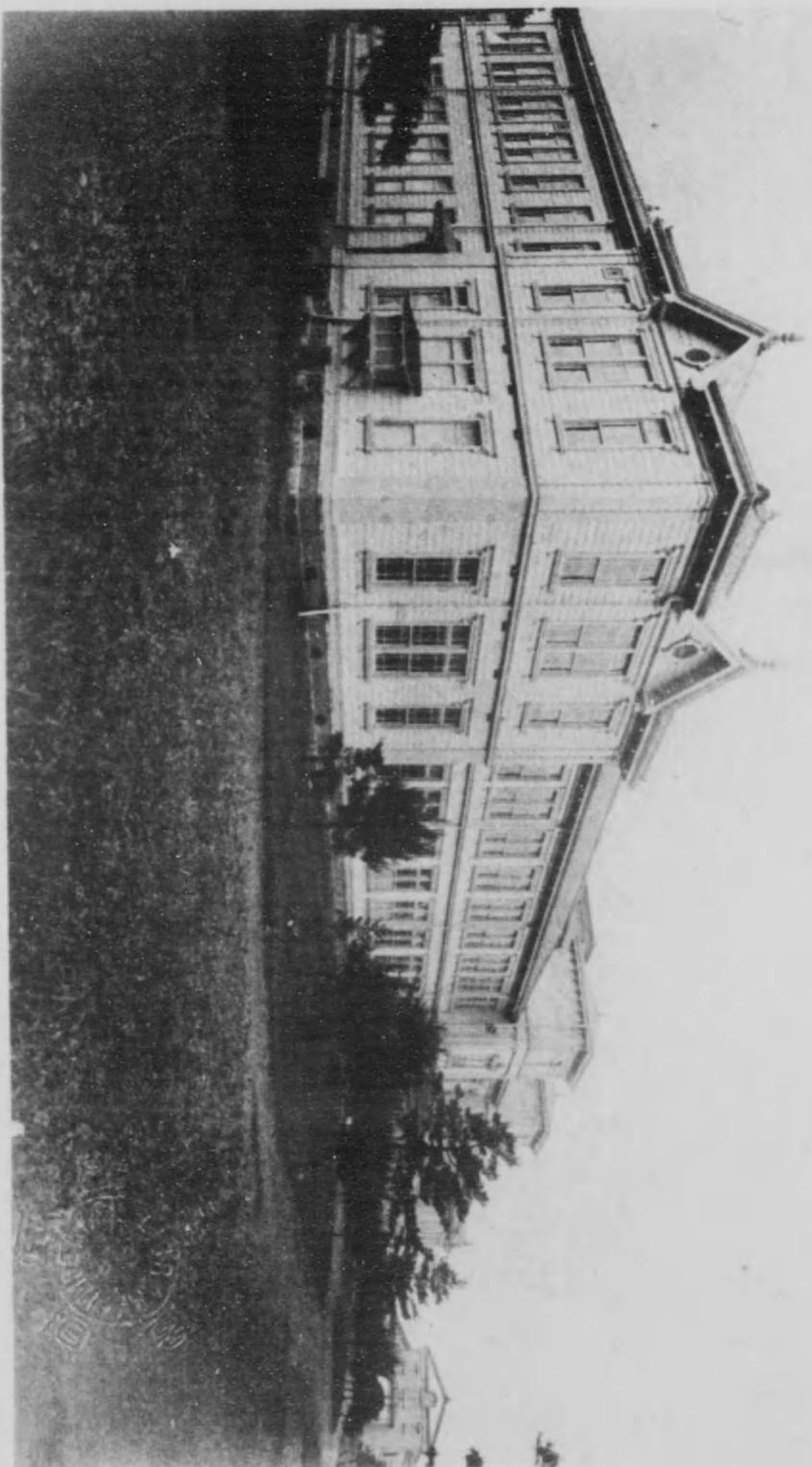
縮尺一千分之一



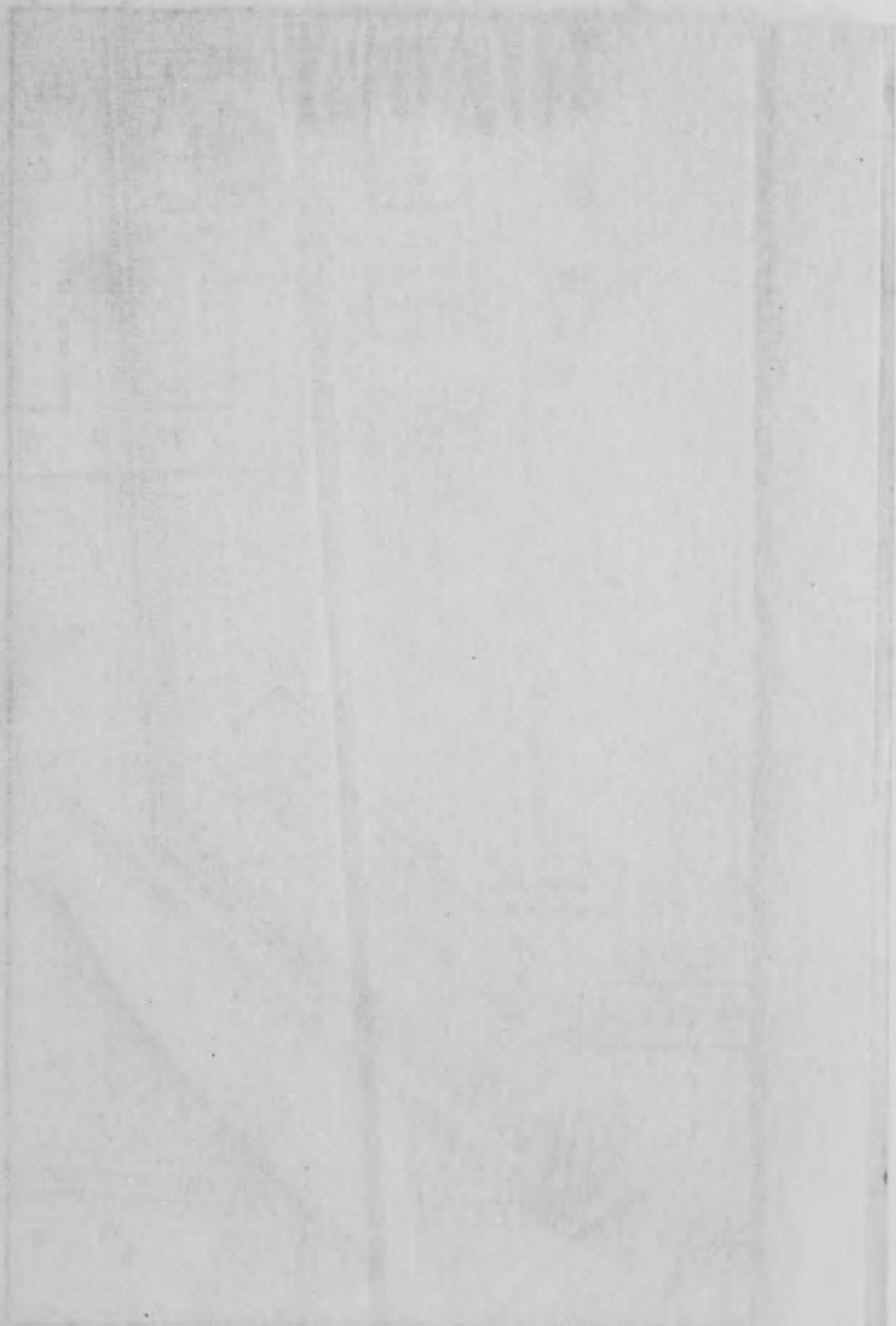




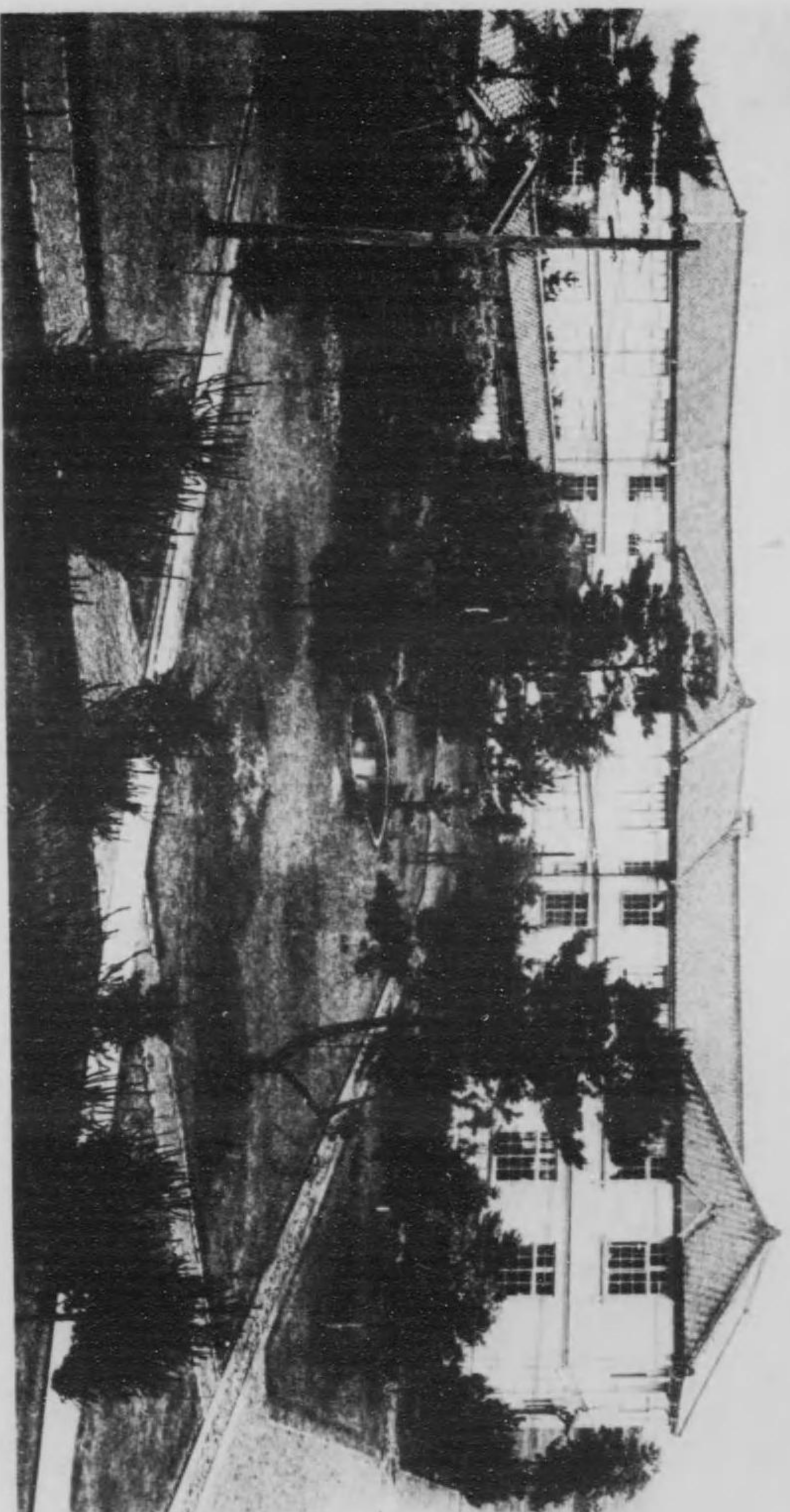




北 校 舍

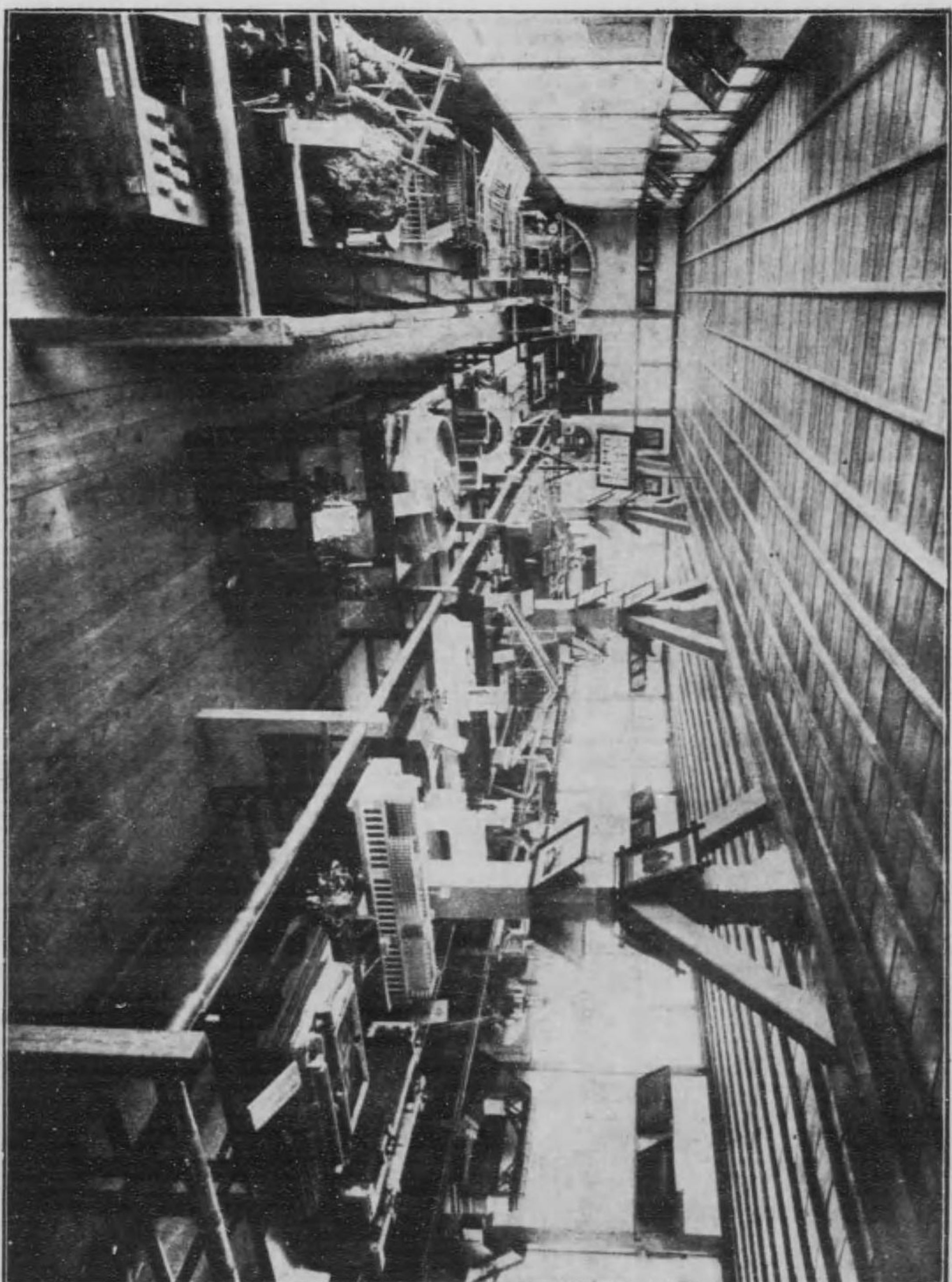






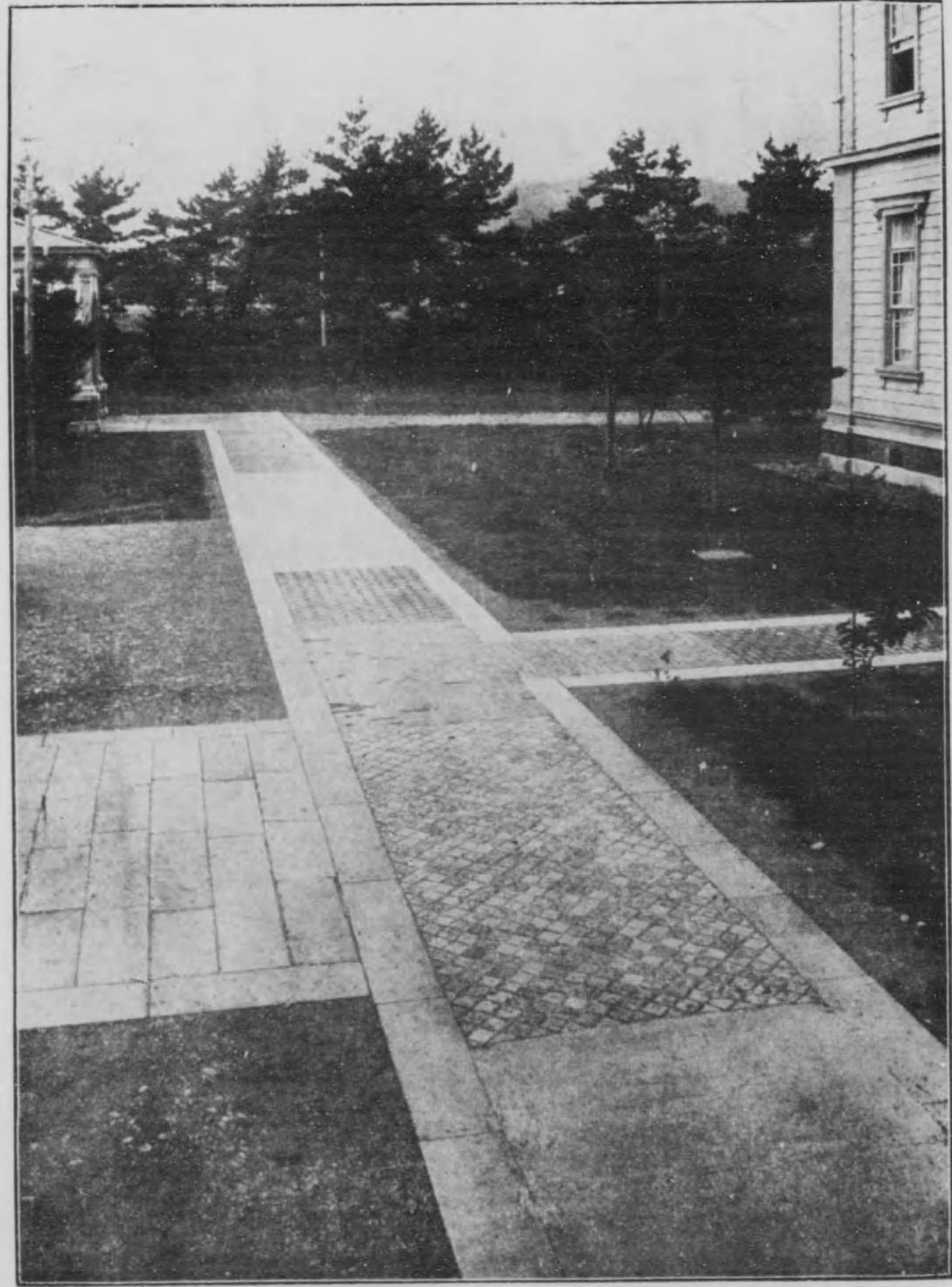
南 校 舍





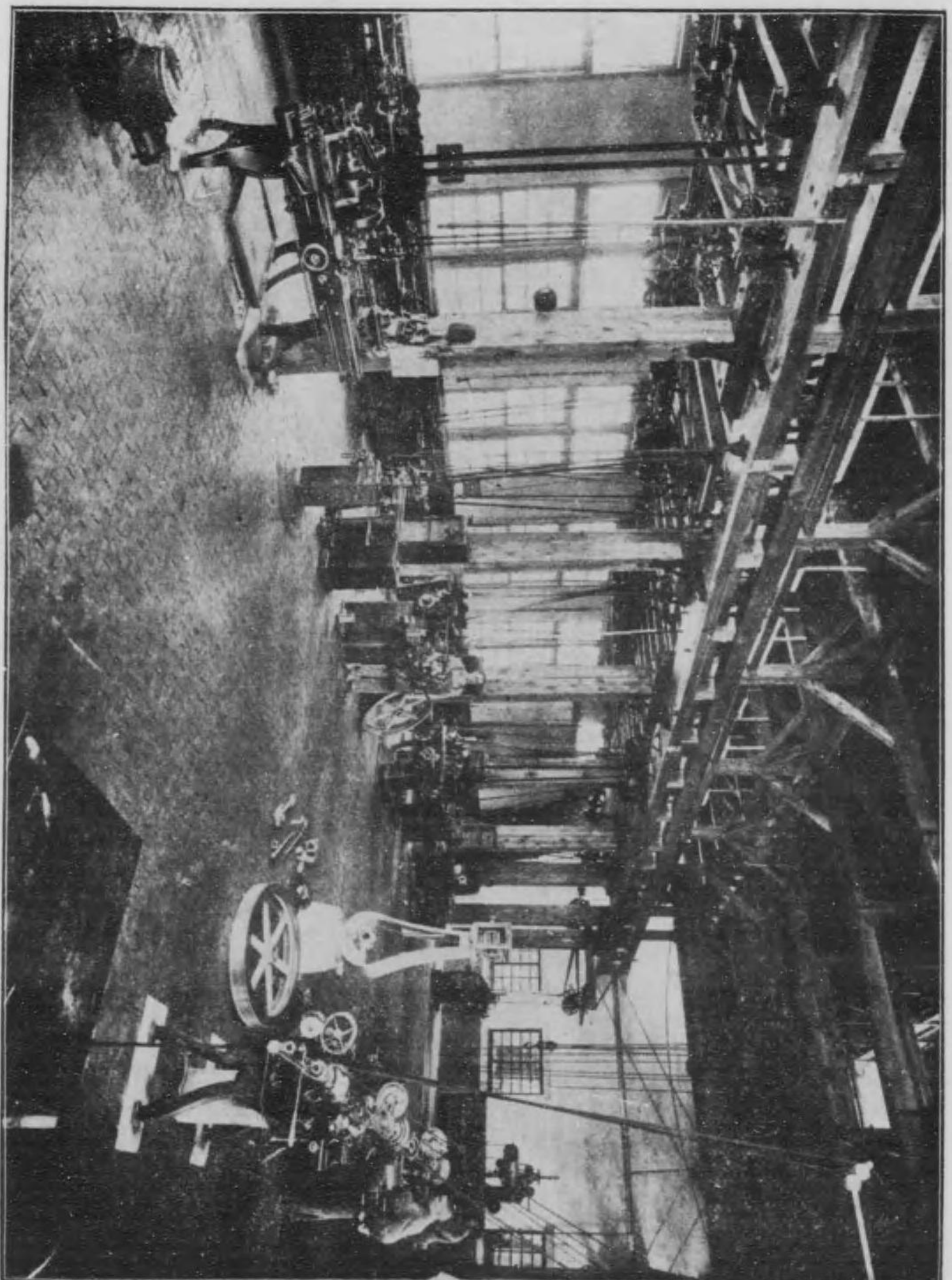
室本標科學工木土





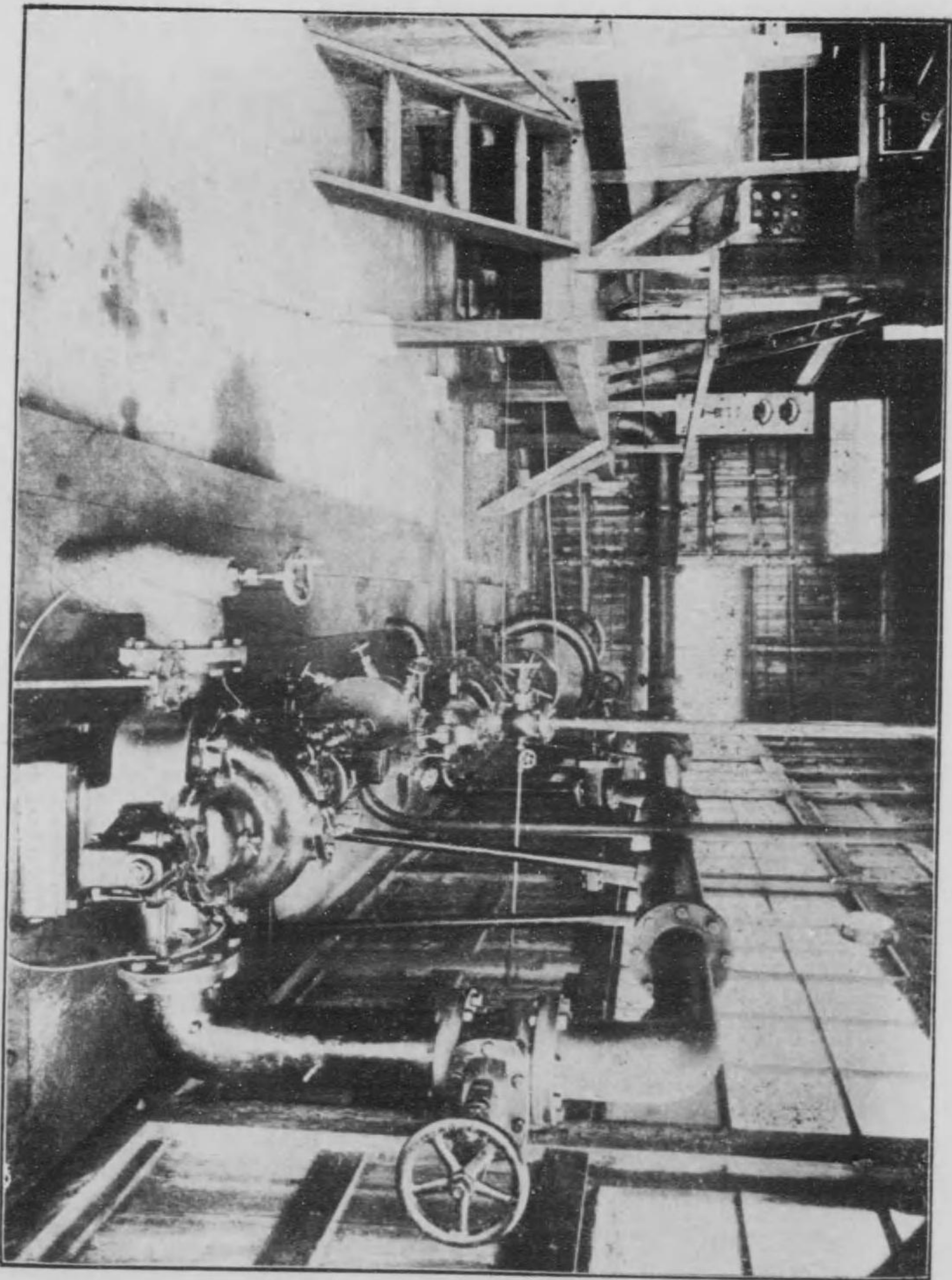
路道本標科學工木土





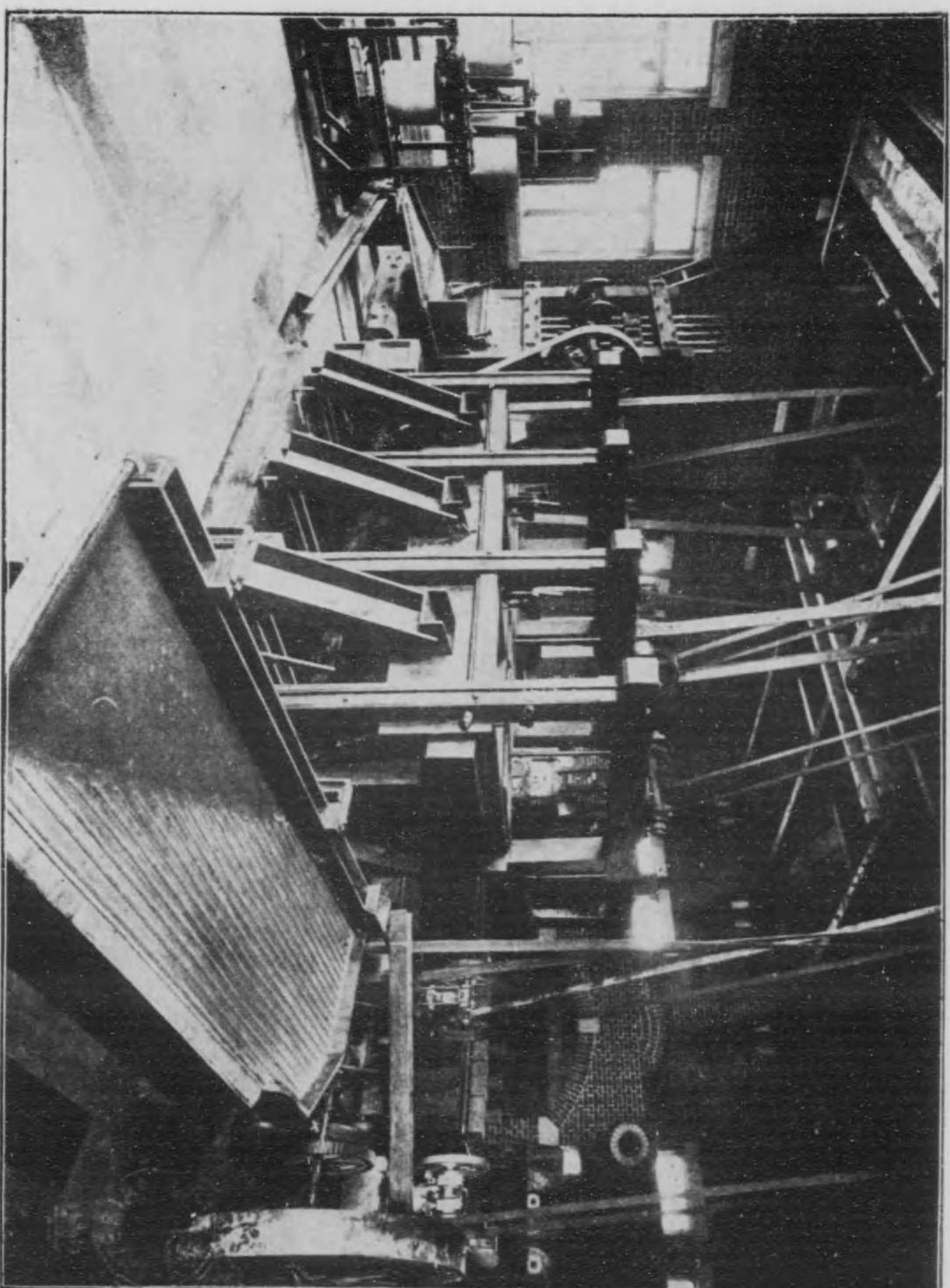
場上仕場工驗實科學工械機





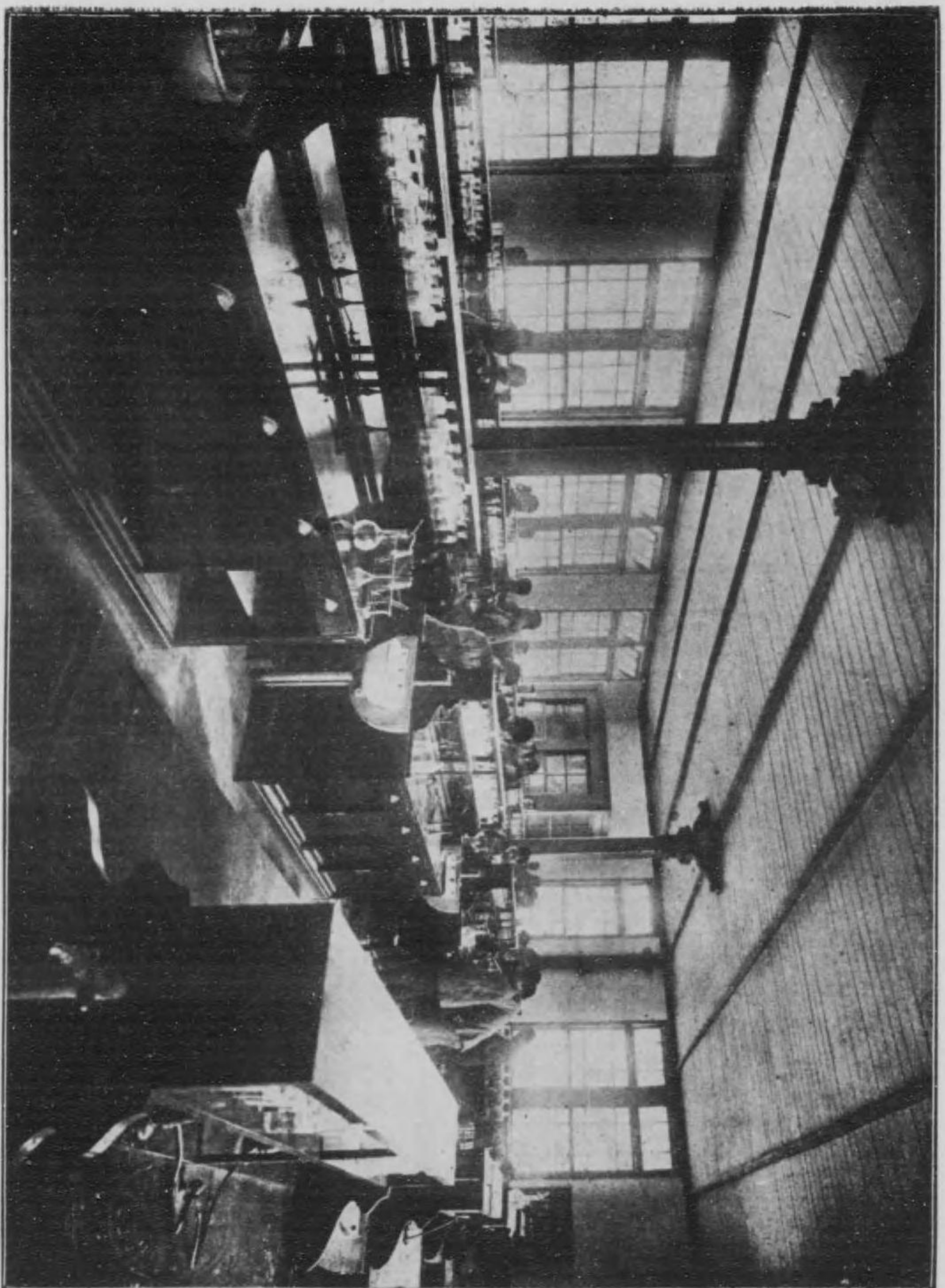
室 驗 實 力 水 科 學 工 械 機





探鑄金學科試金室





探礦冶金學分析室

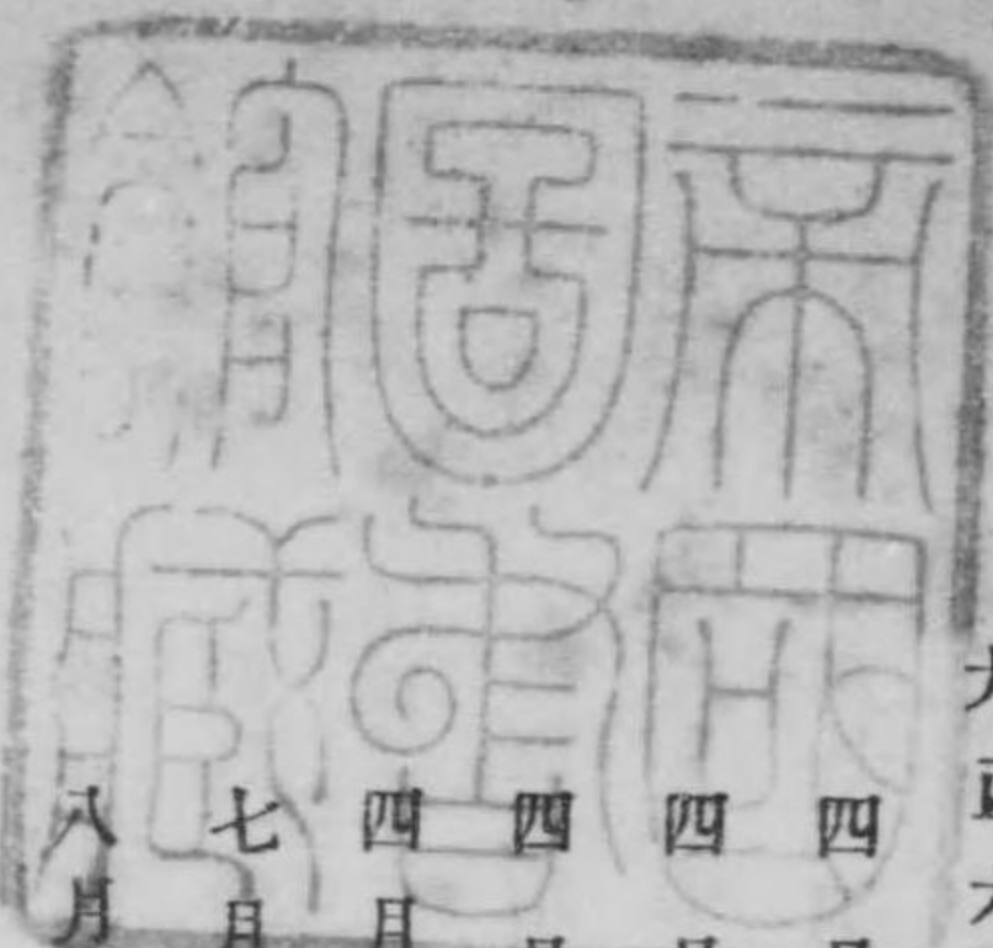


熊本高等工業學校一覽

自大正六年四月  
至大正七年三月

○學年曆

大正六年



四月一日	(日曜日)	第一學期始ル
四月一日	(日曜日)	春期休業始ル
四月七日	(土曜日)	春期休業終ル
四月十七日	(火曜日)	休業(本校創立記念日)
七月十一日	(水曜日)	夏期休業始ル
八月三十一日	(金曜日)	第一學期終ル
九月一日	(土曜日)	第二學期始ル
九月十日	(月曜日)	夏期休業終ル
秋分日		休業(秋季皇靈祭)
十月十七日	(水曜日)	休業(神嘗祭)

學年曆



十月三十一日	(水曜日)	休業(天長節祝日)
十一月二十三日	(金曜日)	休業(新嘗祭)
十二月二十五日	(火曜日)	冬期休業始ル
十二月三十一日	(月曜日)	第二學期終ル

大正七年

一月一日	(火曜日)	第三學期始ル
一月七日	(月曜日)	冬季休業終ル
二月十一日	(月曜日)	休業(紀元節)
春分日		休業(春季皇靈祭)
三月三十一日	(日曜日)	第三學期終ル

○沿革略

本校ノ前身ハ第五高等學校工學部ニシテ同校長中川元氏ノ建議ニ由リ明治三十年四月創設セラレタルモノナリ、爾來九年ノ歲月ヲ經明治三十九年同工學部ヲ第五高等學校ヨリ分離シ熊本高等工業學校ト改稱セラル、是ヨリ先キ明治三十八年帝國議會ハ其創立費トシテ拾九萬壹千圓ノ支出ヲ

協賛シ熊本縣ハ貳萬有餘坪ノ地ヲ寄附セリ、是ニ於テ明治三十九年四月工ヲ起シ同四十二年三月校舍新築全ク成ル(卷首平面圖參照)今工學部創設以降ノ沿革概要ヲ記スレハ左ノ如シ

明治三十年

四月 文部省令第三號ヲ以テ第五高等學校ニ工學部ヲ設置セラル。五月 文部省令第六號ヲ以テ工學部ノ學科及講座數ヲ定メラル。同月 工學部諸規程ヲ定ム。七月 教授櫻井房記工學部主事ヲ命セラル。九月 授業ヲ開始ス。

明治三十三年

四月 校長中川元第二高等學校長ニ轉任シ後任トシテ工學部主事櫻井房記校長ニ任セラル。

明治三十四年

三月 教授神谷豐太郎工學部主事ヲ命セラル。

明治三十六年

八月 土木機械各學科課程表ヲ改正ス。九月 教授神谷豐太郎工學部主事ヲ免セラル。

明治三十七年



十二月 工學部學則ヲ改正ス。

明治三十九年

三月 文部省令第二號ヲ以テ第五高等學校工學部ヲ熊本高等工業學校ト改稱シ獨立ノ實業專門學校トナル、同時ニ探鑛冶金學科ヲ増設セラル。同月 勅令第四十六號ヲ以テ本校職員ノ定員ヲ定メラレ校長一人教授十四人助教七人書記六人トセラル。四月 東京高等工業學校教授工學博士中原淳藏校長ニ任セラル。六月 文部省令第九號ヲ以テ修業年限、學科日及其程度並ニ研究生ニ關スル規程ヲ定メラル。七月 第一回(工學部以來第六回)卒業式ヲ舉行ス。同月 本校規則ヲ制定ス。

明治四十年

一月 本校規則第十六條以下入學手續中保證人ニ關スル條項ヲ改正ス。六月 勅令第二百四十七號ヲ以テ本校職員定員中教授十四人ヲ十六人ニ助教七人ヲ八人ニ改正セラル。七月 第二回(工學部以來第七回)卒業式ヲ舉行ス。九月 從來ノ學科主任規程及監督教官規程ハ之レヲ廢止シ科長及監督教官規程ヲ制定ス。十月 非常心得ヲ制定ス。十一月 物品會計細則ヲ制定ス。同月 實驗工場製作品依頼規程ヲ制定ス。同月 材料強弱並分析試驗依頼規程ヲ制定ス。

明治四十一年

三月 勅令第六十九號ヲ以テ本校職員定員中助教八人ヲ十人ニ改正セラル。七月 新築校舍ニ移轉ス。同月 第三回(工學部以來第八回)卒業式ヲ舉行ス。十月 圖書閱覽規程ヲ制定ス。同月 校醫服務規程ヲ制定ス。

明治四十二年

三月 關院宮殿下臺臨アラセラル。四月 校舍新築落成式ヲ舉行シ續テ三日間公衆ノ觀覽ヲ許ス。同月 天皇、皇后兩陛下御眞影並教育ニ關スル親署ノ勅語ヲ拜戴ス。七月 第四回(工學部以來第九回)卒業式ヲ舉行ス。九月 文部省令第二十二號ヲ以テ各學科ノ學科目及其ノ程度ヲ改正セラル。十月 本校規則ヲ改正シ撰科生ニ關スル規則ヲ追加ス。十一月 入學手續中身體檢査及證明書ノ項一部ヲ改正ス。

明治四十三年

二月 入學手續中願書差出期限ヲ改正ス。三月 勅令第六十七號ヲ以テ本校職員定員中助教十人ヲ六人ニ改正セラル。六月 生徒制服規程ヲ改正ス。同月 生徒校外實修心得ヲ改正ス。七月 第五回(工學部以來第十回)卒業式ヲ舉行ス。



明治四十四年

三月 本校規則ヲ改正シ一學科目ノ呼稱ヲ更メ生徒處分ノ罰目ヲ増シ授業料ヲ増額シ附則ヲ改ム。四月 校長工學博士中原淳藏九州帝國大學工科大学教授ニ轉任シ後任トシテ教授川口虎雄校長ニ任セラル。六月 附屬工業夜學校ヲ開設シ同時ニ同規則ヲ制定ス。七月 第六回(工學部以來第十一回)卒業式ヲ舉行ス。同月 生徒修學旅行規程ヲ制定ス。同月 附屬工業夜學校細則ヲ制定ス。八月 生徒制服規定中帽章ヲ改正ス。九月 附屬工業夜學校主事規程ヲ制定ス。十一月 生徒制服規程ヲ改正シ外套ニ關スル條項ヲ削除ス。同月 入學手續中入學志願者ノ身體検査期日並検査料納付方ヲ改正ス。

明治四十五年

大正元年

五月 勅令第三百三十號ヲ以テ本校職員定員中助教授六人ヲ八人ニ改正セラル。七月 第七回(工學部以來第十二回)卒業式ヲ舉行ス。八月 文部省令第一號ヲ以テ各學科目及其程度ヲ改正セラル。十月 本校規則ヲ改正シ生徒ヲ學生ト改ム。同月 級長規程ヲ改正ス。同月 事務分掌規程ヲ改正ス。同月 生徒制服規程ヲ廢止シ新ニ學生服裝規程ヲ制定ス。十一月 非常心得ヲ改

正ス。同月 宿直規程ヲ改正ス。同月 巡視夜警命令ヲ廢止シ新ニ巡視夜警心得ヲ制定ス。同月 本校規則ヲ改正シ休業日ヲ改ム。

大正二年

四月 本校職員服務心得ヲ制定ス。同月 附屬工業夜學校細則中聽講生ニ關スル事項其他ヲ改正ス。六月 勅令第八十三號ヲ以テ本校職員定員中助教授八人ヲ七人ニ改正セラル。七月 第八回(工學部以來第十三回)卒業式ヲ舉行ス。八月 本校規則ヲ改正シ休業日ヲ改ム。十二月 本校規則ヲ改正シ元第五高等學校工學部規程ニ依ル本校卒業生ノ稱號ニ關スル條項ヲ追加ス。同月 本校規則ヲ改正シ優先選抜ヲ行フ範圍ヲ明カニシ入學志願者ノ出願手續ヲ改ム。

大正三年

一月 文部省令第四號ヲ以テ採鑛冶金學科課程表中火藥學ノ學科目ヲ增加セラル。同月 巡視給仕小使及常夫規程ヲ改正ス。同月 入學手續ヲ改正シ主トシテ入學志願者ノ身體検査ニ關スル條項及入學願書ノ書式ヲ改メ同時ニ身體検査證ノ提出ヲ要セサルコト、セリ。二月 寄宿舎ヲ開ク。同月 寄宿舎寄宿料徴收規程ヲ制定ス。同月 寄宿舎學生通知手續ヲ制定ス。三月 被服給與規程ヲ改正ス。同月 職工規程ヲ改正ス。七月 第九回(工學部以來第十四回)卒業式ヲ



舉行ス。同月 附屬工業夜學校規則ヲ改正ス。八月 附屬工業夜學校入學志願者心得ヲ制定ス。同月 附屬工業夜學校細則ヲ改正ス。九月 學生生徒修學旅行規程ヲ廢止ス。  
大正四年

一月 職工規程ヲ改正ス。同月 文書處理規程並文書編纂細則ヲ制定シ同時ニ從來ノ文書記付及處理細則ヲ廢止ス。二月 學年開始期變更準備ノ爲學科課程ヲ臨時變更シ四月ヨリ實施ス。七月 第十回(工學部以來第十五回)卒業式ヲ舉行ス。十月 寄宿舍寄宿料徵收規程ヲ改正ス。同月 天皇陛下御眞影ヲ拜戴ス。十一月 文部省令第十七號ヲ以テ各學科目及其程度ヲ改正セラル。同月 本校規則ヲ改正シ主トシテ學年開始期ヲ改ム。同月 入學手續ヲ改正ス。十二月 學生服裝規程ヲ改正ス。同月 勅令第二百三十六號ヲ以テ本校職員定員中助教授七人ヲ八人ニ改正セラル。

大正五年

三月 第十一回(工學部以來第十六回)卒業式ヲ舉行ス。四月 本校開校十周年記念式ヲ舉行ス。五月 被服給與規程中地質製式ノ一部ヲ改正ス。六月 入學手續ヲ改正シ主トシテ入學志願者ノ願書其他ノ書類提出期ヲ改ム。同月 入學志願者身體檢查標準ヲ改メ不合格トスル中ニ色盲ノ

一項ヲ加フ。十月 皇后陛下並皇太子殿下御眞影ヲ拜戴ス。

大正六年

三月 第十二回(工學部以來第十七回)卒業式ヲ舉行ス。

○本校ニ關スル勅令及省令

○文部省直轄諸學校官制 (抄)

(明治二十六年八月勅令第八十六號ヲ以テ公布以來數度ノ改正ヲ含ム)

第一條 文部省直轄諸學校ハ左ノ如シ

東京高等師範學校	廣島高等師範學校	東京女子高等師範學校
奈良女子高等師範學校	盛岡高等農林學校	鹿兒島高等農林學校
上田蠶絲專門學校	東京高等蠶絲學校	京都高等蠶業學校
東京高等商業學校	神戸高等商業學校	長崎高等商業學校
山口高等商業學校	小樽高等商業學校	第一高等學校
第二高等學校	第三高等學校	第四高等學校
第五高等學校	第六高等學校	第七高等學校造士館
第八高等學校	千葉醫學專門學校	岡山醫學專門學校

勅令及省令



- 金澤醫學專門學校
- 東京高等工業學校
- 名古屋高等工業學校
- 桐生高等染織學校
- 東京美術學校
- 東京聾啞學校
- 長崎醫學專門學校
- 大阪高等工業學校
- 熊本高等工業學校
- 秋田鑛山專門學校
- 東京音樂學校
- 新瀉醫學專門學校
- 京都高等工藝學校
- 米澤高等工業學校
- 東京外國語學校
- 東京盲學校

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長
- 教授
- 生徒監
- 助教
- 書記

第七條 校長ハ勅任又ハ委任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス(三十二年勅令第百十七號ヲ以テ改正)

第八條 教授ハ勅任又ハ委任トシ助教教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル(四十年勅令第百四十六號ヲ以テ改正)

第九條 生徒監ハ委任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

生徒監ハ校長ノ指揮ヲ承ケ専ラ生徒ノ訓育ヲ掌ル(同上)

第十條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第十七條 専任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置

キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ教授ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十九條 文部大臣ハ學務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

○文部省直轄諸學校職員定員令(抄) 明治三十五年勅令第九十九號

熊本高等工業學校(三十九年勅令第四十六號以來年度ノ改正ヲ含ム)

- 校長 一人
- 教授 十六人
- 助教 八人



○直轄諸學校長職務規程

- 第一條 校長ハ判任官ノ進退ヲ具狀シ及高等官ノ進退ニ付意見ヲ具ヘテ文部大臣ニ稟申スルコトヲ得
- 第二條 校長事故アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ經テ高等官ヲシテ其事務ヲ代理セシムルコトヲ得
- 第三條 左ノ事項ハ校長之ヲ專行スヘシ、但シ第六及第八號ニ關シテハ處分後文部大臣ニ報告スヘシ
  - 第一 教官ノ學科擔任及事務員ノ分課ヲ定ムルコト
  - 第二 規則ノ施行上必要ナル細則ヲ設クルコト
  - 第三 俸給月額四拾圓以下ノ雇員ノ進退ニ關スルコト
  - 第四 教官以下ノ内國各地出張ニ關スルコト
  - 第五 教官以下ノ除服出仕請假ニ關スルコト
  - 第六 講師ノ解雇及其ノ報酬減額ニ關スルコト
  - 第七 經費中ノ目ヲ流用スルコト

第八 三日以内ノ臨時休業ヲ爲スコト

第四條 前條ニ掲ケタルモノ、外文部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

○專門學校令 (抄) 明治三十六年勅令第六十一號

- 第一條 高等ノ學術技藝ヲ教授スル學校ハ專門學校トス
- 專門學校ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ規定ニ依ルヘシ
- 第五條 專門學校ノ入學資格ハ中學校(中略)ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノト檢定セラレタル者以上ノ程度ニ於テ定ムヘシ(以下略)
- 前項檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第六條 專門學校ノ修業年限ハ三箇年以上トス
- 第七條 專門學校ニ於テハ豫科、研究科及別科ヲ置クコトヲ得
- 第八條 官立專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並豫科、研究科及別科ニ關スル規定ハ文部大臣之ヲ定ム

(第二項略)

○實業學校令 (抄) 明治三十二年勅令第二十九號



- 第一條 實業學校ハ工業農業商業等ノ實業ニ従事スル者ニ須要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス
- 第二條 實業學校ノ種類ハ工業學校農業學校商業學校商船學校及實業補習學校トス  
(第二、三項略)

第二條ノ二 實業學校ニシテ高等ノ教育ヲ爲スモノヲ實業專門學校トス  
實業專門學校ニ關シテハ專門學校令ノ定ムル所ニ依ル(三十六年勅令第六十二號ヲ以テ追加)

○實業學校教員養成規程 (抄) 大正四年三月文部省令第七號

- 第一條 (前略)帝國大學及文部省直轄諸學校ノ學生生徒ニシテ卒業ノ後實業學校ノ教職ニ従事セ  
ントスル者ニハ授業料ヲ免除スルコトヲ得
- 第二條 (前略)授業料ヲ免除セラレタル者ハ卒業ノ日ヨリ左ノ期間文部大臣ノ指定ニ依リ實業學  
校ノ教職ニ従事スヘキ義務ヲ有ス但シ必要ノ場合ニ於テハ文部大臣ハ他ノ教職ニ従事スルノ義  
務ヲ負ハシムルコトアルヘシ  
(第一、二號略)
- 三 授業料ヲ免除セラレタル者ハ其ノ免除セラレタル期間ノ二分ノ一
- 第三條 前條ノ義務期間内ニ於テ學校ニ入學シ若ハ外國ニ留學セントスル者アルトキハ文部大臣

ハ時宜ニ依リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

前項ニ依リ許可ヲ受ケタル者ノ當該學校ニ在學中若ハ外國留學中ノ期間ハ前條ノ義務期間ニ算  
入セス

第四條 第二條ノ義務期間内ニ於テ文部大臣ノ指定ヲ受ケサルカ爲任意就職シタル者ハ其旨直ニ  
文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ就職ヲ罷メ又ハ之ヲ變更シタルトキ亦同シ  
前條ノ許可ヲ受ケタル者學校ヲ卒業又ハ退學シ若ハ歸朝シタルトキハ直ニ文部大臣ニ届出ツヘ  
シ

第五條 (前略)授業料ヲ免除セラレタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ(中略)授業料ヲ償還セ  
シム但シ文部大臣ハ事情ヲ酌量シテ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ  
一 退學ヲ命セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退學シタルトキ  
二 實業學校教員タルノ志望ヲ變更シタルトキ  
三 第二條ノ義務ヲ盡サス又ハ第三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ入學若ハ留學シタルトキ(後  
略)

○文部省直轄實業專門學校委託生規程

明治四十年七月文部省令第二十三號



第一條 北海道府縣郡市町村其ノ他ノ公共團體及私人ハ文部省直轄實業專門學校生徒ニシテ卒業後其ノ公共團體又ハ私人ノ設置セル實業學校ノ教職ニ從事スヘキ者ニ學資ヲ補給シ委託生トシテ在學セシムルコトヲ得

第二條 公共團體又ハ私人ハ委託生ノ撰定ヲ當該學校長ニ委囑スルコトヲ得

第三條 公共團體又ハ私人ヨリ委託生ニ補給スヘキ學資ハ一箇月拾圓以上トス

第四條 委託生ニハ授業料ヲ徵收セス

第五條 委託生ハ卒業ノ日ヨリ學資ノ補給ヲ受ケタル期間ニ一箇年ヲ加ヘタル期間當該公共團體又ハ私人ノ設置セル實業學校ノ教職ニ從事スヘキ義務ヲ有ス

第六條 委託生ニシテ在學中中途退學シ又ハ委託生タルコトヲ止ムルトキ若クハ卒業後左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ補給ヲ受ケタル學資ヲ當該公共團體又ハ私人ニ償還スヘシ但シ當該公共團體又ハ私人ニ於テ酌量スヘキ情狀アリト認メタルトキハ其全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトヲ得

- 一 前條ノ義務ヲ盡サザルトキ
- 二 懲戒免職ニ處セラレタルトキ

三 免許狀廢奪ノ處分ヲ受ケタルトキ

第七條 學校長ハ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

○同一人ニシテ文部省直轄學校中ノ二箇以上ノ學校ニ入學ヲ

出願シタル入學方 明治三十六年四月文部省告示第九十六號

同一人ニシテ文部省直轄諸學校中ノ二箇以上ノ學校ニ入學ヲ出願シタル者ハ其ノ最前ニ入學ヲ許可セラレタル學校ニ入學スヘキモノトス但シ同時ニ二箇以上ノ學校ニ入學ヲ許可セラレタル者ノ入學スヘキ學校ハ本人ノ撰擇ニ任ス

○文部省直轄學校生徒他ノ文部省直轄學校ノ入學試験ヲ

受ケルノ件 明治三十八年十月文部省令第十八號

文部省直轄諸學校ノ生徒ニシテ豫メ學校長ノ許可ヲ受ケス他ノ文部省直轄諸學校ノ入學試験ヲ受ケタルトキハ其入學試験ハ無効トス

○文部省直轄學校外國人特別入學規程 明治三十四年文部省令第十五號

第一條 外國人ニシテ文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規定ニ依ラス所定ノ學科ノ一科若ハ數科ノ教授ヲ受ケントスル者ハ外務省、在外公使館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介アルモノニ限リ



特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 前條ニ據リ教授ヲ受ケントスル外國人ハ前條ノ紹介書ヲ添ヘ帝國大學總長若ハ學校長ニ願出ツヘシ

第三條 帝國大學總長若ハ學校長ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキハ相當ノ學力アリト認メタル者ニ限り之ヲ許可スヘシ但シ學校ノ設備上差支アル場合ハ此限ニアラス

第四條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニシテ學科修了ノ證明書ヲ受ケントスル者ニハ試験ノ上之ヲ附與スヘシ

第五條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニハ入學試験料、入學料及授業料ヲ徴收セサルコトヲ得

第六條 帝國大學總長及學校長ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クルヲ得

第七條 本令施行ノ際文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規定ニ依ラス在學スル外國人ハ本令ニ依リ入學シタル者ト看做ス

第八條 明治三十三年文部省令第十一號文部省直轄學校外國委託生ニ關スル規程ハ本令施行ノ日

附 則

ヨリ之ヲ廢止ス

○臺灣人並朝鮮人ノ特別入學ニ關スル件 明治四十四年四月文部省令第十六號

文部省直轄學校外國人特別入學規程ハ臺灣人若クハ朝鮮人ニ之ヲ準用ス但シ其入學ニ關シテハ臺灣總督府又ハ朝鮮總督府ノ紹介ヲ要ス(朝鮮留學生監督ノ紹介ハ之ヲ朝鮮總督府ノ紹介ト看做ス)

○本校卒業生ニ關スル認定

本校卒業生ハ東北帝國大學理科大學ノ入學ニ關シ高等學校大學豫科卒業生ト同等ノ學力ヲ有スルモノト認定セララル(明治四十四年六月文部省專門學務局長通牒)

大正三年七月以降ノ本校採礦冶金學科卒業生ニシテ卒業後五ヶ月以上火藥類ノ取扱ニ干與シタル履歷ヲ有スル者ハ甲種火藥類取扱免狀ヲ受クルノ資格アリト認メララル(大正三年四月文部省專門學務局長通牒)

○篤志者ノ寄附

官衙、會社、商會及個人ヨリ器具、機械、標本等ヲ寄贈セラレ授業上ニ裨益スルコト實ニ鮮少ナラス此等寄贈者ノ厚意ハ本校ノ深ク徳トスル所ニシテ本一覽ニ於テ茲ニ謝意ヲ表ス  
大正五年四月以降大正六年三月マテニ寄贈ヲ受ケタルモノ左ノ如シ



品名	數量	寄附者
器具機械及標本		
スコップ	壹個	廣深井義之氏
金銀藏	壹個	朝鮮下田常雄氏
ニードルヘッド	壹個	熊本電氣株式會社黒川發電所
ノット	壹個	全
グアルブシート	壹個	全
ヤマトアンチフリクションメタル標本	壹組	東京ヤマトメタル商會 町田鉄之助氏
智利國政府著	壹冊	文部省
內版素夫著 我國ニ於ケル燈火燈器ノ變遷及其發達	壹冊	東京電氣株式會社 藤岡市助氏
東行先生遺文	壹冊	東京防長俱樂部 樂部
基隆築港誌及圖譜	貳冊	臨時臺灣總督府工部局長 高橋辰次郎氏

三岡丈夫著 由利公正傳	壹冊	東京由利子爵家
吉村萬治著 今泉敏著 有用礦物の產地及用途	壹冊	東京丸善株式會社
秋山武太郎著 工業教育 解析幾何學	壹冊	東京開文社
全 工業教育 微分積分學	壹冊	全
小山博著 之 據 性	壹冊	東京小山博氏
丹羽重光著 機 構 學	壹冊	東京丸善株式會社
機 關 用 語	壹冊	東京海軍機關學會
文部省第拾回美術展覽會圖錄	貳冊	文部省
日本帝國第三十五統計年鑑	壹冊	全
新主義數學 下卷	壹冊	全
第八回電氣事業要覽	壹冊	遞信省
徳富猪一郎著 公爵桂太郎傳	貳冊	東京故公爵記念事業會
內丸最一郎著 水力第一即著	壹冊	東京丸善株式會社



漢代墳墓ノ表飾	川口虎雄外五氏著	工學中卷	壹	冊	東京帝國大學工料大學
特許發明明細書	類	每	冊	東京帝國大學工料大學	川口虎雄氏
實用新案公報	類	全	冊	東京帝國大學工料大學	川口虎雄氏
氣象要覽	類	全	冊	東京帝國大學工料大學	川口虎雄氏
日本鑛業會誌	類	全	冊	東京帝國大學工料大學	川口虎雄氏
筑豐石炭鑛業組合月報	類	全	冊	東京帝國大學工料大學	川口虎雄氏
山林公報	類	全	冊	東京帝國大學工料大學	川口虎雄氏
現代之電氣	類	全	冊	東京帝國大學工料大學	川口虎雄氏
電氣學會雜誌	類	全	冊	東京帝國大學工料大學	川口虎雄氏
電氣評論	類	全	冊	東京帝國大學工料大學	川口虎雄氏
工業之大日本	類	全	冊	東京帝國大學工料大學	川口虎雄氏

メカニカル エンド エレクトリカル エンゲニヤリング	全	上	大日本工業出版協會
建築學雜誌	全	上	東京建築學會
臺灣鑛業會誌	全	上	北臺臺灣鑛業會
臺灣商工月報	全	上	臺灣總督府殖產局
機械學會雜誌	全	上	東京機械學會
機械學會雜誌	全	上	東京機械學會
法華	全	上	東京法華會
帝國圖書館報	全	上	帝國圖書館
北海道石炭鑛業會報	全	上	北海道石炭鑛業會
工業雜誌	全	上	東京工業雜誌社
震災豫防調查會報告	全	上	東京震災豫防調查會
國產時報	全	上	東京國產時報社
極東時報	全	上	東京極東時報社



鐵工造船時報	每	號	大阪鐵工造船時報社
經濟資料	全	上	大南滿洲鐵道株式會社內 連東亞經濟調查局
滿蒙研究彙報	全	上	順旅滿蒙研究會
滿蒙經濟事情	全	上	關東都督府民政部
化學工藝	全	上	東化學工業藝社
工時報	全	上	東ジャパン、ツーリスト、ビュローロー會
中央氣象臺年報	全	上	農商務省商品陳列館
ビューレンオア イリノイスユニヴァシテイ	全	上	米イリノイス大學
大阪工業會誌	全	上	大阪阪工業會
東京帝國大學工科大學紀要	全	上	東京帝國大學
東北帝國大學理科大學紀要	全	上	東北帝國大學
京都帝國大學工科大學紀要	全	上	京都帝國大學

九州帝國大學工科大學紀要 全 上九州帝國大學

○熊本高等工業學校規則 (大正四年十一月改正)

第一章 總則

第一條 本校ハ實業專門學校ニシテ工業ニ關スル高等ノ學術技藝ヲ教授スル所トス

第二條 本校ニ左ノ學科ヲ置ク

土木工學科

機械工學科

採鑛冶金學科

第三條 各學科ノ修業年限ハ三箇年トス

第四條 本校ノ卒業生ハ工學得業士ト稱スルコトヲ得

第五條 元第五高等學校工學部規程ニ依ル本校卒業者ハ熊本高等工業學校工學士ト稱スルコトヲ得

第二章 學科課程



第六條 各學科ノ學科目及其程度左ノ如シ

但必要ノ場合ニ於テハ實修時間内又ハ休業期間ニ於テ校外實修ヲ課スルコトアルベシ

土木工學科

學 科 目 年	學 科 目								
	修 身	英 語	數 學	物 理 學	幾 何 畫 法	測 量	測 量 實 修	地 質 學	地 質 學
第一學年 每週教授時數	一	四	四	四	二	四	三	二	
第二學期	一	四	五	四	二	三	六	一	
第三學期	一	四	五	四	二	三	六		
第二學年 每週教授時數	一	三	三	三					
第一學期	一	三	三	三					
第二學期	一	三	三	三					
第三學期	一	三	三	三					
第三學年 每週教授時數	一	一	三						
第一學期	一	一	三						
第二學期	一	一	三						
第三學期	一	一	三						

機 械 工 學	建 築 材 料	應 用 力 學	電 氣 工 學 及 實 驗	石 工 學	鐵 筋 混 凝 土 工	道 路 及 鐵 道	橋 梁	水 力 學 及 水 路	河 海 工 學	衛 生 工 學	家 屋 構 造	土 木 行 政 及 工 業 經 濟
	二	一										
	一	二				一						
	一	二				二						
	三	四		一		三		二	一			
	二	三		一		四		二	二	一		
	二	三		二		四		三	二	二		
			三	二	二		四		二	二	二	二
			三	二	一		四		二	二	一	二
			三	二	二		四		二	二	二	二







學 科 目 年	第一學年每週教授時數			第二學年每週教授時數			第三學年每週教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
計	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
兵式體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二
特別講義							一	一	四
機械設計法及製圖	五	七	九	九	九	一〇	一一	一五	三一
工業經濟及工業簿記							二	二	
家屋構造							二	一	
製造冶金學								一	
鑛山用機械							一	一	
紡織機							二	二	

探鑛冶金學科

學 科 目 年	第一學年每週教授時數			第二學年每週教授時數			第三學年每週教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
修身	一	一	一	一	一	一	一	一	一
英語	四	四	四	三	三	三	三	三	
數學	五	五	五						
物理學	四	四	四						
化學學	四	四	四						
化學分析				六	六	六	六	九	九
測量及實修				六	六	六			
鑛物學及地質學	三	三	三						
鑛物及岩石識別	二	二	二						
吹管分析		二	二						
鑛床學			二				二	二	二



學科 目 年	第一學年每週教授時數			第二學年每週教授時數			第三學年每週教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
探礦學				五	五	五	四	二	二
火藥學及實驗									四
選礦學					三	三			
冶金學				五	五	五	四	二	二
冶金及選礦實驗							三	二	二
試金術及實修				四	四	四		三	三
鐵冶金學					三	三			
製造冶金學								二	二
機械工學及實修				四	四	四			
電氣工學及實驗							三	三	三
土木工學							二	二	二

計	兵式操	製圖	法令經濟及簿記	家屋構造
三九	二	九		
三九	二	七		
三九	二	七		
三九	二	三		
三九	二	三		
三九	二	三		
三九	二	四	三	二
三九	二	四	三	一
三九	二	七		

第三章 學年、學期及休業

第七條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條 學年ヲ分チテ三學期トス

第一學期ハ四月一日ニ始マリ八月三十一日ニ終ル

第二學期ハ九月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ル

第三學期ハ一月一日ニ始マリ三月三十一日ニ終ル

第九條 休業日ハ左ノ如シ

一日 曜 日



一 大祭祝日

一 本校創立記念日 四月十七日

一 春期休業 自四月一日至四月七日

一 夏期休業 自七月十一日至九月十日

一 冬期休業 自十二月二十五日至翌年一月七日

第四章 入學、在學、退學及懲戒

第十條 入學ハ學年ノ始メトス

第十一條 各學科第一學年ニ入學ヲ許スヘキ者ハ品行方正ニシテ左ノ諸號ノ一ニ該當シ且ツ入學檢定及身體檢査ニ合格シタル者ニ限ル

- 一 中學校ヲ卒業シタル者
- 一 專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗ニ合格シタル者
- 一 專門學校入學者檢定規程第八條第一號ニ依リ一般專門學校ノ入學ニ關シ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得ルモノト指定セラレタル者
- 一 工業學校ヲ卒業シタル者

第十二條 入學檢定ヲ分チテ無試験檢定及試験檢定トス

無試験檢定ハ本校ニ於テ適當ト認メタル中學校ヲ卒業シタル入學志願者ニシテ卒業ノ席次首位ヨリ全數ノ十分ノ一以内ニ在ル者ニ之ヲ行ヒ其他ノ入學志願者ニハ試験檢定ヲ行フ

第十三條 無試験檢定ハ學業ノ成績身體ノ健否其他ノ事項ヲ考查シテ入學ノ許否ヲ定ム

但シ無試験檢定ニ依リ入學ヲ許可スヘキ員數ハ各學科募集人員ノ半數以内トス  
試験檢定ハ左ノ學科目ニ就キ中學校卒業ノ程度ニ依リ試験ヲ施ス

- 一 國語(作文)
- 一 英語
- 一 數學
- 一 物理
- 一 化學
- 一 幾何
- 一 畫法

第十四條 第十一條ニ規定シタル資格ニ該當シ一箇年以上志望學科ノ工業ニ實地從事シタル者ハ無試験檢定若クハ試験檢定ニ依リ選抜ノ際其作業場ニ於ケル成績ヲ考查シテ學業成績同等者中ニ於テハ優先選抜スルモノトス

第十五條 入學ヲ願フ者ハ第二條ニ掲ケタル學科中ニツキ志望學科ヲ定メ入學願書(左記各號中ニ該當スルモノハ其證明)ニ檢定料金參圓ヲ添ヘ之ヲ差出スヘシ



但書式ハ入學手續ニ於テ之ヲ定ム

一 第十一條第二號ニ依ル者ハ合格證明書

一 第十二條第二項ノ無試験檢定ニ依ル者ハ學業證明書

一 第十四條ニ依ル者ハ資格證明書

既納ノ檢定料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ返付セス

第十六條 入學ヲ許可セラレタル者ハ指定ノ期日迄ニ父兄、父兄ナキトキハ之レニ代ハルヘキ親族連署ノ在學證書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ之ヲ差出スヘシ

第十七條 病氣ニ罹リ三箇月以上修業シ能ハスト思料スルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ父兄連署ヲ

以テ該學年間休學ヲ出願スルコトヲ得

第十八條 休學中ノ者ニシテ其事由消滅シタルトキハ許可ヲ得テ一學科目若クハ數學科目ノ授業

ニ出席スルコトヲ得

但シ次學年ノ始メヨリ原級ノ課程ヲ修ムヘシ

第十九條 學生ハ所定ノ制帽制服ヲ着用スヘシ

第二十條 陸軍一年志願兵ニ服役スル者又ハ補充兵或ハ豫備兵トシテ召集ニ應シ服役一箇年以内

ナル者ハ其學籍ヲ原級ニ置クモノトス

第二十一條 兵役ニ服スル爲メ退學シ又ハ學籍ヲ除カレタル者服役滿期又ハ歸休ノ後一箇年以内

ニ再ヒ入學ヲ願出ツルトキハ之ヲ許可シテ原級ニ編入スルモノトス

第二十二條 病氣又ハ已ムヲ得サル事故ノ爲メ退學セントスル者ハ其事由ヲ詳記シ父兄連署ニテ

願出ツヘシ

但病氣ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第二十三條 左ノ諸號ノ一以上ニ該當スル者ハ其學籍ヲ除ク

但シ兵役ニ基因スル者ニハ第一號ヲ適用セス

一 二學年間同級ニ止マリテ尙進級セサル者

二 成業ノ見込ナシト認メラレタル者

三 課業ニ怠慢ナリト認メラレタル者

四 授業料納付ノ督促ヲ受クルモ尙ホ之ヲ納付セサル者

五 一年志願兵服役滿期後一箇年以内ニ課業ニ就カサル者

六 補充兵又ハ豫備兵ノ服役一箇年以上ニ及フ者



第二十四條 校則又ハ示達ニ悖戻シタル者若クハ師長ノ訓諭ヲ服膺セサル者其他總テ學生タルノ本分ヲ喪ヒタル者ハ其輕重ニ從ヒ譴責停學若クハ放校ノ罰ニ處ス

第五章 修業及卒業

第二十五條 各學年級ノ課程修了ハ該學年中平素ノ勤惰、學業ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ム

第二十六條 第二十五條ノ考查ニ合格セサル者ハ次學年ノ始メヨリ原級ノ課程ヲ再修スルモノトス

第二十七條 第三學年ニ於テハ所修學科ノ一事項ニ就キ卒業論文ヲ提出セシム

第二十八條 第三學年ノ課程ヲ修了シ卒業論文ノ考查ニ合格シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第二十九條 第三學年ノ學業成績又ハ卒業論文ノ考查ニ合格セサル者ニハ詮議ノ上修業證書ヲ授與スルコトアルヘシ

第三十條 成績考查ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第六章 特待生

第三十一條 學力優等品行方正ニシテ課業精勵ナル者ハ之ヲ次學年間特待生ニ選定ス

第三十二條 特待生タルノ資格ヲ喪ヒタル者ト認ムルトキハ其特待生タルコトヲ止ム

第七章 授業料

第三十三條 授業料ハ一學年金參拾圓トシ外國人ハ金五拾圓トス

第三十四條 授業料ハ之ヲ分テ左ノ三期ニ徴收ス

第一學期 金拾圓 外國人 金拾七圓

第二學期 金拾圓 外國人 金拾七圓

第三學期 金拾圓 外國人 金拾六圓

第三十五條 授業料納付定日ハ四月、九月及一月ノ二十六日、二十七日、二十八日ノ三日間トス

前項定日中休業日アルトキハ之ヲ順延ス

第三十六條 既納ノ授業料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ返付セス

第三十七條 左ノ諸號ノ一以上ニ該當スル者ニハ授業料ヲ徴收セス

一 特待生

二 休學中ノ者

三 兵役服務中ノ者

四 研究生



五 大正四年三月文部省令第七號實業學校教員養成規程ニ依リ卒業後實業學校ノ教職ニ  
從事セントシ文部大臣ノ許可ヲ經タル者

六 明治四十年文部省令第二十三號實業專門學校委託生規程ニ依ル委託生

第三十八條 前條第一項第五號ノ出願者ニ對シテハ其決定ニ至ルマテ其期ノ授業料徴收ヲ猶豫ス  
第三十九條 各學期始業後授業料納付定日前ニ退學或ハ休學ヲ願出ツル者ノ授業料ハ一箇月分ヲ  
徴收シ又臨時入學シタル者、休學ノ事由止ミ或ハ兵役ノ服務止ミテ課業ニ就ク者若クハ特待生  
タルコトヲ止メラレタル者ノ授業料ハ其月ヨリ月割ヲ以テ該學期間ニ納付スヘキ分ヲ一時ニ徴  
收ス授業料ヲ月割トナストキハ一學年ノ金額ヲ十分シタルモノヲ以テ一箇月分トス

第八章 研究生

第四十條 卒業生ニシテ既修ノ學科中特別ノ事項ニ就キ研究セントスル者アルトキハ其事項ト本  
人ノ學業トヲ考查シテ在學ヲ許スコトアルヘシ

第四十一條 研究生ノ在學ハ二學年ヲ越ユルコトヲ許サス

第四十二條 研究ノ成績佳良ナル者ニハ證明書ヲ與フ

第九章 撰料生

第四十三條 各學科ノ學科目中ニ就キ特修セントスル者ニハ撰料生トシテ入學ヲ許スコトアルヘ  
シ

第四十四條 撰料生トシテ入學ヲ許スヘキ者ハ年齡十七年以上品行方正身體強健ニシテ左ノ資格  
ノ一ヲ有スル者ニ限ル

- 一 相當ノ學力ヲ有シ二箇年以上當該工業ニ從事シタル者
- 二 工業學校卒業者若クハ中學程度ノ學校卒業者ニシテ校長ニ於テ適當ナリト認メタル者
- 三 文部省直轄學校外國人特別入學規程ノ手續ニ依リ撰料生トシテ入學ヲ願出タル者

第四十五條 撰料生ノ修業年限ハ二箇年以内トス

第四十六條 撰料生ハ制服ヲ着用スルコトヲ要セス

第四十七條 撰料生ノ授業料ハ每學期金拾圓外國人ハ金貳拾圓ト定ム

前項ノ授業料ハ校長ノ見込ニヨリ其ノ一部若クハ全部ヲ免除スルコトアルヘシ

第四十八條 撰料生特修ヲ終リタルトキハ成績ヲ考查シ其佳良ナルモノニハ證明書ヲ與フ

第十章 寄宿舎



第四十九條 寄宿舎ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

附 則

第五十條 本規則第六條第七條第八條及第三十四條ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本規則施行ノ際現ニ第二學年以上ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其程度ニ關シテハ其卒業ニ至ルマテ仍從前ノ規定ニ依ル

○各學科目ノ教旨及教授要項

○共通學科目教旨及教授要項

共通學科目ハ土木、機械及採鑛冶金學科ノ三科、若クハ二科ニ共通シテ課スルモノニシテ、其主要ナル目的ハ、各專門學科ヲ修ムルニ、必要ナル素養ヲ與フルニアリ、故ニ之ヲ教授スルニハ、各學科目ノ原理原則ニツキ、正確ナル知識ヲ與ヘ、專ラ其應用ヲ知得セシメンコトヲ期ス。共通學科目ノ教旨及教授要項左ノ如シ

○修身 (土木、機械、採鑛冶金學科)

教旨及教授要項

修身ハ學生品性ノ涵養及ヒ工業家ニ必須ナル道德的常識ノ養成ヲ以テ其主旨トス即チ高遠ナル學理ハ之ヲ避ケ日常適切ナル實際問題ニ就テ道德思想ヲ養ヒ工業界ノ道德事項ニ對シ其判斷ヲ明瞭的確ナラシメンコトヲツトム

第一學年

教育勸諭

教育勸諭ハ我國教育ノ淵源ニシテ又本校修身科ノ大本ナルヲ明示スルコト

學生心得

本校教育ノ目的ヲ説明シ其學生タルモノ、本分ヲ悟ラシムルコト

師長ノ尊敬、規則命令ノ遵奉、共同自治、健康、勤勉、儉素、禮儀等

工業家ニ必要ナル徳性

規律ノ嚴守、勞働ノ尊重、献身的精神、進取ノ氣象、努力ト興味、克己ト忍耐、誠實等



品性修養ノ工夫 知能ノ練磨、感情ノ抑揚、意志ノ鍛鍊

第二學年

實踐倫理 行爲、動機、品性、責任、良心、至善、本務、徳、實行ノ方法  
社會公衆ニ關スル道德 道德ト自然、道德ト法律、道德ト經濟、個人ト社會、協同ノ精神、交際上ノ心得

第三學年

我國民道德ノ由來ト特質 天祖ノ神勅、維新ノ御誓文、憲法發布ノ勅語、戊申證書、踐詐ノ詔勅、我家族制度ノ特質、祖先ノ崇敬、忠孝ノ觀念、工業ト國民性  
工業道德 職業ノ觀念、工業家ノ國家社會公衆ニ對スル本務、備主ニ對スル本務、被備者ニ對スル本務、組合ニ對スル本務、同業者ニ對スル本務、貨財使用上ノ心得、需用者ニ對スル本務、信用等

○英語 (土木、機械、採鑛冶金學科)

教旨 本校學生ニ英語ヲ課スルハ、一方ニ於テ、各専門ノ原書ヲ參考スルノ力ヲ養ヒ、他方ニ於テ、外國工業家ト交渉スル上ニ必要ナル實用英語ノ力ヲ得シムルヲ目的トス

第一學年

發音譯解及文章解剖 丸善書店發行「スリー、ホームズ」ニヨリ之ヲ課ス  
英語通信 教科書ヲ用ヒスシテ普通書翰文並商用書翰文ノ練習ヲ課ス

第二學年

發音譯解及文章解剖 丸善書店發行「ツェンテイース、センチユリー、イングツシユ、エツセイ」及ヒ各科専門ノ原書ニヨリ之ヲ課ス  
書取作文會話 譯解用ノ教科書及外國ノ月刊雜誌新聞等ヨリ適當ナル材料ヲ抜キ來テ之ヲ課ス

第三學年

發音譯解及文章解剖 丸善書店發行「フアースト、コンマーシャル、リーダー」及各科専門ノ原書ニヨリ之ヲ課ス  
雜誌新聞講讀 外國ノ月刊雜誌新聞ヨリ適當ナル材料ヲ抜キ來テ之ヲ課ス

○數 學 (土木、機械、採鑛冶金學科)

教旨 數量ニ關スル明瞭ナル觀念ヲ養成シテ、工業ニ必要ナル計算ヲ正確ニ且迅速ニ爲ス能力ヲ得シムルコトヲ目的トナス。第一學年ニ於テハ代數、三角法、解析幾何、及微積分ノ大意ヲ授ケ、土木及機械工學科第二學年ニ於テハ更ニ微積分ヲ授ク、而シテ教授ノ順序方法ハ必スシモ舊來ノ法式ニ拘泥スルヲ要セス適宜ニ或ハ取捨シ、或ハ併用シ、専ラ専門學科ニ適應スル學力ヲ養成スルヲ期ス。又實物、標本、圖畫、實際ノ觀測等ヲ用ヒテ數量ノ具體的觀念ヲ明瞭ナラシメ、碁盤紙、計算尺、數量表等ニ據リ簡便ナル計算ノ仕方ヲ練習セシム、授業スヘキ要項ハ概略左ノ如シ

教授要項

土木及機械工學科第一學年



代數 二次方程式論。二次三項式ノ變化。消去法。未定係數。部分分數。二項定理。指數定理。

對數級數。對數ノ應用練習。高次方程式。圖式解法。計算尺ノ使用法。

平面三角法 弧度法。逆圓函數。ド、モアッルノ定理。高及距離ニ關スル應用問題。

平面解析幾何 點ノ坐標。直線。圓。橢圓。雙曲線。拋物線。高次平面曲線等ノ方程式。及應用問題。

立體解析幾何 點ノ坐標。直線及平面。橢圓體。雙曲線體。拋物線體。擣面。錐面。螺線等ノ方程式。及應用問題。

微積分ノ大意

探鑛冶金學科第一學年

土木、機械工學科ノ教授要項ヲ適宜ニ斟酌シテ之ヲ授ク

土木及機械工學科第二學年

微分 諸函數。極限ノ觀念。微分及微係數。微分法。部分微分。全微分。函數ノ展開。テイラ

ー級數。マクローリン級數。極大極小。不定形。切線。法線。漸近線。曲率半徑。縮閉線。

伸開線。交跡線。特異點。及諸種ノ應用。

積分 積分ノ意義。積分法。面積。體積。曲線ノ長サ。物體ノ重心。慣性率。微分方程式ノ

大要。

○物理學 (土木、機械、探鑛冶金學科第一學年)

教旨 物理學ニ於テハ、最初ニ單位ノコトヲ述ヘ、次ニ力學、物質學、熱學、熱力學、波動論、

光學、靜電氣學、磁氣學、電氣運動學等專ラ工業上ニ關係深キモノニ就キ之ヲ教授シ、以テ專門學科ノ基礎ヲ作爲センコトヲ期ス

教授要項

總論 單位。長サノ測定。副指。測微螺旋。時ノ測定。

運動學 運動ノ種類。速度。加速度。速度ノ曲線。速度及加速度ノ分解及組立。ホドグラフ。

圓運動。單絃運動。

重學 運動ノ法則。力。力ノ組合及分解。宇宙引力ノ法則。地球ノ引力。重サ。單一振子。平

均ノ條件。力ノモーメント。偶力。重心。摩擦。仕事。「パワー」。「エネルギー」。位置及運

動ノ「エネルギー」。「エネルギー」不滅ノ原理。單一機械。天秤。

物質ノ性質 一般ノ性質。固體ノ性質。液體ノ性質。アルキメデスノ原理。比重。密度。氣體

ノ性質。壓力計。ボイルノ法則。瓦斯論。

熱學 溫度。寒暖計。膨脹及膨脹率。ボイル、シャールノ法則。絕對溫度。熱量及其單位。熱

容量。比熱。狀態ノ變化。潛熱。寒劑。臨界溫度。濕度。熱ノ傳導。傳導率。對流。輻射。

熱力學第一法則。熱ノ工比率。カルノーノ循環。可逆及不可逆循環。熱力學第二法則。熱力

機械ノ效果。音響學波動論。音響ノ速度。音波ノ干涉。共鳴。音程等。

光學 反射及屈折ノ法則。光學機械。光ノ干涉。光ノ屈曲。

靜電氣學 正負ノ電氣。電氣感應。電位。電氣容量。エレクトロメーター。

磁氣學 磁石。磁場。磁力線。磁氣感應。地磁氣。



**動電氣學** 電流。オームノ定律。電流ノ周圍ニ生スル磁場。ソレノイド。電流計。電氣分解。電磁感應。レンツノ法則。電磁波。光ノ電磁波動論。

○幾何畫法 (土木、機械工學科第一學年)

教旨 平面幾何畫法、立體幾何畫法ヲ講述シ物体ノ位置、形狀、大小ヲ精確ニ圖示スル方法ヲ授ケ圖形ト實物トノ關係ヲ的確ニ想像スル力ヲ養ハシメ製圖學上ノ階梯ヲラシメシメコトヲ期ス

教授要項

**平面幾何畫法** 平面形及其面積ニ關スル畫法。尺度ニ關スル畫法。拋物線。雙曲線、及楕圓ニ關スル畫法。擺線。漸伸線及渦線ノ畫法。

**立體幾何畫法** 諸定義及定理。空間ニ於ケル點。線及平面ノ畫法。平面形及立體ノ投象法。斷面及展開圖畫法。交錯體ノ投象法。點及線ノ影、平面形及立體ノ陰影ニ關スル畫法。遠近投象法ノ一斑。均度投象法。

○家屋構造 (土木、機械、採礦冶金學科第三學年)

教旨 工場、事務所、倉庫等ノ建築設計施工ニ要スル技能ヲ養成センカ爲メニ、最初ニ建築一般ニ就テ大體ノ素養ヲ作り、漸次特種ノ構造法ヲ講ジ、最後ニ仕様、豫算、受負、契約等ノ要領ヲ示ス

教授要項

**總論** 土工。石工。煉瓦工。木工。金工。泥工。屋根職。塗師職。經師職。硝子職。地形。地質調査。普通地形。特種地形。壁 木骨壁。煉瓦壁。石造壁。混凝土壁。鐵筋混凝土壁。鐵骨

壁。屋根 形狀。勾配。小屋組。床 木造床。防火床。階段 各種ノ形式及構造。窓及戶 各種ノ形式及構造。天井 各種ノ形式及構造。設備 給水。排水。採光。通氣。暖房。消防。應急施設。設計、敷地選定。配置。仕様。製圖。豫算。受負。契約。

○電氣工學及實驗 (土木、採礦冶金學科第三學年)

教旨 電氣工學ニ關スル概念ヲ簡單ニ教授シ之ガ實修ヲナサシメ以テ專門學科ノ補助タラシメシメコトヲ期ス

教授要項

直流電氣ノ原理。直流發電機及電動機ノ構造及取扱。蓄電池。交流電氣ノ原理。交流發電機及電動機。變壓機。電燈。電線ノ大サ及架線法。電氣工學上ノ諸器具。

○兵式體操 (土木、機械、採礦冶金學科)

教旨 兵式體操ハ規律ヲ嚴守スル習慣ヲ養成シ、兼テ身體ノ健康ヲ保持セシムルヲ以テ目的トス

教授要項

第一學年

徒手體操。器械體操。各個分隊教練。

第二學年

徒手體操。器械體操。小隊教練。中隊教練。

第三學年

徒手體操。器械體操。小隊教練。中隊教練。野外演習。



### ○土木工學專門學科目教旨及教授要項

#### ○測量 (第一學年)

教旨 土木工學科ニアリテハ、測地學ヲ除キ、平面陸地測量、高低測量、地形測量、線路測量、河海測量、隧道測量等全般ニ亙リテ講述シ、實修ト相俟ツテ充分ナル知識ヲ得シメ、測量ニ關スル技能ヲ養成センコトヲ期ス

#### 教授要項

**平面陸地測量**  
略測 距離 高サ及角度ノ測定 鑄測量 鑄測量用具及用法。張鎖法。野業及野帖記入法。誤差ノ原因。精密ノ限度。製圖法。面積測定法。羅針儀測量 器械ノ構造。修正及檢査。游尺。器械ノ使用法。誤差ノ原因及精密ノ限度。野業及野帖記入法。製圖法。實測圖整齊法。面積測算法。轉鏡經緯儀測量 器械ノ構造。修正及檢査。器械使用及野業。野帖記入法。器械使用上ノ注意。誤差ノ原因。精密ノ限度 平板測量 概説。平板器ノ構造及修正。平板器使用上ノ使用及野業法。誤差ノ原因。精密ノ限度 六分儀測量 六分儀ノ用途、構造及原理。修正法。使用法。

#### 高低測量

**直接水準測量** 概説。水準器構造檢査及整正法。照尺。水準器ノ使用。野業及野帖記入法。誤差ノ原因。精密ノ限度 **間接水準測量** 方法及器械。單角水準測量。複角水準測量 **驗壓器水**

**準測量** 概説。水銀驗壓器。無液驗壓器。差高ヲ見出メ法。器械使用注意。

#### 三角測量

概論。踏査。三角測點。基線測定。角度測定。最小二乘法理論。測定角整正法。

#### 地形測量

**スタデイヤ測量** 測定法理論。定數ヲ見出メ法。測量用器具。野業法。野帖記入法。製圖法。誤差ノ原因及精密ノ限度。器械使用上注意 **グラディエーター測量** 勾配器ノ構造及使用。勾配設定。距離測定野業法 **同高線測量** 同高線ノ性質及必要。同高線設定法。同高線ノ缺點。測量圖縮小及擴大 器械ノ構造。其使用法。

#### 線路測量

**概論** 踏査。豫測及實測 **中心線設定** 直線設置。曲線設置。製圖法。構造物位置設定 **幅杭設置** 橫斷面測量。幅杭位置設定。線路用地。

#### 隧道測量

隧道線路選定。線路測定。坑内測量。豎坑内ノ測量。

#### 河海測量

**河川測量** 町杭。基標。量水標。水位。地形測量。縱斷面測量。橫斷面測量。流水速度測定。流量測定。沈澱物調査 **海洋測量** 地形測量。深淺測量。標識設置。風ノ觀測。波浪ノ觀測。潮汐及潮流觀測。

#### ○測量實修 (第一學年)



教旨及教授要項

測量ノ科目ニ於テ教授セシ所ノモノニツキ實地練習ヲナシ、充分ナル技能ヲ養成センコトヲ期ス

○地質學(第一學年)

教旨 土木工學科ニアリテハ地形變遷ノ原因、河海ノ作用、火山ノ動作、地殼構造ト土木工學トノ關係及地質圖ノ讀方等ヲ知ラシメ尙建築石材ノ種類、性質、分解、保存ニ關スル法則及地震ト建築物トノ關係等ヲ理解セシムルヲ目的トシ以テ專門學科ノ補助タラシメンコトヲ期ス

力學的地質

火山作用 火山噴出物。火山ノ構造。火山噴出ノ原因。熔岩。成岩礦物。火成岩(構造、節理、色、形態)區分及火成岩各箇ノ記載等 水ノ作用 雨ノ化學的及機械的作用。土壤。岩石分解ノ原理。川ノ源。種類。削磨。運搬。沈積作用。浪ノ破壞。地下水。礦脈。水成岩ノ性質及水成岩ト火成岩トノ區別。水成岩各箇ノ記載 空氣ノ作用 氣候變化ノ岩石ニ及ボス作用。風ノ破壞。運搬沈積作用。砂丘 生物ノ破壞及建設作用

構造地質學

地質。斷層。皺曲。陷沒。山脈ノ成因。日本ノ地質構造。造山力。變成岩ノ成因及其記載。地震ノ原因。震動ノ性質。地震ト地質トノ關係。地震ト建物トノ關係。

歷史地質學

地球ノ地質的歷史區別ノ原理。始原代。古生代、中生代、及近世代ニ於ケル示準ト化石ト各細別ノ記載大要。

○機械工學(第二學年)

教旨 機械工學ニ關スル概念ヲ與へ、以テ各專門學科ノ補助タラシメンコトヲ期ス

教授要項

各種機構及其應用。汽罐。煙突。蒸汽機關。蒸汽タービン。水車。タービン水車。自動揚水機。唧筒。水壓機。水壓起重機。動水機關。瓦斯機關。瓦斯發生機。石油發動機。機關車。

○建築材料(第一學年)

教旨 土木工學ニ使用スル材料ノ重ナルモノニ就テ其性質、形狀、鑑定法、用途等ヲ説キ工學ニ適切ナル材料ノ選擇及使用上必要ナル知識ヲ養成センコトヲ期ス

教授要項

石工及木工材料

石灰及セメント 來源。分類。製造法。性質及用途。試驗法。

石材 種類。採石法。性質及形狀。鑑定法。保存法。砂礫及碎石。

煉瓦、土管、瓦等 種類。製造法。性質及形狀。鑑定法。

木材 種類。伐採及木取法。性質及形狀。強弱試驗及鑑定法。腐蝕及虫害。乾燥方法。保存方法。

塗料 種類。性質。用法。

金屬及合金



總論 金屬一般ノ性質

鐵材 概説。鐵ノ分類。銑鐵、鍊鐵、坩堝鋼、轉爐鋼、平爐鋼、電氣銑鐵及電氣鋼ノ製造法、特質、用途。特種鋼。鋼塊ノ鑄造法及性質。可鍛鐵ノ性質。鐵材試驗。鐵材ノ腐蝕及鏽止。鐵以外ノ工業用金屬及合金 合金一般ノ性質。銅及其合金。亞鉛及其合金。軸承用合金。接合用合金。

金屬及合金ノ鑄造 鑄型ノ材料。鑄造裝置。鑄造作業。特種鑄物 冷剛鑄物。鑄鋼。可鍛鑄物。

機械的加工法 輾成機。牽伸機。軌條。建築用材、線及管ノ製作。金屬ノ接合 燒嵌。鍛接。鑲接。

金屬被覆 鍍力銀。亞鉛引銀。亞鉛被覆線。

○應用力學 (第一及第二學年)

教旨 土木工學科ニ於テハ、物理學ニ於テ修得セル力學一般ニ關スル知識ヲ補足シ、更ニ進ンデ桁ニ於ケル剪斷力及彎力率、結構ニ於ケル應力、材料力學、彈性理論ノ概要、土壓論ニ關スル理論及應用ヲ授ケテ、土木設計ノ基礎ヲ作ルヲ主眼トス

教授要項

靜力學

力カノ分類。一點ニ會スル力カノ合成及其釣合。斜面ニ於ケル物体ノ平衡狀態。一點ニ會セザル力カノ合成及其釣合。平行力カノ合成及分解。力率。偶力。

平面形ノ中心 線及面ノ中心。重心ノ理ノ應用。

平面形ノ慣性能率 平面形ノ慣性能率及環動半徑。

桁ニ働ク外力ノ作用 定義。荷重。反力等。剪斷力及彎曲率ニ關スル汎論。靜荷重ノ作用。剪斷力及彎曲率ノ關係。動荷重ノ作用。動荷重ニ對スル最大剪斷力彎曲率ヲ求ムル法。桁ノ任意

断面ニ於ケル同上ノ方法及其圖式解法。インフルエンス線 定義。反力。剪斷力。彎曲率ノインフルエンス線。最大彎曲率ノインフルエンス線。

結構ニ於ケル應力 汎論。應力計算ノ一般法。結構ニ加ハル荷重。應力計算ノ例。小屋組。起重機結構。簡易ナル橋樑ノ靜荷重應力

材料力學

彈性限度及破壞強度 單純ナル軸應力。彈性限度。破壞強度。應剪力。作用強度。

彈性變形 終極變形 彈性係數。長サノ變形。屈讓點。終極變形。断面及容積ノ變化。横ノ伸縮率。

單純應力 自己ノ重量ヨリ起ル應力。等強ノ棒狀体。偏心荷重。水管及蒸汽管。薄キ圓筒及球。縮ノ收縮。綴結ノ強サ及其設計法。

桁ノ一般理論 彎曲ニ關スル原則。中立面及軸。断面係數圖式解法。桁ノ断面ニ於ケル應剪力ノ配布。剪斷力及彎曲率ニ關スル公式。彈曲線及撓度。同上ノ圖式解法。

單桁及控架桁 桁ニ對スル安全荷重。桁ノ設計法。經濟的断面。桁ノ破壞。控架桁及單桁ノ撓



度。比較強度及剛性。等強ノ桁。  
**突桁及固定桁** 一箇ノ支持點ヨリ張出シタル桁。一端ヲ固定シタル桁。兩方ノ支持點ヨリ張出シタル桁。兩端ヲ固定シタル桁。各種ノ桁ノ比較。高サノ異ナル支持點。  
**連續桁** 一般ノ原理。三個力率ノ定理。等布荷重及等經間ノ桁。不等荷重及不等經間ノ桁。端ヲ固定シタル場合。集中荷重。高サノ異ナル支持點。  
**長柱ノ強度** 定義及原則。長柱ニ適當ナル斷面。「オイラー」氏ノ公式。柱ニ關スル實驗。「ラシキン」氏ノ公式。直線公式。他ノ實驗ニ基キタル公式。柱ニ於ケル偏心荷重。  
**扭力** 一般ノ原則。圓軸ノ扭力公式。軸ニヨル力ノ傳送。扭角。軸ノ強度及剛性。軸聯絡ノ計算法。曲柄軸。斷面圓ナラザル諸軸ノ強度。  
**合成應力** 應壓力ト彎曲應力。應張力ト彎曲應力。偏心軸力ヲ受クル桁。應力ト變形トノ關係。一般應力ノ合成。主要應力。等シキ主要應力。等シカラザル主要應力。主要應力ヲ定ムル法。主要應力ト共軌應力トノ關係。桁ニ於ケル最大應力。彎曲應力ト扭力。厚キ圓筒及球。曲柄ノ彎曲。鉤及銷環ノ強。圓形平板。圓形ナラザル平板。輻子。  
**彈複働及最小働ノ原則** 外働及内働。棒及桁ノ彈複働。應剪力及扭力ノ彈複働。彈複働ニヨリテ桁ノ撓度ヲ定ムル法。剪斷力ヨリ生スル桁ノ撓度。螺旋彈簧。集成桁。最小働ノ原則。同上應用ノ諸例。擊衝ニ對スル應力。  
**土 壓 論**  
 緒論 一般原則。土壓論ノ來歴。

**内應力ニ基ク理論** 「ランキン」氏ノ理論。土壤基礎ニ關スル理論。「ハウ」氏ノ公式。「ジュアン、レザル」氏ノ理論。

**破壊面ニ基ク理論** 「ケーン」氏ノ公式。「ボンズレー」氏ノ公式。「クロム」氏ノ公式。

**〇石 工 學 (第二及第三學年)**

教旨 石工學ニ於テハ石材、煉瓦、混凝土等ヨリ成レル建築物ノ設計施工等ニ必要ナル技能ヲ養成センカ爲メニ先ツ石材、煉瓦等一般ノ疊積法ヲ説キ、次テ主要ナル建築物ノ位置設定、構造、形狀、大小、安定等ニ就テ理論上及實地上ノ講究ヲナシ進ンテ仕様、豫算ノ方針ヲ會得セシメンコトヲ期ス

**教授要項**

**石工** 概説及套語。概則。粗石工。切石工。強弱。仕様及工費豫算。  
**煉瓦工** 概説及套語。疊式。強弱。煉瓦工實例。仕様及工費豫算。  
**混凝土工** 概説及套語。調合。混合。施工。仕様及工費豫算。  
**基礎工** 地質調査。粗石基礎。栗石基礎。混凝土基礎。格狀基礎。軌條基礎。丸木杭打基礎。細杭基礎。螺杭基礎。錐杭基礎。砂杭基礎。混凝土杭基礎。鐵筋混凝土杭基礎。筏基礎。沈井基礎。圍堰基礎。函枠基礎。浮動及固定潛函基礎。凍結基礎。  
**擁壁** 種類及構造。安定ノ理論及實施。  
**橋臺** 種類及構造。安定ノ理論及實施。  
**橋脚** 種類及構造。安定ノ理論及實施。



噴渠 排水量調査。種類及構造(管渠、函渠、開渠、拱渠)

拱 根本理論。石拱ノ理論。石拱ニ對スル經驗公式。石拱ノ構造。拱架法。石拱施工法。斜架拱。混凝土拱。鐵筋混凝土拱。實例。

隧道 定義及沿革。橫斷面。掘鑿及支保工。遣形及拱架。内面裝工法。豎坑。坑門。再築及擴張工事。水底隧道。開鑿隧道。通氣法。照光法。工費豫算及工期豫定。

○鐵筋混凝土工(第三學年)

教旨 鐵筋混凝土工ハ其ノ使用ノ範圍頗ル廣大ナルヲ以テ各種構造物ニ就テ詳説スルノ煩ヲ避ケ先ツ其ノ設計ニ對スル共通ノ原則ヲ示シ終リニ其ノ主要ナルモノニ就テ概説ス

教授要項

緒論 鐵筋混凝土ノ用途及其便益。

材料ノ性質 混凝土及其成分ノ須要性質。補強用鋼ノ須要性質及其形狀。混凝土ノ彈性的性質。混凝土ト鋼トノ附着力。混凝土及鋼ニ於ケル應力ノ關係。熱應力及收縮應力。混凝土ノ抗張強度。

鐵筋混凝土桁ノ縱補強 鐵筋ノ配列法。混凝土ニ對スル彎曲理論。彎曲ニ關スル公式及其用法。應剪力。附着應力。鐵筋ノ橫節距。鐵筋ト桁面トノ距離。重複補強。控制桁及連續桁。鐵筋ノ斷面積大ナルトキノ桁ノ計算法。

複補強 複補強ノ方法。複補強ノ一般理論。鉛直複補強。傾斜複補強。鉛直及傾斜複補強ノ併用。床版。床版ノ計算法。單補強ヲ有スル丁形桁。重複補強ヲ有スル丁形桁。ムツシユルム式。

鐵筋混凝土ノ抗壓材 一般原則。縱ニ補強シタル抗壓材。繩狀ニ補強シタル抗壓材。

各種構造物 擁壁。堰堤。樁脚。管及導水渠。水槽。

○道路及鐵道(第一及第二學年)

教旨 第一學年ニ於テハ、最初ニ一般道路ノ路線選定ニ就テノ注意ヲ述ヘ、續テ土工ノ方法、暗渠ノ築造、土管埋伏等道路築造ニ伴フ諸工事ニ就テ其概略ヲ述ヘ、次ニ道路ノ本領ニ入リテ道路及市街道路ヲ講述ス。

第二學年ニ於テハ、專ラ鐵道ニ就テ講述ス、就中普通鐵道ニ最モ重キヲ置キ、市街鐵道之レニ次ギ、其他ノ特殊ノ鐵道ニ至ツテハ、只其要點ヲ概説ス。

教授要項

道 路

通論 道路ノ路線選定。制限曲度及勾配。道路ノ形狀及副員。土工(土積ノ平均、土積ノ増減、土工ノ施行順序、切り取り工事、盛土工事、土工ノ費用、土坪計算)道路ノ排水。並木。土管。暗渠。縱断面曲線。

國縣道及里道 土道。砂利道。碎石道(マカダム式、ラルフォルド式)。道路ノ改良心得。道路ノ維持修繕。

市街道路 街路ノ配列形狀及幅員。基礎。車馬道。(鋪石道、鋪木道、土瀝青鋪道、煉瓦鋪道、混凝土鋪道)。人道ニ於ケル各種鋪道。

鐵 道



緒論 鐵道線路選定。軌間。制限曲度及勾配。  
 線路ノ構造 路床。敷磔。軌道(軌條、接合、大釘及坐鐵、枕木)。轉轍器及轍叉。軌條敷設及砂利撒布及其ノ用具。曲線ノ箇所ニ於ケル軌間ノ擴張及外軌ノ高度。緩和曲線。護輪軌條。  
 停車場 停車場ノ種類。停車場ノ位置。停車場内ノ設備。停車場内線路ノ配置。  
 信號 信號ノ種類。聯動裝置其他ノ保安設備。  
 列車ノ運轉 票券式。指導演法。閉塞式。列車ノ種類。  
 車輛 機關車ノ種類。客車ノ種類。貨車ノ種類。緩衝器及連結器。制動機。  
 列車ノ抵抗 水平ナル直線ニ於ケル抵抗(轉動抵抗、擊衝及振動ノ抵抗、空氣ノ抵抗)。勾配ニ由テ生スル抵抗。曲線ニ由テ生スル抵抗。機關車ノ索引力。抵抗ト索引力トノ關係。  
 高架鐵道及地下鐵道 高架鐵道ノ構造。地下鐵道ノ構造。  
 齒軌鐵道 アプト式鐵道。

市街鐵道

緒論 街路ト幅員トノ關係。軌間。  
 軌道ノ構造 軌條及枕木。轉轍器。  
 電氣鐵道 架空式(單線架空式、複線架空式)。暗渠式。第三軌條式。表面接觸式。蓄電池式。  
 鐵索鐵道 鐵索管。滑車。終端裝置。鐵索握緊器。鐵索牽張器。

橋梁

教旨 橋梁ニ於テハ、下部構造即チ橋臺及橋脚ヲ除キ、專ラ桁橋、鉸桁橋、構橋ノ上部構造ニ就

キ、應力計算法、設計法及架設法ヲ教授シ、應用問題ノ練習及設計製圖ト相俟テテ充分ナル知識ヲ得シメテ以テ橋梁設計ニ要スル技能ヲ養成センコトヲ期ス。其他連續構橋、開橋、控架橋、吊橋、拱橋ノ如ク、靜力平衡ノ原則ノミニテ解シ得サルモノニ在リテハ、大要ヲ授ケ、其詳細ニ至リテハ各自ノ研究ニ任ス

教授要項

緒論 橋梁類別。架橋ニ當リ調査スヘキ箇條。架橋位置ノ選定。諸荷重。裝飾ニ對スル注意。  
 橋梁材片ノ強度及安全率。  
 橋樑 概論。靜荷重。動荷重及超過荷重。靜荷重ヨリ生スル構材ノ應力。等布動荷重ヨリ生スル構材ノ最大應力。超過荷重應力。結構ニ於ケル副斜材ノ効果。力率表圖及其使用方法。牀桁ニ加ハル最大荷重。集中荷重ヨリ生スル構材ノ最大應力。當量等布荷重ノ決定法。構材ノ副應力。圖式解法。  
 橋樑ノ終極應力 靜動兩荷重ヨリ生スル最大及最小應力。雪荷重應力。上下兩橫構ニ於ケル風荷重應力。風荷重ガ主構ニ及ホス影響。初張力ヨリ生スル應力。洩引荷重應力。離心荷重應力。衝擊應力。終極最大及最小應力。應力表圖。計算ニ關スル注意。  
 總構。構材及橋牀 上路橋ノ對傾絞構。下路橋ノ門構。下路橋ノ對傾絞構。臥材及柱材ノ撓曲。軸串ニ於ケル剪斷力及彎曲率。縱桁及牀桁。鉸桁ニ於ケル剪斷力及彎曲率。  
 撓度及最少働 外働及内働。任意荷重ヨリ起ル鉸桁及橋樑ノ撓度。圖式解法。鐵道橋ノ撓度及振動ノ驗測。橋樑ノ剛性。最少働ノ原理及其應用。



複雜ナル結構 連續橋 反力。最大前斷力及彎曲率ニ對スル動荷重ノ位置。應力計算法。連續橋ノ利益及下利益 開橋 開橋ノ類別及橋端裝置。旋開橋ノ應力計算法。旋開橋ノ撓度。旋開橋ニ於ケル真正反力。跳開橋ノ應力計算法。開橋ノ開閉ニ要スル動力 控架橋 原理。橋端裝置。鎖徑。眩徑。吊架及中間徑ニ於ケル應力計算。控架橋ノ撓度。他種橋ト控架ノ構一般比較 吊橋 索條應力及撓度。索條ノ長サ及垂矢ノ變化。溫度ノ影響。單獨荷重ノ效果。吊材及控杆。索條連絡。扶橋ニ關スル理論。結論 三鉸拱 反力。鋼構拱ノ構材應力ヲ最大ニナスヘキ動荷重ノ位置。應力計算法。風荷重應力。助拱ニ於ケル計算法。撓度 雙鉸拱 助拱ニ於ケル反力。任意斷面ノ前斷力及彎曲率ヲ最大ニナスヘキ動荷重ノ位置及其計算。軸推力及溫度ノ影響。構拱ニ於ケル反力。構拱ノ構材應力計算法。溫度カ構拱ニ及ボス影響。撓度 無鉸拱 平衡條件反力。動荷重ノ位置。應力計算。軸推力及溫度ノ影響。結論 橋梁設計 設計ニ關スル主要原則。設計ニ要スル條項。橋梁種類ノ選定。經濟的徑間ノ長サ、高サ及分格長。設計ニ關スル注意。木桁橋概論。桁橋設計。構橋其他特種桁橋ノ設計。ハウ式構橋設計 概論。上下兩臥材ノ斷面及其接手。腹材ノ斷面。分格點ニ於ケル各材片ノ接合。橋端裝置。縱桁及牀桁。橫桁其他風壓ニ對スル裝置。反リ。重量計算。綴釘及綴結 綴釘ノ大サ及其強度。綴釘ノ節距。各種綴結ノ強サ及其設計法。偏心綴結ヨリ生スル副應力 飯桁橋設計 飯桁構造ノ細目。靜荷重ノ決定。飯桁ノ高サ及節距。木牀。腹材斷面。突緣ノ斷面及其組立。腹材添接。腹剛材。突緣板ノ長サ決定。突緣連結ニ要スル綴釘ノ節距及其配置。突緣添接。橫構及導傾接構。橋端裝置。反リ。重量計算 鐵橋設計 橋構造ノ細目。構ノ高サ及分格長

ノ決定。牀桁及牀構。構材ノ斷面。橫構。門構及對傾接構。分格點ニ於ケル各材片ノ接合。軸申ノ大サ。軸申飯鐵及其連結ニ要スル綴釘數。控飯鐵及綴綴。橋端裝置。各部細目。反リ。重量計算。

橋梁架設 概論。木桁橋ノ架設法。展成工字桁橋及飯桁橋ノ架設法。構橋ノ架設法。

○水力學及水路 (第二學年)

教旨 靜水又動水ニ關スル原理ヲ理解セシメ且ツ水ヲ利用センカ爲メニ施設スヘキ一般水路ノ設計及施工ノ方法ヲ修得セシメノコトヲ期ス然ルニ水路ニハ灌溉水路、排水路、都市給水路、水電用水路等アレトモ此等特種水路ノ施設ハ各其項ニ於テ論セルヲ以テ茲ニハ一般水路及水電用水路ニ就テ論スヘシ

教授要項

靜水力學 流動體。水ノ物理的性質。水頭ト水壓。水壓ノ中心。水壓ノ分力。浮力及浮力ノ中心。浮體ノ吃水。浮體ノ安定運動ガ器中ノ水ニ及ボス影響。  
 動水力學 定流及流線。ベールノ氏ノ定理。孔口ヨリ水ノ流出。短管ヨリ水ノ流出。缺口ヲ越ユル水流。管内ノ水流。開渠内ノ水流。射水及流水ノ作用。  
 一般水路 水路ノ種類。水路ノ選定ノ方針。水路ノ斷面及勾配。水路ノ掘鑿。漏止及護岸。  
 水電用水路 堰堤。固定堰。可動堰。魚梯。導水路 導水開渠。導水樋。導水仰灣管。導水路橋。導水隧道。前渠。塵除簾。溢水路。抑砂裝置。遮斷弁。導水管 鋼製導水管。木製導水管。鐵筋混凝土導水管 水力裝置 低水頭水力裝置。普通水頭水力裝置。高水頭水力裝置。放水路。



○河海工學 (第二及第三學年)

教旨 河海ヲ利用シ、或ハ之レニ起因スル害ヲ防カン爲メ施設スル工事ニ就キ講述シ、實地工事ヲ計畫スルニ際シ、必要ナル調査、設計及施工ノ方法ヲ定ムルニ敏ナラシメンコトヲ期ス

教授要項

河川及運河

通論 河川改修ノ大體方針。河川ノ作用及其利用。河川ノ流量雨量、蒸發量及土地ノ吸收量ノ關係。森林ノ河川流量ニ及ボス影響。河川ノ形狀。河水流動ノ有様。水位ト水量トノ關係。洪水防禦 洪水豫報。堤防。洪水防禦用貯水池。放水路。水源工事。護岸。河身改修 浚深。制水工。堀切。締切。分流及合流點ニ施ス工事。河口工事。航河工 固定堰。可動堰。堰堤ニ因ル水ノ隆起。運河 運河ノ種類。水路選定ノ方針。水路ノ堀鑿。漏止工。護岸。曳舟道。閘門。運河斜路。昇降槽。運河ノ給水設備。水路橋。吸彎管。隧道。

築港

通論 築港ノ目的及其種類。良港トシテノ必要條件。風波潮汐及潮流。漂砂及海岸線ノ變遷。地形水深及水面積。水底ノ地質ト其荷重力。築港用諸材料ノ選定及蒐集法。輸出入貨物。出入船舶。商況及人口ノ繁殖。外港 防波堤。浮防波堤及特種防波堤。海岸保護。防砂工。航路要識。内港 船舶渠。船舶口閘門。繫船壁。棧橋。浚深及埋立。

港内設備 繫船裝置。上屋。倉庫。貨物積卸設備。

修船渠 乾船渠。船架。浮船渠。

施工用器具 起重機。混凝土混合機。碎石機。潛水機。唧筒。浚深機。碎岩機。船舶。

工場 材料貯藏所。材料試驗所。混凝土製造及乾燥場。

灌溉及排水

通論 灌溉ト排水ノ關係。灌溉ト排水ノ必要及其利益。灌溉ト排水ノ土質ニ及ボス影響。

灌溉 灌溉ニ適スル水質。灌溉ニ必要ナル水量。灌溉率。堰堤。取水樋門。掃除樋。逃樋。溜池。揚水機。灌溉水路。灌水法。下水灌溉。

排水 排水ノ必要ナル地形。排水量。自然排水法。機械的排水法。排水渠。排水口樋門。

海面埋築 位置ノ選定。海岸堤防。潮止法。排水渠。逆流止樋門。地割。鹽分除去。護岸。維持及修繕。沈泥法。

○衛生工學 (第二及第三學年)

教旨 都市ニ於ケル公衆衛生ニ必要ナル工事殊ニ給水工下水工及塵芥處分ニ重キヲ置キテ其實地計畫ニ必要ナル調査設計及施工法ニ就テ講述ス

教授要項

給水工

通論 給水ノ必要。水ノ用途。給水量。水質。雨量ト給水ノ關係。水源 貯水池。堰堤。取水塔。溢水堰。給水取入口。



淨水法 沈澱池。濾過池。機械的濾過法。洗砂法。「オゾン」殺菌法。  
配水法 配水池。配水塔。配水槽、送水管。送水管内ノ流量ト内徑及水嵩ノ關係。送水管ノ厚  
ト水壓ノ關係。

材料及施工法 鑄鐵管。異形管。鑄鐵管ノ鑑定法。鑄鐵管ノ接合法。鑄鐵管ノ配布。鑄鐵管ノ  
埋設法及基礎。銅管。鉛管。給水管。制水機。空氣拔。排水活嘴。安全瓣。公共水栓。水量計。  
消火及唧筒 消火栓。蛇管。水嘴。消火ニ必要ナル水量。唧筒ノ種類及其選定。唧筒ノ能率檢  
定。

水料及水稅 水料徵收ノ標準。水稅。消火栓料。

下水工

通體 下水工ノ必要。下水量。下水ト傳染病トノ關係。

下水排除法 排泄物ト汚水トヲ分離シテ排除スル法。真空又ハ壓搾空氣ヲ以テ下水ヲ排除スル  
法。流水ヲ用ヒテ下水ヲ排除スル法。

下水渠 配布。勾配。形狀。渠ノ大サ。下水量及勾配ノ關係。下水渠ノ築造及基礎。下水管。  
下水管ノ埋設及基礎。陶管。鐵管。混凝土管。人孔。ランブル孔。接續孔。

洗濯及通風 河水洗濯。海水洗濯。上水洗滌。自働洗濯槽。洗濯ノ度數。自然通風。通風法。  
家屋内ノ排水ト雨水集合法 瀉水便所。便管及排除管。防臭瓣。流場及洗濯場。屋根水ノ集合。  
路面雨水ノ集合。雨水引入口。

下水最後ノ處分法 下水濾過法。沈澱法。濾過法。化學的濾過法。河海沿岸ニ於ケル排出口。

塵芥ノ處分法 塵芥ノ衛生上ニ及ボス危害。塵芥ノ種類及蒐集法。塵芥ノ利用。塵芥燒却爐。  
燒却爐ニ生スル熱ノ利用。燒渣ノ處分法。

土木行政及工業經濟 (第三學年)

教旨及教授要項

土木行政 土木ニ關スル行政及行政法規ヲ説明スルニ在リ而シテ本講ヲ分テ三編トシ、第一編  
ニハ行政及行政法規ヲ説明スル前提トシテ法律命令ノ概念ヲ知ラシメ、行政命令及行政處分ノ  
性質作用ト形式ヲ説キ、第二編ニハ現行土木行政法規ノ各條項ヲ擧ケテ意義ヲ明カニシ、第三  
編ニハ土木ニ從事スル必須ナル知識トシテ國庫會計豫算契約ノ要項ヲ授ク

工業經濟 本講ヲ二編ニ分チ第一編ニハ一般純正經濟學ニ關スル初步ノ知識ヲ授ケントスルニ  
アリ則第一章經濟學上ノ根本概念、第二章財貨ノ生産及効果、第三章財貨ノ交易及其機關、第  
四章財貨ノ分配及其效果ヲ講シ、第二編ニ於テ工業ノ意義、種類、企業ノ方法及組織ヲ講シ更  
ニ工業政策ノ一般ヲ述フルニ在リ、故ニ第一章工業ノ意義及種類、第二章企業ノ形式及組織、  
第三章企業ト金融、第四章工業政策ニ分チテ教授ス

材料實修設計及製圖 (各學年)

教旨及教授要項

第一學年

製圖 幾何畫法ノ講義ニ於テ教授セシモノニ就キ製圖セシメ、常ニ講義ト連絡ヲ保ツヲ期  
ス、其他土木工事ニ關スル圖面ノ謄寫實物及標本ノ見取圖ヲ描カシム



材料試驗 セメントニ關スル試驗法及鑑定法ヲ實修セシム

第二學年

材料試驗及工場實修 材料力學ト關連シ彈性體ニ於ケル各種應力ニ關スル試驗ヲナサシメ、各材料ノ彈性性質ヲ了解スルニ便ナラシム

設計製圖 圖式力學ニ關スル諸製圖及簡單ナル橋梁、橋臺、橋脚、基礎工事、水門扉、堰堤、隧道、杭打機、水槽等ノ設計製圖ヲナサシム

第三學年

設計製圖 橋梁、河海工學、衛生工學、鐵道等ニ關スル工事ノ設計製圖ヲナサシム

○機械工學專門學科目教旨及教授要項

○測量及實修 (第一學年)

教旨 工場設定、機械据付等ハ勿論、専門技術ニ關シテ測量ノ必要ヲ生シタル場合ニ一々測量技術者ヲ待タスシテ、自カラ其任ニ當ルニ足ルノ技能ヲ養成センコトヲ期ス

教授要項

簡易測器。測鎖。卷尺。羅針儀。經緯儀。平板測器等ニヨル一般平面測量法。水準器ヲ用井テ高低測量ヲナスノ方法、土地面積及土坪計算法、地勢測量。三角測量。實地練習。

○電氣工學實修及實驗 (第二學年)

教旨 發電機、電動機、變壓器、蓄電池等ノ原理及其應用ヲ教授シ以テ機械工業ニ必要ナル電氣

應用法ヲ知得セシメンコトヲ期ス

教授要項

直流電氣 直流電氣ノ原理。直流發電機ノ原理。田磁及發電子ノ構造及種類。整流子及刷毛ノ原理及種類。發電子ノ反働。重要ナル直流發電機ノ種類。特性曲線。其能率及容量。發電機ノ故障及取扱法。電動機ノ原理。其能率。特性曲線。其取扱法及故障。蓄電池ノ原理。構造及種類。充電及放電ノ注意。其据付法及取扱法。

交流電氣 交流電氣ノ原理。交流發電機ノ原理及構造。變壓機ノ原理。構造及種類。變壓機ノ冷却法。變壓機ノ連結法。

電力輸送 電流計。電壓計。電力計ノ原理及構造。保安裝置(フューズ)。自動遮斷器。檢漏器。避雷器ノ類)ノ原理及構造。開閉器ノ種類。配電盤ノ電線ノ連結法。發電所及配電所ノ位置選定。電線ノ種類及太サ。電柱。碍子。屋外架線法。屋內架線法。

電燈。電燈ノ種類及其附屬品。電燈ノ能率及其生命。光度及光度測定法。

電信及電話 裝置。無線電信及電話ノ大意。

○機械製作法及實修 (第一及第二學年)

教旨 諸機械製作ニ關スル方法順序及之ニ必要ナル機械器具ノ取扱ヲ講述シテ其一班ヲ知得セシ



ムルト同時ニ工場作業ノ實地練習ヲナサシメ工程時數ノ概念ヲ得シムルヲ目的トス

教授要項

鑄造法 鑄造用材料。鑄物製作上諸元素ノ鑄鐵ニ及ボス影響。銅及其合金。鑄物砂。鑄工用器具及機械。生型鑄造法。燒型鑄造法。「ローム」型鑄造法。金型鑄造法。挽型鑄造法。中子製作法。チルド鑄物製作法。機械的鑄型製作法。熔鐵爐。坩堝爐。反射爐ノ構造及取扱法。鑄造工場設備一般。

鑄造實修 立方体。鐵管。三枝鐵管。四枝鐵管。コック。齒車。推進器。汽笛等ノ製作。

木型製作法 木型用材料。木材乾燥法及接合法。木型工用器具及機械。工具研磨法及砥石ノ種類。木型製作方法。挽型製作方法。木型及鑄物重量ノ比較。各種鑄物ノ收縮率。木型工場設備一般。

木型實修 滑動辨。調車。ハズミ車。汽甯。防止辨等ノ製作。

鍛冶法 鍛工用材料。鍛鐵及鋼ノ性質。鍛工用器具及機械。爐ノ構造。送風器。小物鍛冶法。大物鍛冶法。鍛接法。瓦斯應用鍛接及切斷。燒入。燒戻。鍛工場設備一般。

鍛冶實修 火箸。ボルト。ナット。アイボルト。鉤。クランク軸。聯結桿。等ノ製作

鐵鋼製作法概要  
仕上法 手仕上法。機械仕上法。機械組立法。測定器具及其使用法。旋盤。鑽孔機。平削機。成形機。鑿削機。旋刀精削機。傘齒車齒切盤。旋盤用急速換へ車裝置。勾配切方裝置。レリービング裝置。研磨機。ジグシステム及交換自在機械製作法。工作機械用動力。機械工場設備一般。

仕上實修 丸鐵削方。右及左捻子切方。紙穴明器。コンパス。直角定規。内外キヤリバー。發動機。旋盤。捻子錐。リマー。ミリ及物。等ノ製作。

○力學及圖式力學 (第一學年)

教旨 物理學ニ於テ修得セル力學ノ知識ヲ補足シ更ラニ圖式學力ヲ授ケ應用ヲ自在ナラシムル爲メニ問題練習ヲ主トシ同時ニ之ニヨリテ力學ノ原理原則ニツキ正確ナル知識ヲ得シメンコトヲ期ス

教授要項

應用力學 變位。速度。加速度。「ベクトル」ノ合成分解。運動ノ法則。仕事。「パワー」。「モーメント」。偶力。單純ナル機械。効率。「エネルギー」。回轉体ノ「エネルギー」。慣性効率。遠心力求心力。摩擦。「ダイナモーター」。

圖式力學 屋根組、起重機、ガーダー、橋梁等ニ於ケル應用。

○材料強弱學及實驗 (第二及第三學年)

教旨 材料強弱學一般ヲ講シ機械設計ノ基礎ヲ作ルヲ目的トス。實驗ニ於テハ主トシテ材料ノ機械的試驗ヲ行ヒテ材料及其試驗法ニ精通セシメンコトヲ期ス

教授要項

單純ナル歪及内力 荷重。緊張。壓縮。及剪斷ニ對スル歪及内力。彈性及「フックノ」定則。安全率。内力歪線圖。「レジリエンス」及衝擊。

桁 彎曲「モーメント」及剪斷力並ニ其線圖。彎曲内力。桁ノ撓ミ。連桁。



長柱 「オイラー」定理、「ランキン・オルドン」公式。  
 扭力 圓軸ノ扭力公式。軸ニヨル力ノ傳達。扭角。  
 複内力 合成内力及主内力。「ボアソン」比。彈性係數間ノ關係。  
 實驗 材料試驗機及材料試驗

○機 構 學 (第二學年)

教旨 一般機械ヲ構成セル各種機構ノ運動ヲ論シ併セテ其設計及應用方法ニ就テ構述ス  
 教授要項

機械ノ定義 關係運動。運動速度及加速度並ニ其線圖。速比。  
 直接接觸ニ依ル力ノ傳達及運動ノ變化 軸及軸承。スクリウナット機構。摩擦車。齒車。カム等。  
 リンク仕掛ニ依ル力ノ傳達及運動ノ變化 平行運動ノ機構。早戻リ運動ノ機構。間歇運動ノ機構。各種リンク仕掛等。  
 可撓体ニテノ連結ニ依ル力ノ傳達及運動ノ變化 調草、木綿調帶、木綿索、麻索、針金索及各種ノ鎖ヲ用フル調車及ヒ其組合セ。  
 各種ノ機構

○水力學及實驗 (第二及第三學年)

教旨 靜水力學、動水力學ヲ論シ水力機械設計及實驗ニ要スル基礎知識ヲ授ク  
 教授要項

靜水力學 完全液体。液体ノ壓力傳達。水中ニ於ケル面上ノ直壓力。任意方向ニ於ケル壓力。壓力ノ中心。水堰ノ安定。浮力及浮力ノ中心。浮体ノ安定。  
 動水力學 液体流動ノ一般原則。孔及切缺ヨリスル水ノ流動。約流、速度及流出ノ係數。液体摩擦。開溝及管内ノ摩擦。管ノ斷面急變化、曲リ、辨等ノ爲メニ起ル摩擦抵抗。水ノ衝擊。水ノ反動。

實驗 流量測定。ピトー管實驗。約流、速度、流出係數測定。唧筒能率測定。

○水 力 機 械 (第二及第三學年)

教旨 主トシテ水力發動機、唧筒ニ就キ講述シ構造動作ヲ知悉セシメ設計ノ要領ヲ得シムルヲ目的トス

教授要項

水車。水力タービン。ペルトン水車。水力機關。往復動唧筒。渦卷唧筒。壓氣唧筒。バルソメーター。インゼクター。水壓諸機械。

○熱力學及熱機關實驗 (第二及第三學年)

教旨 瓦斯及瓦斯蒸汽ニ熱ノ及ホス影響ヲ論シテ一般熱機關、空氣壓縮機及製氷機等ノ原理ヲ會得セシムルモノトス

教授要項

熱ノ本質 熱單位。溫度。絕對溫度。比熱。エントロピー。熱力學第一法則。熱力學第二法則。  
 瓦斯及瓦斯混合体ノ法則 內燃機關。熱空氣機關。空氣壓縮機。ハンフレー瓦斯。ポンプ等。



一般蒸氣論 水蒸氣及諸種蒸氣ノ性質。過熱蒸氣論。蒸氣力原動機及附屬裝置。製水機等。  
瓦斯及蒸氣ノ流動及噴出 蒸氣タービン。瓦斯タービン。送風機等。  
暖房及通氣法概要

實驗 單式及複式蒸氣機關効率試驗。蒸氣罐効率試驗。蒸氣タービンノ効率試驗。蒸氣乾燥度  
試驗。石油機關効率及石油消費量試驗。瓦斯機關効率、燃料消費量及瓦斯分析試驗。

○蒸 汽 機 關 (各學年)

教旨 蒸氣罐、蒸氣機關、蒸氣タービン、並ニ附屬諸設備ノ動作構造及設計法ヲ講ス  
教授要項

原動力 一般熱機關定義。熱機關ニ用ユル諸單位。水ノ蒸發作用及沸騰。蒸氣ノ性質。蒸氣罐  
及蒸氣機關發達ノ概要。

蒸氣罐 分類。各種蒸氣罐ノ構造及特徵。燃料及燃燒。通風及煙突、蒸氣發生力。蒸氣罐ノ製作、  
修繕、検査及取扱等。

蒸氣機關 一般の構造、動作及分類。示壓圖、表示馬力、實馬力及蒸氣消費量。機關各部ノ構  
造及設計法。辨ノ運動及線圖。「リンク」ノ運動。「クランク」ヲ廻ハス力及線圖。調速機。ハズ  
ミ車。平衡法。凝結器及附屬裝置。汽笛内ニ於ケル蒸氣ノ損失。複式膨脹。各種蒸氣機關ノ構  
造及特徵。

蒸氣タービン 蒸氣ノ衝動及反動作用。蒸氣タービンノ種類及其發達ノ概要。蒸氣タービンノ  
設計法。各種蒸氣タービンノ構造。各種蒸氣タービンノ應用ト附屬諸裝置。

蒸氣力原動機室ノ一般設備 其設計及注意。

○瓦斯石油機關 (第二學年)

教旨 內燃機關ノ原理、構造設計及取扱法ニ就キ講述ス  
教授要項

內燃機關ノ原理及動作。蒸氣機關トノ比較。示壓圖。着火法。調速法。始動裝置。冷却裝置。  
附屬諸設備及要具。機關各部ノ構造及設計法。機關ノ据付。運轉、休止及試驗ノ方法及注意。  
內燃機關ノ燃料及其燃燒。瓦斯發生裝置。氣化器及蒸發器。各種瓦斯機關及石油機關ノ構造及  
特徵 附 航空機及自動車用機關。

○機 關 車 (第三學年)

教旨 普通鐵道列車運轉ニ關スル緊要ナル事項及機關車各部ノ構造及動作ヲ解説シ機關車ノ設計  
修繕、検査及運轉等ニ關スル要領ヲ知得セシメン事ヲ期ス

教授要項

機關車發達ノ經路概要。軌條。機關車ノ牽引作用及粘着力。機關車構造ノ大要。機關車ノ種類  
別。列車抵抗。汽罐蒸氣發生力。牽引力詳論。汽罐各部及附屬品詳説。機關部詳説。車体。車  
輛及ボギー。平衡重量。制動機。炭水車。複式機關車。過熱機關車。特殊機關車。

○船 用 機 關 (第三學年)

教旨 船体構造ノ概略、船舶推進ノ原理、汽機汽罐、推進器及補助機關ノ構造動作ヲ知悉セシメ  
船用機關ノ設計、修繕、検査ニ關スル要領ヲ會得セシメンコトヲ期ス



教授要項

船舶ノ種類。船舶發達ノ經路。排水量。安定。積量。鋼製船舶各部名稱。船内唧筒配置。船体ノ抵抗。汽機馬力決定法。推進ノ原理。推進器詳論。船用機關ノ種類。主機一般設計。主機各部詳論。平衡法。各種補助機詳論。船用汽罐ノ種類。汽罐設計。造船規定要項解説。

○紡織機 (第三學年)

教旨 主トシテ紡績機ヲ論シ織機ハ其概要ヲ授ク

教授要項

絲ノ種類。絲ノ番手。混綿。開綿。打綿。梳綿。連條。始紡。開紡。練紡。精紡。總紡。荷造。織機概要

○鑛山用機械 (第三學年)

教旨 炭坑及鑛山ニ使用スル重要機械ノ概要ヲ授ク

教授要項

送風機。捲揚機。索道。唧筒。鑿岩機。選礦用各種機械。

○製造冶金學 (第三學年)

教旨 一般工業ニ必要ナル金屬及合金ノ性質、製法及其加工法ニ就キ講述シ機械製作法ノ講義ト相俟テ材料使用並ニ加工方法ニ關スル知識ヲ得シムルヲ目的トス。

教授要項

鐵及鋼ノ性質及種類。製鐵及製鋼法一般。

銅、亞鉛、鉛、錫、ニツケル、アルミニウム等ノ性質及用途。

合金 一般ノ性質及製法。工業上必要ナル合金。

金屬及合金一般ノ各種加工法 鑄造、鍛冶、壓延、接合、鍍金等。

鋸、棒、針金、軌條、管 其他建築材料等ノ製造。

工業用金屬及合金ノ機械的試驗法

金屬組織學的試驗法ノ概要

○工業經濟及工業簿記 (第三學年)

教旨及教授要項

工業經濟 土木工學科ニ同ジ

工業簿記 工業ノ會計ヲ整理スルニ必要ナル諸般ノ簿表類記入並原價計算ノ方法ヲ説明シ、以テ工業ノ經濟的方面ニ對スル概念ヲ得シメ。之ニ依テ其技術トノ連繫ヲ計ル素養ヲ作ラシムルヲ主トシ左ノ各項ニ分テテ之ヲ授ク

簿記ノ意義。目的。職分。種類。法律ノ規定。財產。取引貸借。仕譯。勘定科目。帳簿ノ種類。例題記入及決算(主トシテ主要帳ノミ)並ニ諸表類ノ調製。

○機械設計法及製圖 (各學年)

教旨 第一學年第一第二學期ニ於テハ幾何書法作圖題ノ實地練習ヲ行ハシメ第三學期ヨリ第三學年第二學期末マテ機械器具ノ見取圖、製作圖、設計製圖ヲナサシム。設計法講義ハ課題ノ當初ニ之ヲ行フ。第三學年第三學期ニハ卒業設計製圖ノ作成ニ從事セシム



教授要項

第一學年

螺旋及各種締付用捻子。捻子廻シ。齒車。調車。キー及コッター軸承。齧合子。

第二學年

工場用諸機械ノ見取圖、全製作圖、機械組立圖面透寫。安全弁、防止弁、凝汽弁、捲揚機、打棧機。調速機。送風機。水漕。唧筒。水壓機等ノ設計製圖。

第三學年

各種陸上蒸汽機關。蒸汽罐。推進器。起重機等ノ設計製圖。卒業設計製圖。

○特別講義(第三學年)

教旨及教授要項

應用力學、圖式力學、材料強弱學、水力學、熱力學等ノ補遺講義ヲ主トシ新發現ノ各種重要機械ニ對スル解説ヲ授クルモノトス

○採鑛冶金學專門學科目教旨及教授要項

○化學(第一學年)

教旨 化學ニ於テハ斯學上緊要ナル定律及理論ヲ說明シ物質及反應ノ性質ヲ講述ス特ニ無機化學ニ於テハ重キヲ金屬化學ニ置キ各金屬及重要ナル化合物ノ製法性質及其應用ヲ詳述シ有機化學ニ於テハ炭素化合物ニ關スル主要ナル理論及各種化合物相互ノ關係ヲ述ヘ工業上緊要ナル化合

物ノ製法性質ヲ授ケ以テ分析試金採鑛及冶金其他專門諸學科ノ學習ニ資スル所アラシム

教授要項

化學本論 緒論。化合物ノ定律。氣體ノ通性。氣體化合物ノ定律。固體ノ比熱。溶液論。變則蒸氣比重及鹽類水溶液ノ特性。電離説及電氣分解。化合物ノ理論。熱化學。化學力學。週期律。

無機化學

元素及其分類

非金屬元素 酸素。水素。窒素。炭素。造鹽素。硫黃族元素。磷族元素。砷素及硼素。貴瓦斯。金屬元素 アルカリ金屬。アルカリ土類金屬。マグネシウム屬。銅族金屬。稀土類金屬。錫屬。クロム屬。マンガン屬。鐵屬。白金屬。

有機化學

緒論 炭素化合物ノ分析法。物理學上ノ性質。構造。  
脂肪族化合物 脂肪族炭化水素。アルコール。一鹽基性酸及多鹽基性酸。エーテル及エステル。アルデヒド及ケトン。シヤン。化合物。炭水化合物。  
環式化合物 芳香族炭化水素。ニトロ化合物及サルホン酸。ダイアゾ化合物。芳香族アルコール。フェニール。エーテル及酸。色素。テルベン。複素環式化合物。

○化學分析(第二及第三學年)

教旨 第二學年ニ於テハ、主トシテ定性分析法、重量分析法及容量分析法ヲ授ケ第三學年ニ於テハ瓦斯分析法、電氣分析法及鑛業用分析法ヲ授ク、此等ノ分析法ハ、更ニ實驗室ニ於テ實習セ



シメ、以テ、分析上正確ナル知識ヲ得シメン事ヲ期ス  
教授要項

定性分析 金屬ノ分類法。普通金屬ノ反應及分離。普通酸類ノ反應及檢出法。不溶解物處理法。金屬及合金ノ處理法。

重量分析 化學天秤及砒碼ノ試驗法。秤量法。一種金屬ノ定量。重要ナル無機酸ノ定量。容量分析 液ノ測定。割度器ノ容量測定法及其使用法。指示藥。標準溶液。アルカリメトリ。

アシデメトリ。酸化、還元及沈澱作用ニ基ケル分析法。

瓦斯分析 爐瓦斯、廢棄瓦斯、坑内瓦斯並ニ氣體燃料ノ定量法。熱量測定法。

電氣分析 普通金屬ノ定量法。合金及鑛石ノ處理法。

鑛業分析 各種鑛山ノ鑛石、製鍊品、半製鍊品及溶滓、石炭、コークス等ノ完全分析。

○測量及實修 (第一及第二學年)

教旨 第一學年ニ於テハ地面測量ノ要領ヲ示シ鑛山測量ノ素養ヲ作り第二學年ニ於テハ鑛山測量一般ノ知識ヲ與ヘ器械ノ使用及測量法ニ習熟セシム

教授要項

簡易測器。測鎖。卷尺。羅針儀。經緯儀。平板測器等ニヨレル一般平面測量法。水準器ヲ用キテ高低測量ヲナスノ方法。土地面積及土坪計算法。地勢測量。三角測量。坑内測量(羅盤測量、掛羅盤測量、經緯儀測量)。坑内外ノ連結。特別測量。

實修 第一學年ニ於テハ地面測量ヲ第二學年ニ於テハ鑛區測量ヲ練習セシメ休業中ヲ利用シ、

鑛山ニ就テ坑内測量ヲ實修セシム。

○鑛物學及地質學 (第一學年)

教旨 鑛物學ニ在リテハ、鑛物鑛別ノ素養ヲ與フルヲ眼目トスルヲ以テ、先ヅ、總論ニ於テ結晶學、鑛物ノ物理的及化學的性質ニ就テ講述シ、鑛物各論ニ於テハ、各種鑛物ノ性質、利用法等ニ就テ詳説スルモノトス

地質學ニ在リテハ、地殼ノ成因、地殼ヲ構成スル各種岩石ノ種別、地殼ノ變動ニ就テ講スルモノトス

教授要項

鑛物學

鑛物學通論 鑛物形態學。非晶體。三斜晶系。單斜晶系。斜方晶系。正方晶系。六方晶系。等軸晶系。晶群。雙晶。假晶。結晶ノ生長。鑛物物理性。劈開。硬度。粘性。蝕像。光澤。色。屈折。複屈折。偏光。多色性。鑛物化學性。原素。同質異形。吹管分析大意。鑛物鑛定法。鑛物學特論 金屬鑛物。鐵鑛。滿侖鑛。コバルト及ニッケル鑛。銅鑛。蒼鉛。水鉛。クロミウム及ウオルフラム鑛。アンチモン及砒鑛。水銀鑛。稀金屬鑛。非金屬鑛。

地質學

力學的地質學 火山作用。火山噴出物。火山ノ構造。火成岩ノ構造。火成岩各種ノ記載等。水ノ作用。雨ノ化學的及機械的作用。川ノ削磨。水成岩ノ性質及其記載等。空氣ノ作用。空氣ノ生物ノ作用。



構造地質學 地層。斷層。皺曲。陷落。山脈ノ成因。日本地質構造。造山力。變成岩ノ成因及其記載等。

歷史地質學 地球ノ地質的歷史區別ノ原理。始原代。古生代。中生代及近世代ニ於ケル示準化石ト各時代記載ノ大要。

○鑛物及岩石識別 (第一學年)

鑛物識別ニ於テハ鑛物學ニテ講義セル所ニ從ヒ、先ヅ、結晶模型及實物ニヨリテ結晶ノ測角、定面、模寫ヲ行ハシメ、次デ既知鑛物ニ就キ、其物理性ト化學性トヲ習得セシメ、最後ニ未知鑛物ヲ與ヘテ、之ヲ識別鑑定セシム

岩石識別ニ於テハ、地質學ニテ講述セル岩石ニ就キ、肉眼鑑定並ニ顯微鏡的鑑定ヲ習修セシム

○吹管分析 (第一學年)

吹管及其使用法。定性分析(銨色、閉管中ノ反應、開管中ノ反應、炭上ノ反應、硼砂球及磷鹽球ノ着色、コバルト液ノ反應)。定量分析ノ大意。

○鑛床學 (第二學年)

鑛床學一般ノ知識ヲ得シムルヲ目的トス

教授要項

火成鑛床 鹽基性分泌鑛床。酸性分泌鑛床。

氫成鑛床 接觸鑛床。接觸交代鑛床。

水成鑛床 地下熱水成鑛床。裂隙充填鑛床。交代鑛床。地上沈澱鑛床。變性鑛床。化學的沈澱鑛床。機械的破碎鑛床。

特論 鑛山ノ檢查及價值。金屬鑛山。石炭山。沖積鑛山。

○採 鑛 學 (第二及第三學年)

教旨 採鑛ノ技術ニ必要ナル學理並ニ其應用ニ就テ講述スルモノニシテ努メテ暑中休暇其他適當ノ時期ヲ利用シ學生ヲシテ鑛山或ハ工場ニ於テ實地操業ノ練習ヲ積マシメ以テ學理ノ應用ヲ實際ニ會得セシメンコトヲ期ス

第二學年全部及第三學年第一學期ニ於テ採鑛學ノ大要ヲ知悉セシメ以テ實地鑛山ノ練習ニ資シ第三學年第二學期以後ニ於テ鑛山變災其他設計等ニ關スル事項ヲ講スルモノトス

教授要項

緒論。深鑛。掘鑛。支柱。稼鑛。運搬。排水。通氣。點燈。鑛山變災。

○火藥學及實驗 (第三學年)

教旨 火藥類中主ニ工業用爆發藥ニ就テ其性能、用途等ヲ講シ傍ラ火藥類ノ使用法及之カ鑑定、檢定ニ習熟セシムルヲ以テ目的トス

教授要項

總論 定義。分類。一般ノ性質。



各論 火藥及爆藥ノ種類、性質、製造法、用途。火工品ノ構造、機能、用途。火藥爆藥及火工品ノ貯藏及取扱(火藥庫、貯藏法、運搬、熔融其他取扱上ノ注意)。火藥爆藥及火工品ノ検査及同上不良品ノ處置。安定性。感度。安定性ノ檢定。爆藥使用法(器具及裝置)。安全火藥及其使用法。火藥類取締ニ關スル法規大要。

實修 校内ニ於テハ專ラ火藥類ノ検査、檢定及不良品ノ棄却ニ就キ實修ヲ行ハシメ火藥類ノ使用及其取扱法ニ就テハ夏期休業中各地ノ鑛山ニ於テ實修ヲナサシム

○選 鑛 學 (第二學年)

教目 現今汎ク使用ナル、選鑛法ニ關シ一般ノ知識ヲ授ク

教授要項

緒論。選鑛準備(碎鑛。洗滌、篩分、分級)。手選鑛。器械選鑛。補助選鑛。磁力選鑛、浮遊選鑛其他。附屬設備。選鑛場ノ設計。

○冶 金 學 (第二及第三學年)

教目 冶金學ニ於テハ、先ヅ各種金屬ノ冶金學上ニ必要ナル豫備學術ヲ授ケ次ニ各金屬ノ冶金學ヲ逐次講述ス、就中金、銀、銅、鉛、ハ我國產出金屬中重要ナルモノナレバ、特ニ細説ニ亙リテ之ヲ講述ス

教授要項

冶金學通論 緒論。鑛石。燃料。熔劑。鑄。裝入材料ノ計算法。冶金方法。耐火材料。冶金用爐及附屬裝置。

金冶金學 金ノ性質及合金。鑛石。洗滌法。熔鑛法。混汞法。青化法。鹽化法。分金法。

銅冶金學 銅及其化合物ノ性質。銅鑛。乾式製煉。焙燒。熔鑛。熔鋅。精銅法。濕式製煉。電氣製煉。

鉛冶金學 鉛及其化合物ノ性質。鉛鑛。「エア、リダクシオン、プロセス」焙燒還元法。沈澱法。精鉛法。

銀冶金學 銀及其化合物ノ性質。銀鑛。乾式製煉。精銀法。濕式製煉。混汞法。熔解收銀法。亞鉛冶金學 亞鉛及其化合物ノ性質。亞鉛鑛。乾式製煉。精亞鉛法。濕式製煉。電氣製煉。

錫冶金學 錫及其化合物ノ性質。錫鑛。乾式製煉。製錫法。濕式製煉。電氣製煉。

銻冶金學 銻及其化合物ノ性質。銻鑛。硫化銻製法。金屬銻製法。精銻法。

○冶金及選鑛實驗 (第三學年)

教目 冶金學及選鑛學上ノ知識ヲ確實ニ修得セシメ且實地ノ應用ニ慣練セシムルタメ休暇中ニ於テハ努メテ諸鑛山及製煉場ニ就テ見學セシムル外、校内ノ設備ニヨリテ實驗セシム

教授要項

冶金實驗ニアリテハ混汞搗鑛法、青化製煉法、燒鑛法、鑄鑛法、鍊鋅製煉法、灰吹法、電解法等ニ就テ實驗セシム  
選鑛實驗ニアリテハ、クラツシャ、ボールミル、ブルベライザー、ロール、ジツガー、テーブル等ニテ實驗セシム

○試金術及實修 (第二學年)

教目及教授要項(採礦)



教旨 試金術ハ、之ヲ乾式及濕式ニ分チ、先ツ試金術實施ニ對スル試料ノ準備、方法、器具、器械、試藥等ヲ講シ、然ル後各種鑛產物ノ試金術ヲ順次詳述シ、更ニ實修室ニ於テ其實修ヲナサシム

教授要項

通論 緒論。機械的手術。試料抽收法。秤量法。試料ノ豫察的試験。化學的手術及機械。器具。試金用試藥。

各論 乾式 金及銀。燒熔試金法。坩堝試金法。灰吹法。分金法。鉛。錫。蒼鉛。ニツケル。コバルト。銅鍍試金。石炭。

濕式 銀。銅。亞鉛。鉛。水銀。蒼鉛。マンガン。硫黃。砒素。磷。チアン。

○鐵冶金學 (第二學年)

教旨 鐵類ノ製造法及性質ニ關シ必要ナル知識ヲ授ク

教授要項

總論。銑鐵。鍊鐵。炭滲鋼。坩堝鋼。轉爐鋼。平爐鋼。電氣鋼。合金鋼。銅塊鑄造。鐵及鋼ニ關スル理論。性質。鋼材ノ試験。鐵類ノ顯微鏡的組織。

○製造冶金學 (第三學年)

教旨 工業用金屬ノ製造法、性質及應用、材料ノ製作法等ヲ講述ス

教授要項

工業用金屬及合金(一般ノ性質。合金一般ノ性質、製造法。各種合金)。鑄造法(原料、鑄造法、

鑄造上ノ注意、鑄鋼、可鍛鑄物)。金屬及合金ノ機械的加工(鍛冶。壓延。牽伸。鍛。線。管ノ製作。接合)金屬合金ノ保存法。金屬及合金ノ組織。

○機械工學及實修 (第二學年)

教旨 第二學年ニ於テ、機械工學ニ關スル概念ヲ與へ、次テ第三學年ニ於テ實修ヲ課シ、以テ、専門學科ノ補助ヲラシメシム

教授要項

各種機構及其應用。機械製作法。汽罐。煙突。蒸汽機關。蒸汽タービン。水車。タービン水車。自働揚水機。唧筒。水壓機。水壓起重機。捲揚機。架空索道。動水機關。瓦斯機關。石油發動機。

工場實修トシテハ普通機械ノ使用法及各種原動機ノ取扱法ヲ練習セシム

○土木工學 (第三學年)

教旨 採鑛冶金學科ニ密接ナル關係ヲ有スル土木工學ノ理論及其應用ニ就キテ講述シ、工事ノ設計施工ニ資スル所アラシム

教授要項

靜力學大要 緒論。外力及内力。桁ノ分類。合成及平衡。圖式解法。摩擦ノ法則及其應用。

材料力學 彈性體。單純應力。桁ノ一般理論及應用。柱ノ強弱。鐵筋混凝土桁及柱。軸ノ強度及剛性。

結構 應力ノ一般計算法。解析法ニヨル應力計算法。力率法則ニヨル應用計算法。小屋組。簡



易ナル橋樑。起重機。木材ノ結合法。綴釘結及締結。

**水力學** 液體ノ壓力及其傳播。壓力及其中心。浮體ノ安定。動水學ノ一般原則。孔口。短管及  
缺口ヨリ流出スル水量。管内流動ノ原則。

**石工學** 石材及煉瓦疊積法。基礎工。堰堤。土壓概論。擁壁。暗渠。鐵筋混凝土工。  
**施工法大要**

○法令經濟及簿記 (第三學年)

教旨 法令ニ在リテハ、現今鑛業法規及取締規則ニ基キテ講述シ、經濟ニ在リテハ、工業經濟學  
ニ關スル知識ヲ授ケ、簿記ニ在リテハ、鑛業會計ヲ整理スル簿記法ヲ知ラシムルモノトス

教授要項

**法令** 鑛業。鑛物。鑛業權ノ得喪及其手續法。試掘。採掘。鑛業用地。鑛業人。鑛業警察令。  
**經濟** 經濟學上ノ根本概念。財貨ノ生産。效果。交易。分配。工業ノ意義。種類。企業ノ方法  
及組織。工業政策。

**簿記** 簿記ノ意義。目的。職分。種類。法律ノ規定。財産。取引貸借。仕譯。勘定科目。帳簿  
ノ種類。例題記入及決算並諸表類ノ調製。

○製圖 (各學年)

教旨 鑛山用器具及機械ノ見取圖並設計製圖ヲ作成セシメ得ルノ素養ヲ作ルヲ目的トス

教授要項

第一學年ニ於テハ、平面及立体ノ書法ヲ教授シテ製圖セシメ、簡單ナル器具器械ノ見取圖ヲ練

習セシム

第二學年ニ於テハ、機械工學ノ講義ト連絡ヲ保チテ採鑛冶金用ノ機械器具ノ設計製圖並ニ見取  
圖ヲ練習セシム

第三學年ニ於テハ、鑛業用圖面ノ謄寫並採鑛選鑛及冶金實修ト關聯セシメテ機械裝置ノ設計製  
圖ヲ行ハシム



○入學者心得

本校ハ實業專門學校ニシテ、工業ニ關スル高等ノ學術及技藝ヲ授ケ、邦家ノ進運ニ適應スル實地工業者ヲ養成セントスルモノナリ、故ニ工業上必要ナル學理及技術ヲ教授スルト同時、學校内外ニ於テ實地ニ就キ學理ノ應用ヲ試ミ技術ヲ練磨セシムヘシ、又品性ノ涵養ニ重キヲ置クハ業ヨリ經濟思想ノ一班ヲモ修得セシメントヲ努ムヘシ、然レトモ學校教育ノ力ノミニ依リ、而モ僅ニ三學年間ニ於テ此ノ教育ノ目的ヲ達センコトハ容易ノ業ニアラス、故ニ本校入學者ハ其入學以前ニ於テ豫メ斯ノ如キ教育ヲ受クルニ適當スル資格ヲ具備スルノ注意アルヲ希望セスンハアラス、試ニ其資格ニ關シ要點ヲ摘記スレハ左ノ如シ

一 身體強健ニシテ勤勞ニ耐フルヲ要ス 工業家ノ成功ハ實地ノ經驗ニ依ルコト多キカ故ニ本校卒業生ノ如キハ當初幾年間ハ躬自ラ職工工夫ト伍シ實地ノ作業ニ從事シ以テ最下級ノ業務ヨリ一其經驗ヲ積ムヲ最良ノ方法トス、故ニ身體強健ナラサレハ斯ノ如キ勤勞ニ耐フル能ハス、假令學術優等ナルモ卒業後身體虛弱ナルカ爲メ往々中途ニシテ業務ヲ抛タサルヲ得サルニ至ル者アルハ最モ遺憾トスル所ナリ、是獨リ卒業生自身ノ不幸ナルノミナラス、國家モ亦失フ所尠カラ

スト云フヘシ

二 工業上ノ趣味ヲ有スルヲ要ス 凡ソ何レノ事業ヲ問ハス嗜好ヲ有セサレハ之レニ熱心ナル能ハス、熱心ナラサレハ成功スルコト能ハス、殊ニ工業上ノ實地作業ニ至リテハ勞多クシテ効少キノ觀アルヲ免カレサルヲ以テ、徒ラニ學問ノ虛名ヲ銜ヒ高遠ノ理想ニ馳スル者ノ如キハ未ダ工業者ノ高貴ナル天職ヲ解シ其趣味ヲ感得セサルニ先キ業ニ既ニ業務ヲ厭フニ至ルモノ多シ、此ノ如キハ本校學生タルノ資格ナキモノトス、故ニ入學前ニ於テ各自ノ選擇シタル専門學科ニ關スル實地ノ業務ニ從事シ、多少其趣味ヲ感得シ且工業上ノ常識ヲ養フカ如キハ最モ有効ノ準備ト謂ハサルヘカラス

三 誠實ニシテ服從ノ義務ヲ盡スヲ要ス 誠實ハ成功ノ要素中最モ重大ナルモノナリ、誠實トハ日常ノ言行ニ關シテノミ謂フニアラス亦教室ニ在リテモ工場ニ於テモ其事業ニ對シテ誠實ナルヲ謂フナリ、學生ニシテ若シ誠實ヲ缺クニ於テハ假令學業優逸ナルモ將來ノ實業家トシテ成功ヲ望ム可カラス、又學校、會社、工場等ノ如キ集合團體ニ在リテハ、其共同ノ目的ヲ達スル爲ニハ各個ニ於テ其法規及長上ノ命令ニ服從スルノ義務アルハ勿論、時トシテハ個人ノ利益若クハ感情ヲ犧牲ニ供スルノ覺悟ナカルヘカラス爰ニ於テ始テ一致協力ノ實ヲ學クルヲ得ヘキナリ



前述ノ各要件ハ本校カ入學者ニ對シ嚴ニ其具備ヲ要求セントスルモノナルヲ以テ、入學志願者ハ能ク此旨ヲ體シ豫メ其準備ヲナサンコトヲ切望ス

○入學手續 (大正五年六月改正)

- 一 入學檢定期日及入學期日  
入學檢定ハ毎年三月之ヲ行ヒ四月上旬入學セシムルモノトス  
但募集人員入學願書受付期日及試驗期日等ニ關スル要項ハ募集ノ前年十二月ニ於テ官報及新聞紙ニ之ヲ廣告ス
- 二 入學志願者資格  
校則第十一條ニ掲クル者  
但入學セントスル年ニ資格アル學校ヲ卒業スヘキ見込ノ者ハ卒業者ニ準シ出願スルコトヲ得
- 三 無試驗檢定  
校則第十二條ニ依リ無試驗檢定ヲ受ケント欲スル者ハ入學願書<sup>一號</sup>ニ學業證明書<sup>二號</sup>及檢定料參圖ヲ添ヘ指定ノ期日マテニ本校ニ提出スヘシ

無試驗檢定ハ三月上旬校則第十三條第一項ニ依リ之ヲ行ヒ適當ト認ムルモノハ本校ニ於テ體檢查<sup>標準ハ別ニ之ヲ定ム</sup>及口頭試問ノ上入學ノ許可ヲ定ム

無試驗檢定ニ於テ不充分ト認ムルモノハ更ニ試驗檢定ヲナスコトアルヘシ  
卒業見込ニ依ル志願者ニアリテハ學業證明書ノ代リニ卒業見込證明書<sup>三號</sup>ヲ提出シ置キ卒業ノ上ハ更ニ學業證明書ヲ提出スヘシ若シ指定ノ期日ニ之ヲ提出セサルトキハ入學檢定ハ無効トナスコトアルヘシ

但卒業ノ上其席次無試驗檢定ノ資格ニ達セサルモノニシテ試驗檢定期日以前ニ申出ルトキハ試驗檢定志願者トシテ試驗ヲ受クルコトヲ得

四 試驗檢定

試驗檢定ヲ受ケント欲スルモノハ入學願書<sup>一號</sup>ニ出身學校長ノ卒業證明ヲ受ケ專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗ニ合格者ニアリテハ合格證明書ヲ添ヘ檢定料參圖ト共ニ指定ノ期日マテニ本校ニ提出スヘシ  
試驗檢定ハ左ノ學科目ニ就キ中學校卒業ノ程度ニ依リ試驗ヲ施シ尙身體檢查<sup>標準ハ別ニ之ヲ定ム</sup>及口頭試問ノ上入學ノ許可ヲ定ム



- 一、國語 (作文)
- 一、英語 (英文、和譯、文法)
- 一、數學
- 一、物理
- 一、化學
- 一、幾何書法

但英語、數學ノ試験ハ二回之ヲ行フ

卒業見込ニ依ル志願者ニアリテハ卒業證明ノ代リニ卒業見込證明書四號ヲ提出シ置キ卒業ノ上ハ更ニ卒業證明書五號ヲ提出スヘシ若シ指定ノ期日ニ之ヲ提出セサルトキハ入學檢定ハ無効トナスコトアルヘシ

五 優先選抜

校則第十四條ニ依リ優先選抜ヲ願フモノハ資格證明書六號ヲ入學願書ト共ニ提出スヘシ

六 願書類及檢定料提出方

入學願書類及檢定料 (現金若クハ郵便爲替トシ爲替ハ拂渡局ヲ指定セス受取人ヲ熊本高等工業學校收入官吏ト指定スヘシ) ハ直接提出スルモノ、外悉皆同封ノ上本校校長宛入學願書ト表記シ書留郵便ニテ送付スヘシ

○入學志願者身體檢査標準

一 身體檢査ハ明治三十三年三月文部省令第四號學生生徒身體檢査規程ニ準シ之ヲ行フ

二 身體檢査ノ上左ノ各號ニ該當スルモノハ不合格トス

但第一號乃至第四號ニ關シテハ本校ニ於テ漸次増加ノ見込アリト認ムル者ハ特ニ合格ト見做スコトアルヘシ

一、身長 五尺以下

二、體重 十二貫匁以下

三、胸圍 二尺五寸以下

盈虛ノ差一寸七分以下

四、胸圍身長ノ半ニ達セス且身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商二四、〇ニ達セサル者

五、色盲

六、近視十度ヨリ強キ者

七、現ニ「トラホーム」ヲ患フル者

但速カニ治癒スヘキ見込ノ者ハ特ニ合格ト見做スコトアルヘシ

八、其他本校ニ於テ修學上不適當ナル身體ト認メタル者



○一號書式 (用紙ハ學校ヨリ交付シタルモノニ限ル)

入學願		大正何年何月何日	本籍、族稱	何府何郡何町大字何番地 <sub>華、士族</sub>
檢定種別		試驗(又ハ無試驗)	現住所	何縣何市何村大字何番地 <sub>平民</sub>
志望學科		第一志望 何々學科 第二志望 何々學科	振假名ヲ附スヘシ 氏名印	入學許可ノ通知ヲ受クヘキ所ヲ 記スヘシ
熊本高等工業學校長 氏 名殿				
履學		明治何年何月何日第一學年入學、同何年何月何日卒業退學等 同何年何月何日第一學年入學、同何年何月何日何學科卒業 何、何年何月何日補習科入學、現今在學中等 何、何年何月何日第何學年修業、現今在學中等	何々中學校 何々工業學校 何々中學校 何々高等豫備校	
歴賞罰		出願後ノ畢業 何、何年何月何日何官職任命、何業從事、何年何月何日廢業 又ハ現今在職從事等 何、何年何月何日一年志願兵トシテ何隊へ入隊、同何年何月何日滿期退營等 何々中學校第何學年在學中特待生、或ハ何々ノ賞ヲ受ク 何、何年何月何日何々ニ依リ停學何日間、或ハ何罰ヲ受ク等	何々	

家業	農、何商、何製造業、戶主何官、何會社技師、何學校教諭、訓導等
證	卒業年月 何、何年何月 卒業席次 何人中第何番
明	大正何年何月何日 何學校長 氏 名 印

○二號書式

- 一 本證明書ハ無試驗檢定入學志願者ニ限リ之ヲ要ス
- 一 本證明書ハ必ス中學校長ノ親展書タルヘシ

學業證明書

道府縣族

何、何年月日第何學年入學

氏

名

何、何年月日卒業

生年月日

右者學業成績左記ノ通ニ付茲ニ證明候也

何々學校長 氏

名 印

何、何年月日

熊本高等工業學校長 氏 名殿

學業成績



種別	國語	漢文	何々、	平均	席次
第四學年					及第者何人中 第何番
第五學年					卒業者何人中 第何番
賞罰	何、年月日何々ノ課ニ依リ何賞ヲ授與ス等 何、年月日何々ノ科ニ依リ何罰ニ處ス等 第何學年間特待生、級長、若クハ校友會委員等				
其他參事項	ナルヘキ事項				

○三號様式

本證明書ハ卒業見込ニ依ル無試験檢定入學志願者ニ限り之ヲ要ス  
本證明書ハ必ス中學校長ノ親展書カルヘシ

卒業見込證明書

道府縣族

氏

名

何、年月日第何學年入學  
何、年月日卒業

生年月日

右者從來ノ學業成績左記ノ通ニ有之卒業ノ席次首位ヨリ全數ノ十分ノ一以內ニ在ルヘキ見込充分ナリ依テ茲ニ證明候也

何、年月日

何々學校長 氏

名 印

熊本高等工業學校長 氏 名殿  
學業成績

種別	國語	漢文	何々、	平均	席次
第四學年					及第者何人中 第何番
第一學期					同學年何人中 第何番
第二學期					同學年何人中 第何番
賞罰	何、年月日何々ノ課ニ依リ何賞ヲ授與ス等 何、年月日何々ノ科ニ依リ何罰ニ處ス等 第何學年間特待生、級長、校友會委員等				
其他參事項	ナルヘキ事項				

○四號書式

本證明書ハ卒業見込ニ依ル試験檢定入學志願者ニ限り之ヲ要ス

卒業見込證明書

道府縣族

氏

名

生年月日



右者何年月日本校ヲ卒業スヘキ見込ナリ依テ茲ニ證明候也

何年月日

何々學校長 氏

名 印

熊本高等工業學校長 氏

名 殿

○五號書式

本證明書ハ卒業見込證明ニ依ル試験檢定出願者ニシテ卒業確定ノ上提出ヲ要ス

卒業證明書

道府縣族

氏

名

一、卒業年月日 何年月日

生年月日

一、修業學科(工業學校ニ限リ之ヲ要ス) 何學科

一、卒業席次 卒業生何人中第何番

一、賞 罰 何年月日何々ノ職ニ依リ何賞授與等  
何年月日何々ノ科ニ依リ何罰ニ處ス等

右證明候也

何年月日

何々學校長 氏

名 印

熊本高等工業學校長 氏

名 殿

○六號書式

本證明書ハ優先選抜ヲ願フ者ニ限リ之ヲ要ス

資格證明書

道府縣族

氏

名

一、入場及退場年月日

生年月日

一、本人ノ從事シタル業務

(成ルヘク精細ニ  
記載スルヲ要ス)

一、技能ノ程度

右證明候也

何地 何工場長(又ハ業務ノ責任アル  
監督者タルヲ要ス) 氏

名 印

何年月日

熊本高等工業學校長 氏

名 殿

○學生ニ關スル諸規程

○科長及監督教官規程

各専門學科ニ科長ヲ置ク

學生ニ關スル諸規程



- 一 科長ハ教授中ニ就キ校長之ヲ命ス
- 一 科長ハ校長ノ命ヲ受ケ其學科及學生生徒監督ニ關スル一切ノ事項ヲ掌理ス  
但共通ノ學科ニ關スル事項ハ校長之ヲ處理ス
- 一 科長不在ノ時ハ其學科所屬ノ教授中ヨリ之ヲ代理スルモノトス
- 一 各學級ニ監督教官ヲ置キ關係教官中ニ就キ校長之ヲ命ス
- 一 監督教官ハ關係科長ノ意ヲ受ケ學生生徒ノ學業督勵、風紀取締及命令諭告ノ傳達等ヲ分擔ス

○成績考査細則

- 第一條 學生ノ學業成績ハ本校規則ニ據ルノ外本細則ニ遵據シテ考査スルモノトス
- 第二條 學生ノ學業成績考査ハ每學期及學年毎ニ之ヲ行フ
- 第三條 每學期ノ成績ハ教官ノ見込ニ依リ各學科目ニ就キ隨時筆記試験、口述試験ヲ施シ若クハ平素ノ成績ニ據リ勤惰ヲ參酌シテ之ヲ考査ス
- 第四條 每學年ノ成績ハ各學科目ノ學期評點平均ニ依リ考査ス
- 第五條 各學科目ノ成績評點ハ壹百ヲ以テ最高トス
- 第六條 各學科目ノ學年評點悉ク六十以上ナルモノヲ以テ該學年ノ課程ヲ修了シタルモノトス

但六十點未滿ノ學科目數、學科目總數ノ四分ノ一(四捨五入)以下ナルトキハ詮議ニヨリ進級セシムルコトアルヘシ

第七條 第三條ノ試験ヲ受ケサル學科目ノ試験評點ハ零トス

但試験ヲ受ケサル理由正當ナリト認メタルトキハ追試験ヲ行ヒ又ハ見込ヲ以テ成績評點ヲ査定ス

第八條 卒業論文ノ評點ハ壹百ヲ以テ最高トシ六十點以上ヲ得タルモノハ合格者トス

第九條 第三學年ノ課程ヲ修了シ指定ノ期日迄ニ卒業論文ヲ提出セサルモノニハ修業證書ヲ授與スルモノトス

但其ノ期日ニ提出シ能ハサル理由正當ナリト認メタルトキハ尙時日ヲ限り之ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第十條 卒業ノ席次ハ各學年ノ平均點數ニ卒業論文ノ成績評點數ヲ加ヘ四除シテ之ヲ定ム

第十一條 規則第二十八條及第二十九條ノ卒業證書及修業證書ノ書式次ノ如シ

卒業證書



校印

廳府縣族

何

某

明治何年何月生

右者本校所定ノ土木工學科(機械、採鑛冶金)課程ヲ修メ正ニ其業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス

年月日

熊本高等工業學校長 學位勳氏

名

印

番號

修業證書

廳府縣族

何

某

明治何年何月生

校印

右者本校所定ノ土木工學科(機械、採鑛冶金)課程ヲ履修セリ依テ之ヲ證ス

年月日

熊本高等工業學校長 學位勳氏

名

印

番號

○外國人特別入學生細則

第一條 文部省直轄學校外國人特別入學規程ニ依リ本校ニ入學ヲ許スヘキ者ハ品行方正ニシテ入學試驗及身體檢査ニ合格シタル者ニ限ル

第二條 本校ニ入學ヲ許スヘキ人員ハ設備上ノ都合ニ依リ毎年之レヲ定ム

第三條 入學試驗ハ左ノ學科目ニ就キ之ヲ行フ

一、邦語 一、英語

一、數學 一、物理及化學

第四條 入學ヲ願フ者ハ入學願書ニ檢定料金參圓ヲ添ヘ之ヲ差出スヘシ



但シ既納ノ檢定料ハ何等ノ理由アルモ之レヲ返付セス

第五條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ本校ニ於テ適當ト認メタル本邦在住者ヲ保證人トシテ指定ノ期日迄ニ在學證書ヲ差出スヘシ

第六條 病氣其他已ムヲ得サル事故ノ爲メ退學セントスル者ハ其事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ

第七條 每學年各學科目ノ學年評點悉ク三十三點以上ヲ得タル者ニハ第三學年ノ終ニ於テ修業證書ヲ授與ス

第八條 前條ノ規程ニ合格セサル者ハ願ニ依リ原級ニ止マリ其課程ヲ再修スルコトヲ得  
但ニケ年以上同一學年級ニ止マルコトヲ得ス

第九條 成績考査諸規定ニ照ラシ本校ノ卒業程度ト同等ノ學力アリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スルコトアルヘシ

第十條 本細則規定ノ外本校規則第一條乃至第九條第十九條第二十三條(第一號、第五號、第六號ヲ除ク)第二十四條第三十三條乃至第三十六條及第三十九條ヲ適用ス

### ○圖書閱覽規程

第一條 閱覽室ハ休日ヲ除ク外毎日午前八時ニ開キ午後五時ニ閉ツ但土曜日ハ午後三時ニ閉ツ

第二條 學生ニハ每學年ノ始メニ於テ所定ノ圖書閱覽票ヲ交附ス

第三條 圖書ヲ借覽セントスル者ハ所定用紙ノ欄内ニ相當ノ事項ヲ明記シ之ヲ自己ノ閱覽票ニ添ヘ掛員ニ差出スヘシ

第四條 一人ニテ一時ニ借覽シ得ヘキ圖書ハ五部以内トス

第五條 閱覽ヲ了リタル圖書ハ速ニ返納スヘシ

第六條 借覽セル圖書ハ閱覽室外ニ携出スルコトヲ得ス 但學生ハ特別ノ事情ニ依リ學科擔當教官ノ認許ヲ得テ日時ヲ限リ携出スルコトヲ得

第七條 借覽ノ圖書ヲ紛失又ハ汚損シタルトキハ其損害ノ多少ニヨリ修繕又ハ辨償セシム

### ○寄宿舎規程

第一條 本校寄宿舎ハ工友寮ト稱ス

第二條 本寮ノ綱領ハ左ノ如シ

第一 寮生ハ和親ヲ旨トシ禮義ヲ重ンジ協同自治ノ精神ヲ發揮スヘシ

第二 寮生ハ規律ヲ守リ誠實ヲ旨トシ勤勉力行ノ風ヲ養成スヘシ



- 第三 衛生ニ留意シ體育ヲ重ンジ身體ノ健全ヲ圖ルヘシ
- 第三條 在寮生ハ綱領ニ基キ規約ヲ定メ校長ノ認許ヲ受ケテ之ヲ實行スヘシ
- 第四條 入寮若クハ退寮セント欲スルモノハ豫メ校長ヘ願出ツヘシ

○寄宿舎寄宿料徴收規程

- 第一條 寄宿料ハ一ヶ月金壹圓トシ毎月十日ヨリ十二日マテニ本校會計課ニ納付スヘシ  
但七月及八月ハ之ヲ徴收セス
- 第二條 寄宿料納付期日後ニ入舎シ又ハ同期日前ニ退舎スル者ハ其月ノ寄宿料全額ヲ其際納付スヘシ
- 第三條 既納ノ寄宿料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ返付セス

○級長規程

- 第一條 各學科各學年級ニ級長副級長各一名ヲ置ク
- 第二條 級長ハ其級ヲ代表シ其級ニ係ル諸般ノ事務ニ執筆スルモノトス
- 第三條 副級長ハ級長ヲ補佐シ級長事故アルトキハ之ヲ代理ス
- 第四條 級長、副級長ハ其級ノ親和ヲ圖リ秩序及風紀ノ維持ニ注意スヘシ

- 第五條 級長、副級長選定ハ每學年ノ始メニ於テシ其級ノ學生ヲシテ各二名宛ノ候補者ヲ選舉セシメ其中ニ就キ學校長之ヲ命ス

但第一學年級ノ級長、副級長ハ第一學期間ハ學校長之ヲ指名シ第二學期ノ始メニ於テ之ヲ選定ス

- 第六條 學校長ハ必要ニ應ジ級長會議ヲ開クコトアルヘシ

○製圖室並學生控所委員規程

- 第一條 製圖室並ニ學生控所ノ整頓及清潔ヲ維持スル爲メ委員ヲ設ク
- 第二條 製圖室委員ハ各學科各學年ニ一名宛トシテ學生控所委員ハ一名トス
- 第三條 製圖室委員ハ席順ニ之ヲ擔當シ學生控所委員ハ最上學年生中ヨリ三學科交番ニ席順ニ之ヲ擔當ス

但級長ハ之ヲ除ク

- 第四條 委員ハ毎土曜日正午ニ於テ交代シ其姓名ハ學生課ニ於テ當該場所ニ其都度之ヲ揭示ス
- 第五條 各委員ハ服務中行ヒタル事務ヲ服務録ニ摘記シ交代前ニ學生課ニ差出スヘシ
- 第六條 委員欠課セシトキハ告知ヲ待タス次席者之ヲ代理ス



但シ代理三日以上ニ及ブトキハ次回ノ服務ヲ除ク

第七條 各委員ハ服務上ノ必要ニ應シテ小使ヲ使役スルコトヲ得

○學生服裝規程

第一條 本校學生ノ制服左ノ如シ

一、正 帽

一、地 質 黒色ノ絨

一、製 式 海軍形(畧圖參照)

一、前 章 金色、九工字ヲ以テ圓形ニ配列シ中央ニ高工ノ二字ヲ入レタルモノ

(直一吋一分)(畧圖參照)

一、眼 庇 黒色革

一、頤 紐 黒色革(巾四分)

一、頤 紐 釦 金色圓形校章入(直三分五厘)

二、畧 帽

一、質 麥 藁

一、形 一文字形(畧圖參照)

一、リボン 黒色(巾二吋)

一、前 章 正帽ニ同シ

三、正 服

一、地 質 黒色ノ絨或ハ小倉

一、製 式 上衣ハ脊廣立襟形袴ハ長袴(畧圖參照)

一、胸 釦 金色圓形校章入(直七分)(畧圖參照)

一、袖 釦 全上(直五分五厘)(畧圖參照)

一、襟 章 金色、土木工學科ハCE、機械工學科ハME、採鑛冶金學科ハMM、ノローマ  
ンゴシツク形文字(畧圖參照)

但襟章ハ左襟ニ付ス

四、畧 服

一、地 質 鼠及ハ霜降ノ「セル」或ハ小倉

一、製 式 正服ニ同シ



一、胸 釦 正服ニ同ジ

一、袖 釦 正服ニ同ジ

一、襟 章 正服ニ同ジ

第二條 登校ノ際ハ必ス制服ヲ着用スヘシ

但新入學生ニハ其年ノ四月三十日マテ本條ヲ適用セス

第三條 登校ノ際制服ヲ着用シ能ハサルトキハ其事由ヲ學生課ニ申出テ許可ヲ受クヘシ

第四條 畧帽畧服ヲ着用シ得ル期間ハ五月一日ヨリ十月三十一日マデトス

第五條 儀式其他之ニ準スル場合ニハ必ス正帽正服ヲ着用シ黒靴ヲ穿ツヘシ

第六條 機械工學科、採鑛冶金學科學生ハ實驗工場、實習室ニ於ケル實習ニ從事スルトキハ必ズ

作業服ヲ着用スヘシ

作業服ノ地質ハ淺黃小倉トス(製式略圖參照)



正帽



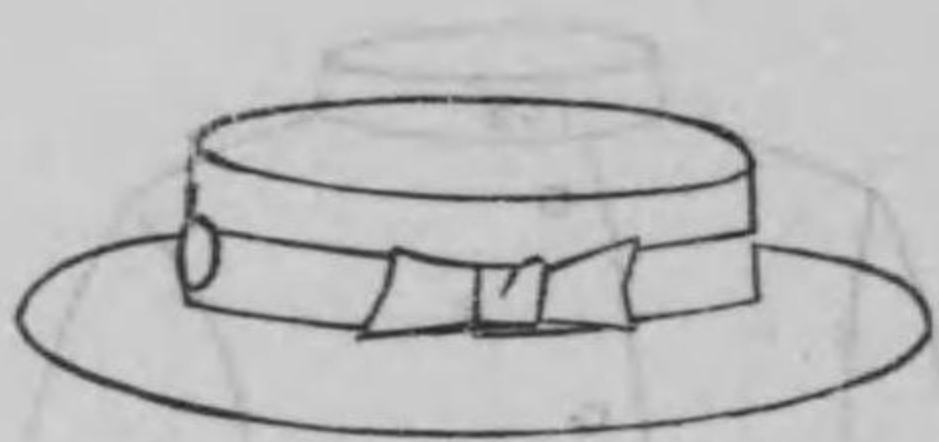
襟章



胸釦



袖釦



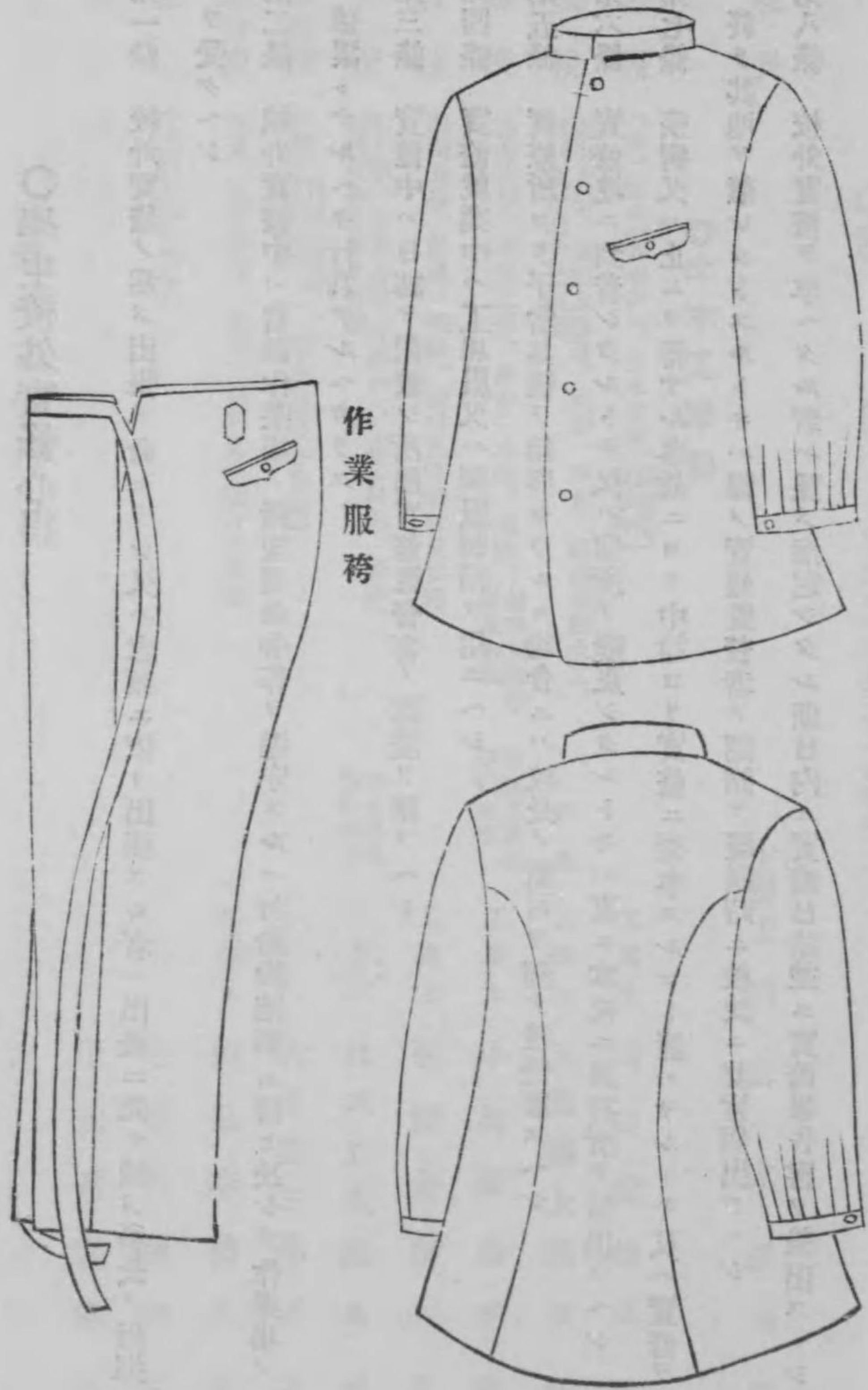
略帽



襟章





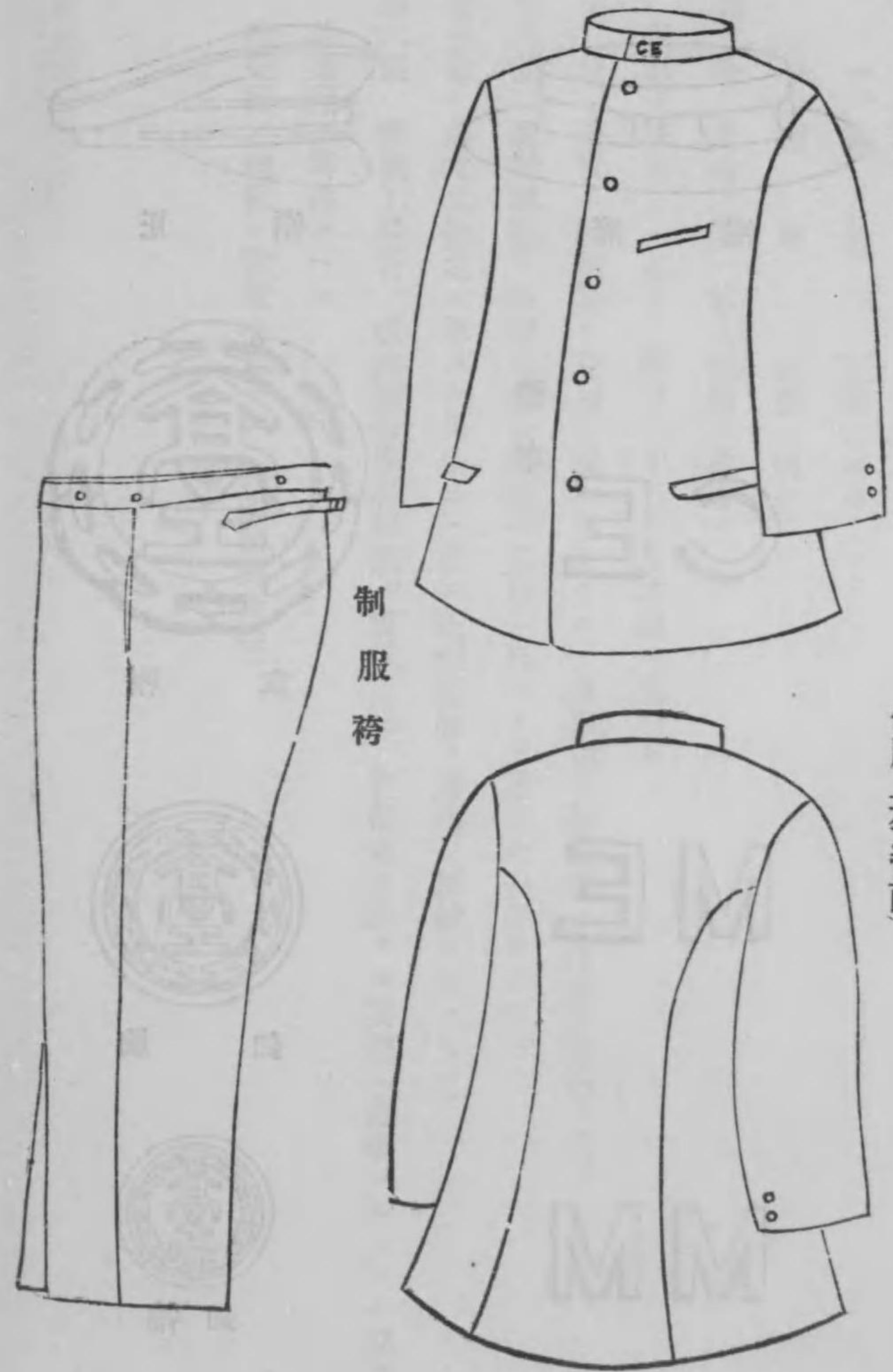


作業服上衣(前面)

作業服袴

作業服上衣(背面)

制服上衣(前面)



制服袴

制服上衣(背面)



○學生校外實修心得

- 第一條 校外實修ノ爲メ出張ヲ命セラレ又ハ志願ニ依リ出張スル者ハ出發ニ先チ豫メ科長ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第二條 校外實修中ハ當該作業場ノ諸規則命令等ヲ遵守スルハ勿論勤勉事ニ從ヒ決シテ作業場ノ係累トナルヘキ行爲アルヘカラス
- 第三條 實修中ハ日誌ヲ記載シ所屬實修監督者ノ認證ヲ請フヘシ
- 第四條 實修就業中ハ工場服又ハ制服制帽ヲ用ユヘシ
- 第五條 實修所ヨリ手當其他ヲ給與セラル、場合ニハ校長ノ認可ヲ經テ後受領スヘシ
- 第六條 實修地ニ到着シタルトキ又ハ宿所ヲ變更シタルトキハ直ニ本校ニ其宿所ヲ届出ツヘシ
- 第七條 疾病又ハ止ムヲ得サル事故ニヨリ中途ヨリ實修ニ從事スルコト能ハサルトキ又ハ實修ヲ終リ其地ヲ離レントスルトキハ豫メ實修監督者ノ認諾ヲ經同時ニ校長ニ其旨届出ツヘシ
- 第八條 校外實修ヲ卒ヘタル者ハ豫メ指定シタル期日內ニ實修日誌並ニ實修報告書ヲ差出スヘシ

土木工學科

○職員

(大正六年五月三十一日現在)

校長

工學士 川口 虎雄 福岡

○土木工學科

- 教授 (兼)修身(各學科)、土木工學(探礦冶)(金學科) 工學士 川口 虎雄 福岡
- 教授 應用力學、道路及鐵道、英語、測量、鐵筋混凝土、 工學士 三浦 鑄太郎 愛知
- 教授 材料實修設計及製圖 科長 工學士 小 濤 茂 橋 福岡
- 教授 河海工學、衛生工學、水力、水路、英語、計及製圖 附屬工業夜 工學士 遠 藤 金市 島 取
- 教授 應用力學、橋梁、英語、材料實修設計及製圖 學校主事 工學士 松本 岩太郎 島 根
- 教授 石工學、家屋構造(各學科)、建築材料、英語、 第五高等 工學士 大平 柏三郎 東 京
- 教授 材料實修設計及製圖 學校教授 工學士 德 弘 春美 高 知
- 助教 測量(機械及探礦)、測量實修(各學科) 工學士 下田 竹雄 熊 本
- 助教 測量(冶金學科)、測量實修(各學科) 工學士 甲斐 爲直 熊 本
- 助教 測量、幾何畫法、橋梁、材料實修設計及製圖 工學士 德 弘 春美 高 知
- 雇 (土木工學科助手) 工學士 下田 竹雄 熊 本
- 雇 (同上) 工學士 甲斐 爲直 熊 本

○機械工學科

職員



教授 水力學、水力機械、紡織機、礦山用、特別講義、製圖實驗及實驗、機械、特別講義、製圖實驗  
 教授 材料強弱學、力學及圖、船用、機務學、製圖實驗及實驗、式力學、機務學、及實驗

教授 (外國留學中)

陸軍工兵中尉 第三高等學校工學士 小出廣太郎 德島

教授 蒸氣、機關車、熱力學及瓦斯石、製造治、特別、製圖實驗、機關、熱機關實驗、油機關、金、學、講義、及實驗

工學士 鈴木憲一 愛知

助教授 幾何、機械製作、機械設計、機械工學實修(採鑛治) 實驗工場主任心得

工學得業士 棟久藏 熊本

助教授 機械工學(土木及採鑛)、製圖實驗及實驗、製圖(採鑛治)

陸軍工兵少尉 工學得業士 田中重芳 高知

外國教師 機械工場實修(機械及採鑛)(冶金學科)

フレッド、シリ、ワイドラフ 米國

雇 (機械工學科助手)

豐永治 一熊 本

雇 (同上)

永田茂 熊 本

○採鑛冶金學科

教授 採鑛學、英語、製圖

科長 工學士 大橋多吉 鹿兒島

教授 冶金學、試金術及實驗、冶金實驗

工學士 大森偉一郎 熊本

教授 測量及實驗、選礦學、鐵冶金學、製造冶金學、建築材料(土木工學科)、吹管分析、火藥學及實驗、選鑛實修

陸軍歩兵少尉 工學士 湯淺宗一 山口

教授 地質學(土木工學科)、礦物學及地質學、鑛床學、礦物及岩石識別

理學士 中尾清藏 山口

教授 化學、化學分析

島田貢 熊本

雇 (採鑛冶金學科助手)

島山重雄 熊本

雇 (同上)

富田謙之介 熊本

雇 (同上)

陸軍歩兵少尉 福田不可欺 熊本

雇 (同上)

江副篤 熊本

○共通學科

教授 修身、英語

文學士 佐々木宗要 大阪

教授 數學

林鶴松 熊本

教授 物理學、電氣工學、電氣工學實驗及實驗

工學士 福田雋一 大分

講師 工業經濟、法令(採鑛冶金學科)

法學士 甲斐群藏 熊本

講師 土木行政(土木工學科)

法學士 岡村喜一郎 熊本

講師 工業簿記(機械及採鑛冶金學科)

谷口實次 愛媛

助教授 英語

余田司馬人 熊本



職員

110

囑託 兵式體操

陸軍工兵中尉 島野至平 熊本

囑託 兵式體操

陸軍歩兵中尉 甲斐克久 大分

囑託 電氣工學實修及實驗

猿渡源藏 熊本

○庶務課

書記

官報報告主任 課長 安藤兎麒 熊本

雇

吉水心月 熊本

○教務課

書記 (兼)

課長 余田司馬人 熊本

書記

寺田徹 熊本

書記

陸軍砲兵軍曹 粟津茂雄 熊本

囑託 (兼)

甲斐克久 大分

雇

中村津直 熊本

○學生課

書記 (兼)

課長 余田司馬人 熊本

書記 (兼)

粟津茂雄 熊本

囑託 (兼)

島野至平 熊本

雇

廣瀬保久 熊本

○會計課

書記

主任收入官吏 會計主任 課長 右田彌太郎 熊本

書記 (兼)

蒲池玄造 熊本

雇

寺田徹 熊本

雇

黒川潔 熊本

雇

北岡龜喜 熊本

○校醫

囑託

醫學得業士 柿田末四郎 熊本

○武術教師

囑託 (劍道)

教士 宮脇彈次 熊本

囑託 (柔道)

教士 神江恒雄 熊本

職員

111







設備及經費ニ關スル諸表

名稱	構造	棟數	坪	數	價	價	格
食堂	木造	一		二〇	二〇	一、一九八、三九五	
書庫	煉瓦造	一		二〇		四、二一七、一七〇	
學生集會所	木造	一		六一		二、四一五、八〇〇	
學生控所	木造	一		四九		一、五八二、七二〇	
油瓦斯發生器室	木造	一		八		五九五、〇〇〇	
倉庫、門衛所等	木造	一六		二六二		七、五四一、三五六	
其他營造物 (煙突、門等)						一〇、二五七、六一四	
計		三五		一、九〇六		一七〇、九七五、六五五	

○各科機械及標本

種別	個數	價	格
機械工學科	四七〇		八七、五六六、七〇一
土木工學科	一七一		一、一二四、一七〇
採鑛冶金學科			二一、七四二、三八〇
物理學科			二、九六三、九二〇
博物學科			一七、八〇九、八九六
全標本			一七一、六一〇
製圖用及寫真用			二、九六四、四九〇
地質學科			二、一五七、一八〇
全標本			二、四三七、八九〇
體操科			一、三三四、三九〇
戰利品標本			九、九五〇
計			一五二、九〇八、三三一
			一二、七三八、六四〇

○各學科實驗用主要機械

種別	個數	價	格
機械工學科	四、三〇九		八七、五六六、七〇一
土木工學科	一三九		一、一二四、一七〇
採鑛冶金學科	一、二四四		二一、七四二、三八〇
物理學科	一五四		二、九六三、九二〇
博物學科	四六七		一七、八〇九、八九六
全標本	三九		一七一、六一〇
製圖用及寫真用	七二四		二、九六四、四九〇
地質學科	四三二		二、一五七、一八〇
全標本	七七四		二、四三七、八九〇
體操科	一、二六一		一、三三四、三九〇
戰利品標本	一三		九、九五〇
計	一八、九〇七		一五二、九〇八、三三一
	二、九〇七		一二、七三八、六四〇

設備及經費ニ關スル諸表



設備及經費ニ關スル諸表

種別	個數	價格	種別	個數	價格
テスチングマシン	一	一七、五五二、二〇〇	ホルセンズ、ユニバーサル テスチングマシン	一	一、三〇〇、〇〇〇
繰返打式鑿材料試驗機	一	三九〇、〇〇〇	油類試驗機	一	一、二八、〇〇〇
壓力試驗機	一	一五〇、〇〇〇	水壓試驗機	一	五六五、〇〇〇
電動機	一	一、〇二二、〇〇〇	セントリフュガル ポンプ	一	四五五、〇〇〇
トラバルタービン	一	一、二七五、〇〇〇	高壓水タンク	一	七九六、一〇〇
分析用天秤	一	一、〇〇四、八〇〇	電氣分析裝置	一	三七三、六〇〇
電動測定裝置	一	一、二四、二三〇	電氣爐	一	二〇一、二四〇
各種瓦斯爐	五	三五五、六八〇	レノールドレイ氏 坑内空氣試驗裝置	一	一三五、〇〇〇
放射能測定用驗電機	一	二一〇、〇〇〇	標準節	一	三〇四、〇〇〇
ベルテロー氏 カロリメーター	一	二八七、一八〇	バイロメーター	二	六六八、八九〇
直流發電機	四	七九三、〇〇〇	直流電動機	四	二六六、八五〇
電動發電機	二	四七〇、〇〇〇	交流電動機	二	一七三、九五〇

種別	個數	價格	種別	個數	價格
變壓器	六	二九一、〇〇〇	電力計	三	四二〇、五〇〇
電流計	二	八二六、三〇〇	電壓計	一	四五五、二〇〇
力率計	一	一一三、五〇〇	精密電流計	九	一、〇〇三、〇九〇
電壓電流計	五	三九二、〇〇〇	電氣計	二	二二七、一〇〇
無線電信裝置	一	四六二、〇〇〇	電磁石	一	四三五、〇〇〇
度盛器械	一	九〇七、五〇〇	排氣機	二	三五七、〇〇〇
カセドメーター	一	一五〇、〇〇〇	晴雨計	一	一二五、〇〇〇
力ノ平行方形器	一	一九五、〇〇〇	光度計	三	三七〇、八〇〇
實物映寫機械	一	一、二一〇、〇〇〇	寫真器械	一	一六三、五〇〇
風琴	一	二〇〇、〇〇〇	活動寫真機	一	二一八、〇〇〇
トランジット	一	二七七、三九〇、七七〇	測角儀	二	二七二、一五一、七四五
水準儀	三	三四三、七六七、三九〇	流速計	五	七一一、七一〇
平板儀	一	三一五、〇〇〇	縮圖器	二	一六一、〇〇〇

設備及經費ニ關スル諸表



種別	個數	價格	種別	個數	價格
測面器	一二	五五二、三九〇	橋梁驗測用器械	一	七四、三〇〇
撈度振動記録器	一	一三四、五〇〇	ブイツガエキステンゾマ Iター	一	四八〇、〇〇〇
セメント試験機	二	四五〇、〇〇〇	驗潮器(自記)	一	九五、〇〇〇
晴雨寒暖計(自記)	一	九一、〇〇〇	雨量計(自記)	一	一〇〇、〇〇〇

○機械工學科工場用主要機械

種別	個數	價格	種別	個數	價格
汽機	一	一、八四九、五〇〇	汽機 (整形)	一	一〇〇、〇〇〇
全(直立式二聯成公稱十 二馬力表面冷汽機)	一	一、八四四、〇〇〇	カロスレー式公稱三十二馬 瓦斯發動機機關	一	一、二、三三二、六七〇
バブコックウヰルコックス 水管式汽機	一	二、四七二、〇〇〇	ラストン式 瓦斯機關	一	四九八、五〇〇
カロスレー式 サクシヨン瓦斯發生機	一	一、四九五、〇〇〇	高壓石油發動機	一	九八四、〇〇〇
石油發動機	二	二、〇九四、〇〇〇	發電機	二	八四二、〇〇〇
熱空氣機關	一	四五〇、〇〇〇			

電動機	個數	價格	電動機	個數	價格
ユニバーサル モーター ノートン旋盤	一	一、八八五、〇〇〇	八呎高速度旋盤	一	三三〇、〇〇〇
ノートン旋盤	一	四六〇、〇〇〇	各種旋盤	一	九〇〇、〇〇〇
ビットレル式旋盤	一	四九八、七五〇	各種旋盤	一	一、〇〇四、〇〇〇
起重機	一	八八四、〇〇〇	架梁起重機	一	七五八、〇〇〇
スチームハンマー	一	七三五、五〇〇	シエーボンクマジン	一	四九八、五〇〇
ドリリングマジン	三	三二、一四〇、七〇〇	ボーアリングエンド ドリリングマジン	一	二、二九九、〇〇〇
ユニバーサル グラインダー	一	二、〇五〇、〇〇〇	各種グラインダー	五	六七五、四五〇
プレーニングマジン	一	一、八七五、〇〇〇	ペルギヤ プレーニングマジン	一	二、七六〇、〇〇〇
スロットチンクマジン	一	四九三、五〇〇	ハンドモーリングマジン	一	六〇四、八〇〇
タクリユートインクマジン	一	六二一、〇〇〇	センタリーリングマジン	一	三八〇、〇〇〇
コイルドメタルソー インクマジン	一	四九五、〇〇〇	各種ポンチンク及 シヤリングマジン	四	四八三、一五〇
シロア式 スケレスコープ	一	三八五、〇〇〇	ロー ル 機	二	五二六、〇〇〇



設備及經費ニ關スル諸表

種別	個數	價格	種別	個數	價格
エヤーコムプレスサ 電動機共	一	七三六、〇〇〇	丸鋸及帶鋸機械	一	三四〇、五〇〇
自働排風機共	一	六一八、〇〇〇	乾式瓦斯計量器	二	二七〇、〇〇〇
ザユーロメーター エラストロメーター	一	一三三、〇〇〇	灌水研磨機	一	二五〇、〇〇〇
鋸自立機械	一	三六四、〇〇〇	木工用鉋削機	一	五〇〇、〇〇〇
各種扇風機	三	八三七、五二六	オキシアセチレン 溶接及切断装置	一	四五〇、〇〇〇

○採鑛冶金學科工場用主要機械

種別	個數	價格	種別	個數	價格
風爐	四	一、五〇二、〇九〇	電氣爐	三	七四〇、〇〇〇
熔爐	四	一、五〇二、〇九〇	送風器	一	二四〇、〇〇〇
空氣唧筒	一	一一三、〇〇〇	青化收金試驗裝置	一	一二五、〇〇〇
球丸碎鑛器	一	五〇一、〇〇〇	キユベルマシ ン	一	一八九、〇〇〇
ウヰルフレ ー淘汰盤	一	四六五、〇〇〇	擣鑛器	一	五四五、〇〇〇
パ ー ボ リ ツ シ ン グ マ シ ン	一	一一〇、八〇〇			
シ ツ カ ー	一	四二八、〇〇〇			
嘴 岩 機	二	三二六、〇〇〇			
電 動 機	二	五五五、四〇〇			
電 動 發 電 機	一	六三、六〇〇			

○圖書

種別	部數	冊數	價格	新聞雜誌
洋書	五、二四六	五、八八五	三一、七六九、三六九	本邦及歐米新聞 十一種
和書	一、六二九	一、九一四	三、一八六、八二五	本邦及歐米雜誌 九十三種
計	六、八七五	七、七九九	三四、九五六、一九四	

設備及經費ニ關スル諸表



○經費

種別	創設		立		費		大正六年度豫算(歳入)
	新	舊	設	備	計	計	
舊工學部	四五、六六、九〇	一七、四九、八六九	六三、一六、七九九	政府支出金			六二、七九〇、〇〇〇
本校	一五、〇〇〇、〇〇〇	五七、四二九、八六九	一五、〇〇〇、〇〇〇	諸收入			一五、〇一〇、〇〇〇
計	一六、六六六、九〇〇	七四、九〇八、七三九	七八、一六六、八〇〇	計			七七、八〇〇、〇〇〇

○學生生徒及卒業生ニ關スル諸表

(大正六年四月三十日現在)

○學生生徒數

學科	本			撰	科	計
	年級	第三學年	第二學年			
土木工學科	二四	×三九	四〇	四〇	三	×一〇六
機械工學科	二五	四〇	四〇	四〇	四	一〇九
採鑛冶金學科	三三	三五	四〇	四〇	九	一一六
合計	八一	×一一四	一二〇	一二〇	一六	×三三一

備考 ×印ハ特別入學支那人ヲ表ハス

○學生年齡比較

年級	土木工學科			機械工學科			採鑛冶金學科		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
第一學年	二五、二	一七、二	二〇、二	二三、三	一七、四	一九、七	二六、一	一七、七	二〇、三
第二學年	二六、三	一八、二	二二、六	三三、一	一八、四	二〇、六	二四、二	一九、〇	二二、五
第三學年	二七、五	一九、三	二三、三	三四、六	一九、二	二二、七	三三、二	一九、二	二二、九

○學生生徒父兄職業別

種別	學年	土木工學科			機械工學科			採鑛冶金學科			計	百分率
		最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均		
農業		△三三	△三一	△三九	△三一	△二七	△一〇八				三三、四	
商業		一四	△二一	△一九	△一七	一五	△四〇				一一、七	
工業		四	△一七	△一八	△一七	△一八	△二九				六、三	
官公職ニ在ル者		△一九	△一九	一七	△三一	△三一	△四七				一五、四	



學生生徒及卒業生ニ關スル諸表

種別	學年		計	百分率
	土木工學科	機械工學科		
社員	八	九	△三八	八、四
雜職	六	八	△二六	六、〇
無職	△二一	一四	△五七	一七、八
合計	△三四	一〇四五	△三九七	一〇〇、〇

備考 △印ハ獨科生ヲ表ハス

○入學志願者入學者數 (最近三ヶ年)

學科	年度			計
	大正四年	五年	六年	
土木工學科	△八一 四六一	△一四 一五〇	△二四 一四	△三一 三六
機械工學科	△二四 三四七	△二五 五六〇	△三四 二四	△三一 三五
採鑛冶金學科	△一五 四一一	△一三 三八	△三五	△三一 三七
合計	△五七 一〇九	△五三 四七四	△一〇 三三	△一〇 五四

備考 △印ハ無試験檢定ニ依ルモノ×印ハ特別入學支那人ヲ表ハス

○學生ノ學費及諸入費

本校入學當初ニ於ケル入費概算左ノ如シ

種別	金額	種類	金額
製圖用具	二、〇〇〇	作業服	二、〇〇〇
冬制服帽共	二、〇〇〇		
夏制服帽共	五、〇〇〇	計	三、〇〇〇

備考 表中作業服ハ土木工學科學生ニ限リ之ヲ要セス

本校在學生ノ各學年ニ要スル學費概算ハ左表ノ如シ表中授業料ヲ除クノ外ハ總テ平均ニ近シト信スル所ニ據リ算出シタルモノトス

種別	第一學年	第二學年	第三學年	計
授業料	三〇〇	三〇〇	三〇〇	九〇〇
教科書	一七〇	一七〇	一七〇	五一〇
紙、鉛筆、筆、墨	一五〇	一六〇	一六〇	五一〇
其他教室用諸品				

學生生徒及卒業生ニ關スル諸表



學生生徒及卒業生ニ關スル諸表

種別	第一學年	第二學年	第三學年	計
靴 (修理費共)	六〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇	一八〇〇〇
寄宿費	八六〇〇〇	八六〇〇〇	八六〇〇〇	二五八〇〇〇
工友會費	四〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	一〇〇〇〇
シャツ、靴下其他	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	九〇〇〇
洗濯代等諸雜費	一六〇〇〇	一九〇〇〇	一九〇〇〇	五六〇〇〇
計	一六〇〇〇	一九〇〇〇	一九〇〇〇	五六〇〇〇

備考 授業料、書籍代、及工友會費ヲ除キ一ヶ月ノ費用約拾參圓九拾錢ナリ右表ノ外校外實修費トシテ若干ノ費用ヲ要スレトモ各科各生一様ナラザレバ表中ニ掲上セヌ又市中一般ノ學生下宿料ハ普通月額約拾圓内外ナリ

○學資給費貸費學生調

法人財團會社又ハ個人ノ給費貸費ニ依ル者	一三	海軍造兵生徒	一	計	一四
---------------------	----	--------	---	---	----

○卒業生數

卒業年次	學科	土木工學科	機械工學科	採鑛冶金學科	計
明治三十四年 (舊工學部第一回)		五	四	一	九
三十五年 (第二回)		一	八	一	九
三十六年 (第三回)		一〇	八	一	一八
三十七年 (第四回)		五	九	一	一四
三十八年 (第五回)		一〇	一七	一	二七
三十九年 (第一回)		二〇	一九	一	三九
四十年 (第二回)		一六	一五	一	三一
四十一年 (第三回)		二五	二一	一	四六
四十二年 (第四回)		五一	五〇	一	一〇二
四十三年 (第五回)		△二八	△三三	二七	△八八
四十四年 (第六回)		三三	△二八	△二八	△八八
四十五年 (第七回)		二二	二四	△二六	△七二

學生生徒及卒業生ニ關スル諸表



學生生徒及卒業生ニ關スル諸表

卒業年次	學科				計
	土木工學科	機械工學科	探鑛冶金學科	探鑛冶金學科	
大正二年 (第八回)	二二	二二	二四	二七	△二七
三年 (第九回)	△二七	二二	二二	二〇	△七〇
四年 (第十回)	三一	△二五	二二	二二	△七四
五年 (第十一回)	△二七	△二二	二二	二一	△六八
六年 (第十二回)	△三一	△二六	二二	二一	△八八
合計	△三七六	△三五八	△二二四	△二八四	△九五四

備考 △印ハ機科修了生ヲ表ハス

○卒業生職業別

種別	土木工學科	機械工學科	探鑛冶金學科	計	百分率
技術官吏	二三七	九五	二四	三五六	三七、五
會社等ノ技術員	六四	一九一	一六二	四二五	四四、七
工業教員	二	七	一	一〇	一、一

種別	土木工學科	機械工學科	探鑛冶金學科	計	百分率
自營	二	五	二	九	〇、九
修學	一	一	三	三	〇、三
外國留學	一	三	一	五	〇、五
兵役	六	九	八	二三	二、四
病氣靜養中	四	五	一	一〇	一、一
當時無職	三一	一二	一〇	四五	四、七
不詳	一	一	一	三	〇、一
死亡	二三	二四	八	五五	五、八
外國人	二	四	三	九	〇、九
合計	三七二	三五五	二二四	九五一	一〇〇、〇

○在學生並卒業生地方別

學生生徒及卒業生ニ關スル諸表







地方別	在學					卒業生				
	土木工學科	機械工學科	金探學科	礦冶學科	計	土木工學科	機械工學科	金探學科	礦冶學科	計
富山				一	一					
鳥取					一					
島根					三					
岡山					五					
廣島					九					
山口				△ 一六	△ 二六					
和歌山					二					
徳島					一					
香川					二					
愛媛					〇					
高知					九					
計	二	四	三	九	一〇	一	一	一	一	二七

地方別	在學					卒業生				
	土木工學科	機械工學科	金探學科	礦冶學科	計	土木工學科	機械工學科	金探學科	礦冶學科	計
福岡					△ 二四					△ 二一八
大分					〇					△ 七八
佐賀					七					△ 八〇
熊本					△ 一七					△ 二九八
宮崎					二					一
鹿兒島					八					△ 四四
沖繩										四
朝鮮										二
支那					一					△ 二七
比律賓										二
總計	△ 一〇三四	△ 一〇四五	△ 一〇九七	△ 三二六六	△ 三七六二	△ 三五八五	△ 二二〇四	△ 二二〇四	△ 九五四一	△ 三三四一

備考 表中△印ハ換科生ナリ

學生生徒及卒業生ニ關スル諸表



自明治三十四年 卒業生死亡者調 (大正六年三月三十一日調)  
至大正六年

學科	卒業年次	土木工學科		機械工學科		探金學科		總計	
		卒業人員	死亡人員	卒業人員	死亡人員	卒業人員	死亡人員	卒業人員	死亡人員
學科	明治三十四年	五	一	四	一	九	二	一四	三
同	三十五年	一	一	八	三	一	一	一〇	五
同	三十六年	一	一	八	〇	一	一	一〇	二
同	三十七年	一	一	九	〇	一	一	一〇	一
同	三十八年	一	一	七	二	一	一	九	三
同	三十九年	一	一	九	一	一	一	一〇	一
同	四十年	一	一	一	一	一	一	三	一
同	四十一年	一	一	一	一	一	一	三	一
同	四十二年	一	一	一	一	一	一	三	一
同	四十三年	一	一	一	一	一	一	三	一
同	四十四年	一	一	一	一	一	一	三	一
同	四十五年	一	一	一	一	一	一	三	一
同	四十六年	一	一	一	一	一	一	三	一
計		五	五	四	四	九	九	一四	一四
計		二	二	二	二	二	二	二	二
計		三	三	三	三	三	三	三	三
計		四	四	四	四	四	四	四	四
計		五	五	五	五	五	五	五	五
計		六	六	六	六	六	六	六	六
計		七	七	七	七	七	七	七	七
計		八	八	八	八	八	八	八	八
計		九	九	九	九	九	九	九	九
計		一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
計		一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
計		一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二
計		一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
計		一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
計		一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
計		一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
計		一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七
計		一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
計		一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九
計		二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
計		二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一
計		二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
計		二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三
計		二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四
計		二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
計		二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
計		二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七
計		二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八
計		二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
計		三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
計		三一	三一	三一	三一	三一	三一	三一	三一
計		三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二
計		三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
計		三四	三四	三四	三四	三四	三四	三四	三四
計		三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五
計		三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六
計		三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七
計		三八	三八	三八	三八	三八	三八	三八	三八
計		三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
計		四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
計		四一	四一	四一	四一	四一	四一	四一	四一
計		四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二
計		四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三
計		四四	四四	四四	四四	四四	四四	四四	四四
計		四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五	四五
計		四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六
計		四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七
計		四八	四八	四八	四八	四八	四八	四八	四八
計		四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九
計		五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇
計		五一	五一	五一	五一	五一	五一	五一	五一
計		五二	五二	五二	五二	五二	五二	五二	五二
計		五三	五三	五三	五三	五三	五三	五三	五三
計		五四	五四	五四	五四	五四	五四	五四	五四
計		五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五
計		五六	五六	五六	五六	五六	五六	五六	五六

自明治三十一年 半途病氣退學者調 (大正六年三月三十一日調)  
至大正六年

病名	退學人員
腦充血	三
神經衰弱	一八
腸胃衰弱	五
肺病	二
腎臟病	一
乳糜瀉	九
助腸炎	七
肺尖	一
アロイ	一
リチス	一
喘息	一
加答兒	四
氣管支炎	二
脚氣	二
寒胃	一
瘧疾	一
不明	四
計	六一
入學者	一、四九五
退學者	四、一

○學生生徒氏名 (氏名ノ上ニ特ノ字ヲ附スルハ特待生)

○土木工學科

第三學年

特木 庵 了 熊本	有田 久雄 福岡	田上 爲己 熊本
齋藤 弘喜 熊本	城崎 茂四郎 福岡	吉田 岳雄 熊本
堀江 元一 東京	絹笠 半藏 福岡	江上 義郎 福岡
齋尾 壹岐 島取	一万田 七郎 福岡	阿波田 岩太郎 大分
福田 基治 福岡	逆瀬川 堤助 鹿兒島	清田 清次郎 熊本
西田 茂平 長崎	谷口 直一 鹿兒島	彌吉 準一郎 福岡
久保田 秀雄 福岡	前田 長治 和歌山	室賀 勘左衛門 愛知
興格 憲一 宮崎	岡村 彰 福岡	矢野 信彦 愛媛

第二學年

特田 中種 福岡	特笹 田愛亮 山口	吉田 彌七 熊本
----------	-----------	----------

學生生徒氏名

一四五



學生生徒氏名

後藤克己	熊本	後藤啓二	鹿兒島	綾木長術	山口
柳 一大	分	長谷川太一	岡山	佐々木賢	大分
吉村 競	山口	鶴 鶴榮	佐賀	原田兵作	佐賀
竹村勝清	東京	佐竹虎之介	福岡	山下榮士	鹿兒島
杉村治郎	福岡	右橋不二生	福岡	兒島勝己	廣島
瀬井敦雄	熊本	木下基一郎	大分	高村侃介	山口
尾方彦義	大分	平佐悟一	山口	多賀鈴彦	宮崎
石崎信孝	福岡	西田次平	熊本	森永鐵次	佐賀
宮内常憲	愛媛	二宮歐助	福岡	真部要藏	大分
岡本延喜	高知	若林 清	岡山	大寺 惺	熊本
深井隆義	廣島	坂本正雄	兵庫	永吉實文	鹿兒島
林 衡	山口	森 左門	福岡	淺井郁爾	和歌山
徐 鳳	池支那				

第一學年

學生生徒氏名

乘田貞信	佐賀	尾家麟趾	大分	光藤省一	山口
野 矢 清	岡山	中務一馬	山口	井原正辰	熊本
上原武夫	香川	緒方 隆	福岡	沖 鹿藏	福岡
上村博愛	福岡	松瀬夏次	佐賀	小松 繁	熊本
猿渡哲作	福岡	鮫島宗起	鹿兒島	本並藤七	岡山
西島勘兵衛	福岡	楢杜要之助	山口	内藤範壽	熊本
村田三郎	山口	緒方固夫	熊本	大谷治六	山口
大鶴文雄	福岡	市橋一男	大分	中野利國	鹿兒島
水尻倉太郎	廣島	白濱重久	鹿兒島	松 尾 浩	福岡
橋本忠行	熊本	佐 藤 彬	秋田	三官守衛	高知
瀬戸季治	福岡	河井武夫	大分	池 田 繁	熊本
小川源一	長崎	安松惠次	熊本	中邑哲五	廣島
荒木治四郎	佐賀	友近忠美	愛媛	澁谷鐘三	佐賀
岩 尾 新	大分				



○機械工學科

第三學年

特西村雄二山口	吉田隨比古熊本	小池煤雪愛媛
古谷弘高知	中村義一大阪	武田蒸熊本
福岡憲治石川	田副正之熊本	三好輝夫山口
大塚章雄福岡	福田龍一兵庫	佐竹虎暉高知
久富惠造山口	横田鳳五東京	永山巽大分
須藤盾夫福岡	日吉榮一福岡	丹後保熊本
安部勇吉福岡	北村正俊福岡	杉谷光二佐賀
有田一人熊本	久富佛彌彦福岡	岩本喜久市長崎
橋本温乎島根		
第二學年		
特池田熊雄山口	特坂本雪太郎長崎	吉田孝雄福岡
坂口德藏鹿兒島	東芳三大分	伊東嘉八佐賀

大島彪熊本	竹川光鎮島根	柳原茂高知
豐田忠明長崎	田口義太郎福岡	本田啓鹿兒島
岩屋稜彦福岡	竹場露嘉愛媛	白石敏雄滋賀
中村規矩男福岡	原田利吉福岡	石橋金次郎福岡
末次敬太郎長崎	肝付兼易鹿兒島	山本正義大分
龍傳一福岡	山内俊友鹿兒島	小林末吉山口
小堀有介熊本	村田武雄熊本	沖田槌治山口
小田啓藏福岡	小林繁夫廣島	本田芳秋長崎
伊藤耕輔福岡	湯瀬浩熊本	小野國夫福岡
松形正興宮崎	樋口猛福岡	山本一雄新潟
石橋嘉一郎福岡	田島貫吾福岡	江田精鹿兒島
吉田茂巳福岡		
第一學年		
市下達雄熊本	山口富士夫長崎	植木勉大分



學生生徒氏名

野田茂一	福岡	川田爲藏	栃木	高橋熊雄	山口
草野季四郎	山口	岡田二郎	福岡	川邊民夫	鹿兒島
中田逸之兵衛	兵庫	蒲原清佐	賀	薄金夫	福岡
田尻晃實	熊本	澁江不可止	熊本	岡村高治	兵庫
小林平八郎	宮崎	岡本忠雄	島根	平佐六郎	山口
筒井滿	福岡	宮崎政次	佐賀	寺川秀夫	佐賀
岩元正種	鹿兒島	高野博	熊本	杉本實	廣島
友田勇助	福岡	古木丹次	熊本	家入定光	熊本
松尾友義	長崎	池清利	高知	田村太平次	鹿兒島
今坂啓四郎	熊本	檀正登	福岡	井手茂	福岡
奧田永一	京都	黒田正典	福岡	内田鎮敏	福岡
杉本亘三	三重	村上四郎	熊本	古賀澄	福岡
河瀬秀熊	熊本				

○探鑛冶金學科

第三學年

庄野研次	福岡	海谷秀雄	福岡	山内信雄	京都
椿田琢三	廣島	占部保	福岡	松永信雄	福岡
脇正一	香川	有富保	熊本	横溝廣	福岡
小林啓太	福岡	玉名是也	東京	永松正幸	福岡
神崎一郎	福岡	早川正雄	熊本	中島蒙	福岡
堤大吉	福岡	生熊一男	福岡	植村藤藏	鹿兒島
河村新	福岡	江川三男	福岡	村田義行	福岡
筑紫進一	福岡	國分堅	鹿兒島	椿與市	福岡
森重均	山口	田邊海音	佐賀	山田雪三	山口
松浦二郎	岡山	牟田正記	佐賀	益田宗一	福岡
川口益藏	福岡	奥村幸平	熊本		
富依金治	兵庫	坂田勝	福岡	津村信二	熊本

學生生徒氏名

第二學年



藤田博	熊本	松尾茂	太福	岡	深見精	熊本
池田久吉	鹿兒島	惠良武	雄熊	本	森岡末	維佐
內田新八	熊本	神光英	福岡	福富義	助山	口
岩村清	熊本	安永鐵	三郎	熊本	三尾谷	直史
中村勝清	熊本	青木由一	德島	堀田實	三廣	島
村田卯高	知	松倉真一	山口	下川改	造福	岡
柴田覺郎	福岡	石川九十九	大分	井原清	恭佐	賀
深見昇八	福岡	尾本萬壽	雄山口	太田惟	秀福	岡
菅秀雄	愛媛	萩尾良三	熊本	南里伸	一佐	賀
白濱良一	佐賀	石井隆	長熊	本	中島維	勝鹿兒島
前山安彦	鹿兒島	內田益	太郎	福岡		
青木喬	熊本	中石剛	夫高	知	野田角	助佐
林近次郎	福岡	梅津薰	福岡	西一幸	熊本	

第一學年

奧田清生	三重	毛利惣之	熊本	中村健二	熊本
早崎信義	佐賀	和田謙一	秋田	山下光	義福
武藤勉	大分	田中不二	維佐	緒方種	夫福
永井幹一	愛媛	鳥居滿	愛媛	萩野鵬	兵庫
江山圓次	福岡	藤掛永昌	熊本	長尾行	之山口
小森俊郎	佐賀	石橋文基	福岡	大塚佐	五平
雨森亮介	熊本	土岐晃	愛媛	落合靜	廣島
兒玉邦介	鹿兒島	桑原千秋	福岡	松山文	藏熊
猿渡和雄	福岡	近藤正	郎愛媛	香宗我	部泰
古賀朝太郎	福岡	石橋伊之助	福岡	木村彦	市福
稻津惠一	福岡	西村勝次	熊本	平川雅	夫熊
芹田勇一	佐賀				

○撰科生

道路及鐵道 橋梁、石工學 中末郁二 兵庫 橋生工學 神谷政志 福岡







卒業生(土木)

\* 山口作太郎(長崎)  
有光兎茂喜(高知)愛知縣廳土木課

明治三十六年卒業

第五高等學校工學士(同上)

\* 五十嵐 巖(大分)  
田中傳吾(福岡)靜岡縣廳  
松井真太郎(福岡)忠段炭坑(福岡縣嘉穂郡)  
兒玉東一(鹿児島)鹿児島縣廳土木課  
美野君造(大分)茨城縣廳

明治三十七年卒業

第五高等學校工學士(同上)

今中權六(廣島)廣島市國泰寺村二〇ノ三 \* 濱田中男(高知)  
吉原道三郎(福岡)自營(東京府豐多摩郡淀橋町)上村辰人(熊本)三池炭礦(熊本縣玉名郡) 萬田坑(荒尾村)  
杉村德治郎(大阪)兵庫縣明石郡鹽屋

一五六

小林建喜(大分)西部鐵道管理局技術課

十名

河端八郎(熊本)熊本縣廳  
前原重晴(熊本)朝鮮大邱府廳  
二日市貞一(大分)朝鮮清津府廳  
相良 修(鹿児島)中部鐵道管理局  
關 勝馬(大分)九州鐵道管理局  
工務課保線掛

五名

明治三十八年卒業

第五高等學校工學士(同上)

伊藤半太郎(福岡)松山市下水道係  
大石 直(熊本)松江市上水道工事事務所  
\* 大村陶也(兵庫)  
青井辰雄(熊本)西部鐵道管理局  
湊町保線事務所  
秋月榮次(和歌山)朝鮮總督府土木局(朝鮮) 京城出張所  
原田類助(福岡)西部鐵道管理局  
大阪保線事務所  
小田延景(香川)神戸市水道擴張部武田尾工  
營所(兵庫縣有馬郡武田尾)  
和田正一(東京)東部鐵道管理局工務課  
(東京)  
空 闕 茂(福岡)福岡縣浮羽郡柴川村惠利  
島崎行數(福井)朝鮮總督府土木局工務課  
(朝鮮新義州)

十名

明治三十九年卒業

熊本高等工業學校工學士(同上)

\* 一田卓郎(福岡)  
\* 原富猶三郎(福岡)  
高瀬貞雄(熊本)九州鐵道管理局  
熊本保線事務所  
田島丈夫(大分)山東鐵道管理局工務課  
(支那青島)  
中島欽一(佐賀)西部鐵道管理局  
北陸線敦賀保線區  
矢野改  
糸永雄策(大分)九州鐵道管理局  
技術課設計掛  
與田喜知藏(福岡)大阪府廳土木課  
田 崎 修(長崎)富山礦業出張所  
(富山縣中新川郡滑川町)  
築紫又藏(熊本)關東都督府民政部(支那)  
土木課出張所(大連)  
武藤倍雄(熊本)朝鮮總督官房土木局  
仁川出張所

二十名

卒業生(土木)

一五七



卒業生(土木)

一五八

- 村井 茂 (香川) 高松市四濱町一三
- \* 久保田彌太郎 (香川)
- 相澤 一馬 (福岡) 九州鐵道管理局  
工務課設計掛
- 清岡己九思 (高知) 南滿洲鐵道株式會社  
大連築港事務所
- 柴田直道 (福岡) 鐵道院宮崎建設事務所

- 村上義造 (福岡) 九州鐵道管理局  
門司保線事務所
- 福永利行 (高知) 才賀(大坂市東區)  
商會(今福町四丁目)
- \* 荒卷久吾 (福岡)
- 三浦 貢 (大分) 鐵道院工務局保線課  
(東京市麴町區吳服橋)
- \* 進 治 夫 (大分)

明治四十年卒業

熊本高等工業學校工學士 (同上)

十六名

- \* 池末專太郎 (福岡)
- 岡村 淳 (熊本) 南滿洲鐵道株式會社(支那)  
大連築港事務所(大連)
- 若宮榮吉 (熊本) 臺灣總督府鐵道部臺中  
線派出所
- 加藤勝平 (熊本) 自營(熊本市外黑髮村)  
(三間町)
- 田尻駒太郎 (福岡) 遠賀川架(嘉刺縣遠賀郡)  
橋工事係(蓮屋町役場内)
- 中村清磨 (熊本) 病氣靜養中
- 植村倉藏 (福岡) 熊本市八代郡植柳村  
(神戶水道擴張部(神戶市))

- 土肥 隆 (熊本) 山東鐵道管理(支那青島)
- 小山宗雄 (熊本) 川内電氣株式會社  
(鹿兒島縣川内町)
- 貝塚 正 (熊本) 南滿洲鐵道株式會社  
安奉線保線係
- 堅田 務 (熊本) 逕信省電氣局技術課
- 中川已繼 (熊本) 愛媛鐵道株式會社  
(愛媛縣喜多郡大洲町)
- 宗村正義 (熊本) 千葉縣農耕地整理課
- 山田 一 (福岡) 大分縣廳

松原改

小西政喜 (大分) 千葉縣農耕地整理課

\* 比志島源一郎 (鹿兒島)

明治四十一年卒業

熊本高等工業學校工學士 (同上)

二十五名

- 伊藤文雄 (福岡) 山梨縣廳土木課
- 花井卯一 (又知) 四日市築港事務所  
(三重縣四日市)
- 西 亮 一 (福岡) 鐵道院米子保線事務所  
(鳥取縣米子町)
- 小田秀吉 (長崎) 鐵道院工務局設計課
- 加藤三十郎 (福岡) 熊本電氣株式會社
- \* 葭原乙五郎 (福岡)
- 吉山 盛 (熊本) 小樽港灣修築事務所  
駒吉改
- 武富憲時 (佐賀) 德島縣廳
- 久布白兼治 (佐賀) 臺灣總督府土木部出張所  
(臺灣基隆仙洞庄)
- 山口義彦 (熊本) 富山電氣株式會社  
(富山市星井町)
- 松田健作 (山口) 橫濱埋立株式會社出張所  
(橫濱市山手町一八七)

- 原 篤太郎 (福岡) 旅順旭日川町一番二
- 西本新次 (高知) 高知大林區署
- \* 時枝信次郎 (福岡)
- 小島盛太郎 (高知) 東京市水道擴張事務所
- 川野是茂 (大分) 熊本市外横手村一〇一一
- 吉岡吾一 (佐賀) 青島軍政署土木課(支那)  
(青島)
- 高松信明 (熊本) 熊本市役所
- 野方寅吉 (佐賀) 朝鮮總督官房土木局工務所  
(朝鮮鎮南浦)
- 山口倫三 (佐賀) 九州鐵道管理局工務課設計  
(門司)
- 山本三郎 (福岡) 九州鐵道管理局鳥栖保線區
- \* 肥塚 典 (熊本)

卒業生(土木)

一五九



卒業生(土木)

相 良 守 (大分) 新潟縣廳  
城崎 千駿 (福岡) 北海道廳土木部

明治四十二年卒業

熊本高等工業學校工學士 (同上)

井口 眞造 (廣島) 兵庫縣廳土木課  
岩崎 正徳 (宮崎) 木浦水道水務工務所  
大澤 準一 郎 (栃木) 朝鮮全羅南道務安郡三鄉兩山洞  
川谷 藤男 (大分) 大藏大臣官房臨時建築課  
吉光 平一 (大分) 横濱出張所  
\* 横山 與五郎 (福岡) 大分市上野町鐵道院官會  
中 井 積 (島根) 鐵道院多度津建設事務所  
坂本 一平 (大分) 愛媛縣廳土木課  
吉 良 堯 (大分) 鐵道院新津保線事務所  
進 藤 政 (宮崎) 新瀨縣新津町  
島根縣廳土木課濱田港修築工場

一六〇

菊池 幹實 (熊本) 宇和島水電株式會社  
(愛媛縣宇和島町)

十九名

古閑改  
伊藤 敬之 (熊本) 九州鐵道管理局工務課設計  
富田 直次 (熊本) 西郡鐵道管理局  
大木 房男 (大分) 大阪保線事務所  
川 勝 忍 (長崎) 九州鐵道管理局大分保線區  
米川 敬治 (熊本) 佐世保海軍經理部建築科  
園田 中太郎 (大分) 古川合名會社足尾鐵業所  
上原 惠迪 (沖繩) 工務課(栃木縣足尾)  
\* 佐賀 政光 (大分) 臺灣總督府鐵道部  
宮邊 三夫 (熊本) 臺灣花蓮港

修業證書ヲ授與セシ者

マーシヤノ、トーマス (比律賓)

明治四十二年卒業

工學得業士 (熊本高等工業學校)

池田 伊一 (佐賀) 三井礦山(東京市日本橋區)株式會社(駿河町一丁目)  
伊集院 八郎 (鹿兒島) 九州鐵道管理局熊本保線事務所  
西岡 利八 (佐賀) 高松市水道布設事務所  
小田 清次 (鹿兒島) 高田商會大(福島縣耶麻郡)寺製鍊所(輪棉村大寺)  
沖永 紘治 (福岡) 朝鮮總督官房土木局京城出張所(京城)  
河野 幸雄 (熊本) 九州鐵道管理局博多保線區  
竹川 美定 (島根) 南滿洲鐵道株式會社(支那)社技術局保線課(大連)  
能美 光男 (大分) 橫濱水道局四谷淨水場(三浦改)  
山領 貞二 (佐賀) 南滿洲鐵道株式會社(支那)社奉天保線係(滿洲)  
松田 八郎 (佐賀) 若松市役所土木課(福岡縣)

卒業生(土木)

名

二十九名

入江 矩夫 (愛媛) 樺太廳內務部臨時警務事務所  
橋本 靜香 (長崎) 關東都督府民政部(支那)土木課出張所(大連)  
\* 大坪 昇 (大分)  
岡部 保人 (熊本) 佐世保海軍經理部建築科船渠工場  
加藤 要一郎 (靜岡) 三池炭礦建築科(大牟田市)  
龜井 孝太郎 (福岡) 福岡市大名町九八  
中倉 信之 (福岡) 大分縣廳土木課第五土木管(大分縣下毛)區事務所  
八尋 確一 (福岡) 九州水力電氣株式會社(福岡市)  
山崎 利雄 (長崎) 九州水力電氣株式會社(福岡市)  
福田 弘 (熊本) 三重縣廳



福留 正 鹿(高知) 富山縣廳土木課  
 小宇佐勘十郎(大分) 宮崎縣廳  
 最勝寺辰二(鹿兒島) 朝鮮總督官房土木局工務課  
 木村 純 平(佐賀) 佐賀縣小城郡晴田村大字  
 晴氣三九三  
 森田 一 郎(福岡) 栃木縣廳土木課

古賀 文 吾(佐賀) 鹿兒島縣廳內務部第四課  
 赤星 梅 吉(熊本) 九州鐵道管理局  
 熊本保線事務所  
 岸本 義 廣(鳥取) 利根川改修工事場  
 (群馬縣佐波郡島村)  
 下津 美 行(熊本) 松山市下水道築造事務所

修業證書ヲ授與セシ者

二 名

山 田 實(大分) 田川炭坑(福岡縣)  
 土木事務所(田川郡)

松島 義 三郎(熊本) 臺灣製糖株式會社  
 (臺東廳卑南街)

明治四十三年卒業

工學得業士(同上)

二十八名

伊東 祐 介(鹿兒島) 九州鐵道管理局都城保線區  
 堀山 力 熊(山口) 九州鐵道管理局  
 技術課設計掛  
 秋岡改  
 豐 田 哲 夫(熊本) 熊本縣廳(八代土木管)  
 土木課(區事務所)  
 渡邊 英 隆(岡山) 內務省大阪土木  
 出張所安治川渡(大阪市西  
 淀見張所)  
 田沼改  
 田 村 慶 雄(栃木) 東京市芝區君塚町一八

岩本 孝 夫(大分) 大分縣廳土木課  
 鳥 居 潮(熊本) 臨時海軍建築(朝鮮)  
 部支部(鎮海)  
 岡村 一 彦(熊本) 九州鐵道管理局  
 吉松保線區  
 應取改  
 吉 田 傳 七(福岡) 九州鐵道管理局  
 工務課設計掛  
 中島 健 吉(長崎) 京城工業專門學校(朝鮮)

村木 武 雄(東京) 東京市電氣局工務課軌道係 \* 上田 貞 雄(福岡)  
 野田 林 太郎(和歌山) 芦屋川改修(兵庫縣)  
 事務所(武庫郡)  
 山口 申 七(鹿兒島) ワヤ島礦會社  
 (東京麹町區有樂町一ノ一)  
 眞 隅 隆 介(福岡) 遞信省電氣局技術課(東京) \* 松本 重 知(大分)  
 藤井 滋 香(山口) 鹽釜築港事務所  
 後藤 量 介(愛知) 福井縣廳土木課  
 有吉 大 藏(福岡) 四郡鐵路局(支那滿洲四平街)  
 三 浦 巍(愛媛) 小倉市八百屋町鐵道院官舎  
 \* 秀 德 廣(福岡)

山口 小 六(佐賀) 中部鐵道管理局工務課  
 電力係  
 山岡 信 吾(鹿兒島) 山梨縣廳土木課  
 \* 松本 重 知(大分)  
 古川 運 造(佐賀) 桂川電力株式會社土木課  
 (東京京橋區銀座三丁目二乙)  
 小嶋 達 太郎(東京) 富山縣射水郡新添町  
 有元 岩 鶴(山口) 東京市役所橋梁課  
 內務省東京土木出張所  
 島 雅 義(大分) 田中工區  
 (千葉縣東葛飾郡田中村)  
 森安 功 成(香川) 內務省土木局

明治四十四年卒業

工學得業士(同上)

三十一名

石村 長 七(岡山) 南滿洲鐵道株式會社  
 安奉線本溪湖保線掛  
 原田 英 二(鹿兒島) 內務省東京土木出張所  
 所栗橋工區事務所(埼玉縣  
 栗橋町)  
 德弘 春 美(高知) 熊本高等工業學校

若尾 易 治(大分) 病氣(大分縣日田郡日)  
 靜養中(田町豆田四四一)  
 富松 幸 登(福岡) 三池炭礦建築科(大牟田市)  
 近野 留 三郎(滋賀) 東京電氣株式會社建設課  
 (神奈川縣川崎町)



- 荻野 亨 (岡山) 四郎鐵路局(支那滿洲四平街)
- 吉山 愛一 (山口) 朝鮮總督府鐵道局  
太田建設事務所
- 高田 廣 (福岡) 內務省東京土木出張所  
川改修金野井派出所
- 田原 正則 (熊本) 內務省下關土木出張所
- 大黒 由藏 (徳島) 島工務(神戸市下山手通四)  
所(丁目一二七ノ三)
- 坪根 守利 (福岡) 大分縣廳土木課
- 宇都宮 正登 (愛媛) 愛媛縣廳土木課
- 山本 廣一 (和歌山) 兵庫縣廳土木課
- 牧野 潔 (愛媛) 內務省土木局調査課
- 古賀改  
松谷 勇治 (福岡) 九州鐵道管理局工務課設計係
- 最勝寺 平 (鹿児島) 內務省土木局調査課
- \* 柴田 義作 (京都)
- 虞 愚 (支那) 四郎鐵路局(支那滿洲四平街)
- 河村 眞治 (福岡) 宮崎縣廳土木課
- 吉田 次郎 (佐賀) 青島軍政署(支那青島)
- 田吹 行雄 (大分) 內務省土木局調査課(東京)
- 田中 恒雄 (佐賀) 鐵道院米子建設事務所
- 園田 光雄 (熊本) 南滿洲鐵道株式會社公主嶺  
保線係(支那滿洲)
- 上野 正一 (熊本) 熊本縣廳(支那北水俣町)  
土木課(江添縣道改修)  
事務所
- 山本 格 (岡山) 神戸水道擴張部第一出張所
- 山田 安藏 (鹿児島) 在米國
- 丸林 茂郎 (福岡) 九州鐵道管理局  
遠賀川聯官舎
- 深草 潔 (熊本) 舞鶴海軍經理部建築科
- 三浦 鶴彦 (熊本) 栃木縣廳土木課
- 篠川 辰次 (熊本) 內務省廣賀川改修事務所  
(茨城縣古河町)

修業證書ヲ授與セシ者

名

天野 忠延 (長崎) 三重縣廳

明治四十五年卒業

工學得業士 (同上)

二十二名

- 岩田 實 (京都) 鐵道院敷設建設事務所
- 濱崎 惣五郎 (熊本) 鐵道院山口建設事務所  
(山口縣山口町)
- 越智 望 (愛媛) 鈴木商店鐵業部(岡山縣兒島)  
日比製鍊所(郡日比町)
- 田中正 幹 (高知) 東部鐵道管理局  
技術課設計係
- 田代 秀吉 (長崎) 朝鮮平安南道廳(朝鮮)  
第一部土木係(平壤)
- 村井 佐八 (熊本) 鐵道院大分建設事務所
- 山地 勇 (熊本) 內務省土木局大阪土木出張  
所(吉野川工事)事務所
- 安西 榮太郎 (福岡) 福岡市役所水道部
- 松本 好 (福岡) 臺灣總督府土木局工務部
- 江島 爲藏 (福岡) 鐵道院宮崎建設事務所
- 境 治 義 (福岡) 熊本縣菊池郡瀨田村  
鐵道院官舎
- 稻垣 宗之 (愛知) 支那滿洲大石橋宣武街  
滿鐵社宅
- 太田 壽 (熊本) 內務省土木出張所(下關市)  
野田尻工場(外瀬町)
- 川上 伍七 (熊本) 鐵道院大分(大分市大分停)  
建設事務所(官舎名ノ七)
- 樽谷 萬治 (福岡) 遠賀川改修(福岡縣田川郡)  
糸田工事場(糸田村)
- 田邊 貢 (熊本) 兵庫縣廳土木課
- 魚住 明治 (香川) 青島軍政署(支那青島)
- 山邊 芳雄 (佐賀) 東京市役所臨時下水改修課
- 益田 良彦 (福岡) 高梁川改修工事(高梁郡)  
(岡山縣都窪郡)
- 古賀 壽一 (佐賀) 和歌山縣廳土木課
- 江藤改  
天草 盛長 (熊本) 宮崎縣廳土木課  
(飯肥土木出張所)
- 三原 嘉平 (熊本) 鐵道院多波津建設事務所

卒業生(土木)

一六五



大正二年卒業

工學得業士(同上)

原 一 道(熊本)九州鐵道管理局  
 堀江幾二郎(愛媛)三池炭礦建築科(大牟田市)  
 富 安 寛(福岡)福井縣小濱町第四土木工區  
 吉武欣太(山口)山口縣佐波郡防府町  
 三田尻二八七  
 田代 定(熊本)日本窒素肥料株式(熊本縣基北)  
 式會社水俣工場(郡水俣町)  
 上野 一 雄(福岡)朝鮮鐵道局會署工事掛  
 (朝鮮咸鏡北道)  
 山井信一(山口)三池炭礦建築科(大牟田市)  
 藤原琢而(福岡)松江市水道水源工場  
 (島根縣八束郡)  
 寺 田 甫(熊本)長崎縣廳土木課  
 (長崎土木管區事務所)  
 宮下榮二(鹿兒島)九州鐵道管理局  
 鹿兒島保線區  
 修業證書ヲ授與セシ者  
 與倉幸 義(鹿兒島)長崎縣廳長崎土木管區事務所

二十名

林 紀 彦(熊本)大分縣廳土木課  
 富田 良成(熊本)神戶市水道擴張部  
 第二出張所  
 甲斐隆之(熊本)內務省仙臺土木出張所  
 田中三郎(長崎)製鐵所建築科(八幡市)  
 園田俊明(熊本)奈良市役所水道課  
 山田登次郎(宮崎)吳海軍經理部建築科  
 矢部喜年(大分)九州鐵道管理局  
 鳥栖保線事務所  
 江里口五郎(佐賀)九州鐵道管理局  
 熊本保線事務所  
 荒木惠三郎(熊本)鹿兒島縣廳土木課  
 重 富 潔(宮崎)見立嶺山(宮崎縣四日村)  
 (郡岩戸村)

大正三年卒業

工學得業士(同上)

早島美彦(大分)九州鐵道管理局  
 門司保線事務所  
 小山五次郎(熊本)長崎造船所(長崎市)  
 建築係(飽浦)  
 金子弁一(福岡)內務省東京土木出張所  
 荒川改修平井派出所  
 吉田常次(佐賀)東洋コンプレツ(東京)  
 ソル株式會社(丸ノ内)  
 田邊 礎(山口)京鐵道廳土木課(朝鮮)  
 筒井 圓(福岡)製鐵所修築科(八幡市)  
 內山秀信(熊本)製鐵所(福岡縣八幡市)  
 草野源八郎(熊本)內務省東京土木(千葉縣東)  
 出張所田中工區(葛飾郡)  
 松本 一 郎(佐賀)青島軍政署土木課  
 (支那青島)  
 松 永 篤(熊本)石三鐵道(山口縣防府町)  
 株式會社(三田尻)  
 藤野 確(福岡)製鐵所二瀬(福岡縣)  
 出張所(嘉穂郡)  
 後藤 貢(熊本)三菱直島製煉所建設事務所  
 (香川縣香川郡)

二十七名

本間宗三(福岡)北海道廳土木部  
 釧路土木出張所  
 大石多喜夫(福岡)長崎縣廳土木課  
 佐世保土木管區  
 交野清一(熊本)臺灣總督府鐵道部  
 嘉義保線派出所  
 竹村三勝(熊本)臺灣總督府土木局土木課  
 樂川雄介(鹿兒島)九州鐵道管理局八代保線區  
 上羽重人(熊本)熊本大林區署  
 黑宮富四郎(熊本)內務省東京土木出張所  
 江戸川改修事務所  
 (千葉縣野田町)  
 松枝久太郎(福岡)南滿洲鐵道株式會社(支那)  
 大連築港事務所  
 松浦康秋(福岡)福岡縣廳(北野町第二土)  
 土木課(木管區事務所)  
 前田信隆(熊本)熊本電氣株式(熊本縣菊池)  
 會社出張所(郡瀬田村)  
 藤野 清(福岡)九州電氣軌道株式會社電氣  
 試驗室(小倉市)  
 小林義一(佐賀)北海道廳釧路築港事務所



卒業生(土木)

\* 江頭唯一 (福岡)

宮村光藏 (山口) 北海道廳土木部留萌土木派出所

大正四年卒業

工學得業士 (同上)

原 慎 藏 (福岡) 九州鐵道管理局 門司保線事務所  
 德本一貫 (愛媛) 朝鮮大邱府廳土木係  
 奥田 周 (長崎) 南滿洲鐵道株式會社 奉天保線係  
 梶原景雄 (熊本) 橫濱市水道西谷淨水場  
 谷山喜一 (長崎) 豊國炭坑土木係 (福岡縣田川郡赤田村)  
 津田 等 (山口) 相知炭坑(佐賀縣東松浦郡)  
 永戸榮明 (愛媛) 愛媛縣廳土木課  
 野口圭亮 (山口) 朝鮮仁川本町四丁目松尾方  
 八尋清彦 (福岡) 三池炭礦建築科(大牟田市)  
 後藤龍雄 (熊本) 製鐵所工務部建築科 (八幡市)

一六八

西津菊郎 (佐賀) 九州鐵道管理局 鳥栖保線事務所

三十名

戸田 弘 (愛媛) 逓信省臨時調查局  
 富田伍鹿 (熊本) 信濃川改修(新潟縣西蒲原) 地蔵堂工場(郡地蔵堂町)  
 脇田謙吾 (大分) 大分縣廳土木課  
 田中重二 (宮崎) 南滿洲鐵道株式會社 技術局保線課  
 只限 勳 (鹿児島) 鹿児島縣日置郡吉利村 一四八  
 中津光藏 (山口) 京都市宇治郡山科村字花山 鐵道院工事掛  
 村上勝藏 (熊本) 內務省新潟土木出張所 信濃川改修工事事務所  
 草野 弘 (佐賀) 千葉縣耕地整理課  
 松尾重治 (福岡) 久原礦業株式會社出張所 (福岡縣月畑町)  
 寺田平治 (長崎) 西部鐵道管理局德島保線區

麻生幹雄 (大分) 內務省土木局調査課  
 佐々木齊治 (大分) 博多灣築港(福岡市東) 株式會社(中洲町)  
 三浦久藏 (福岡) 北方工兵第十二大隊第一中隊一年志願兵  
 志内時彦 (熊本) 三菱田炭坑 (福岡縣嘉穂郡)  
 島田善稻 (高知) 上野崎橋工營所 (德島縣名東郡)

修業證書ヲ授與セシ者

中村又一 (佐賀) 朝鮮慶尙北道廳土木部

大正五年卒業

工學得業士 (同上)

岩永彌榮 (熊本) 朝鮮總督府土木局  
 大塚松己 (佐賀) 佐賀市大字松原町八五  
 梶浦正武 (兵庫) キリンビール株式會社(兵庫縣) 社工場建築事務所(川邊郡)  
 吉積勝人 (福岡) 北方工兵第十二大隊第三中隊一年志願兵  
 高木紫雲 (福岡) 三池炭礦(大牟田市)

卒業生(土木)

安部源三郎 (福岡) 三井田川炭礦第三坑 (福岡縣田川郡)  
 宮地直樹 (廣島) 病氣療養中 (德島市寺町鐵道院官舎)  
 三浦亮吉 (大分) 橫濱市水道西谷淨水場  
 志村 眞 (大分) 北方工兵第十二大隊第一中隊一年志願兵  
 諸岡明七 (佐賀) 臺灣臺中廳土木課

一 名

二十五名

西岡貞喜 (熊本) 臺灣嘉義廳土木係  
 柏原辰雄 (熊本) 熊本縣下益城郡小川町大字 小川一〇四  
 四本兼雄 (宮崎) 東部鐵道管理局  
 高木小二郎 (福岡) 東京下千駄ヶ谷九〇二  
 立川大市 (福岡) 鐵道院工務局

一六九



卒業生(土木)

中村又七郎(福岡)九州水力電氣株式會社日田營業所(大分縣日田郡)  
 上床義隆(鹿兒島)朝鮮平安南道廳土木課  
 矢賀部狷介(福岡)內務省土木局下關出張所  
 遠賀川改修工事事務所  
 古開癸巳生(熊本)南滿洲鐵道株式會社  
 是石登(福岡)北方輜重兵第十二大隊第一中隊一年志願兵  
 木脇祐吉(鹿兒島)千葉鐵道聯隊第一中隊一年志願兵  
 右田七郎(熊本)三池炭礦(大牟田市)  
 森友雄(熊本)舞鶴海軍經理部建築科

修業證書ヲ授與セシ者

八谷改  
 川井幸二郎(佐賀)臺灣臺北鐵道部官舎子第二六號  
 大正六年卒業

工學得業士(同上)

石井種實(福岡)九州鐵道管理局  
 熊本保線事務所  
 早野松次(熊本)九州鐵道管理局  
 門司保線事務所

一七〇

上野英治(長崎)愛知縣廳  
 栗原二男(熊本)熊本縣鹿本郡內田村大字  
 山内二五三九  
 松尾英敏(熊本)久留米工兵第十八大隊第二中隊一年志願兵  
 近藤茂勝(愛媛)千葉鐵道聯隊第四中隊一年志願兵  
 江頭嘉六(佐賀)大阪市役所土木課下水係  
 溝淵進(香川)九州鐵道管理局  
 熊本保線事務所  
 下村善三郎(福岡)福岡縣廳農林課耕地整理

二名

森山勝之助(長崎)長崎縣西彼杵郡長興村  
 丸田郷五〇六

三十一名

石田喜一郎(佐賀)高島炭坑(子坑)  
 (長崎縣四彼杵郡)  
 原田亮太郎(佐賀)南滿洲鐵道株式會社  
 技術局土木課

堀清(大分)大分縣直入郡竹田町大字  
 竹田八六二  
 片山一(熊本)熊本縣菊池郡岩村大字  
 水次一三六四  
 樞野亮太郎(和歌山)和歌山縣東牟婁郡新宮町  
 七九八四  
 武井外一(福岡)南滿洲鐵道株式會社保線課  
 喬(大分)九州鐵道管理局工務課  
 植木到(大分)三池炭礦(大牟田市)  
 山田茂治(長崎)東部鐵道管理局  
 藤田英助(山口)山口縣吉敷郡大内村大字  
 矢田一六四  
 小森田儔(熊本)朝鮮總督府鐵道局  
 衛藤正規(大分)熊本電氣株式會社出張所  
 熊本縣菊池郡水源村字原  
 齊藤諫(熊本)佐世保海軍經理部建築科  
 佐藤克孝(熊本)九州鐵道管理局  
 門司保線事務所  
 諸富鹿藏(福岡)九州鐵道管理局  
 鳥栖保線事務所  
 森菊市(長崎)南滿洲鐵道株式會社(支那)  
 會社立山製鐵所(大連)

卒業生(土木)

一七一

川上謙太郎(熊本)臺灣總督府土木局  
 金子武人(山口)山口縣吉敷郡井關村大字  
 赤迫九六四  
 吉本善市(愛知)三菱新入炭坑  
 (福岡縣鞍手郡)  
 田添忠太郎(熊本)日立鐵山事務所工作課  
 (茨城縣多賀郡)  
 永戸三郎(熊本)熊本縣上益城郡瀧川村大字  
 瀧川一八八  
 矢野常一(愛媛)九州鐵道管理局  
 熊本保線事務所  
 松瀬政八(佐賀)佐賀縣小城郡東多久村大字  
 納所三一八  
 小城末喜(大分)鐵道院工務局  
 古藤喜平(福岡)東部鐵道管理局  
 安樂兼久(鹿兒島)熊本電氣株式會社出張所  
 熊本縣菊池郡瀧田村  
 佐藤直(大分)九州鐵道管理局工務科  
 元永重義(大分)東部鐵道管理局工作課  
 門司武久(福岡)福岡縣廳土木課